

理事長あいさつ



理事長
鬼頭翔雲

創立八十周年記念イベント 「いっしょ懸命 楽しもう書」

会場における理事長挨拶

平成二十六年五月二十五日(日)
名古屋栄 オアシス21「銀河の広場」

皆さんこんにちは。
今日は大勢の皆さんにお集まりいただきありがとうございます。

私も中日書道会は今年創立八十周年を迎えました。この長い歴史の中には中日書道会のために献身的なご苦労ご尽力を賜った多くの先生がいらっしゃいます。衷心より感謝申し上げます。

現在中日書道会は東海三県を中心として会員数四、七〇〇名を数える中部地区最大の書道団体であり、中日書道会名誉会長には元内閣総理大臣海部俊樹先生をご推戴申し上げます。

さて、きょうの本会創立八十周年記念イベントは「いっしょ懸命・楽しもう書」と銘うって開催しております。

既に午前中には中日書道会そして日本の書壇を代表する八名の先生方がこのステージでご揮毫くださいました。ここに並べられた作品がそうであります。また、本会幹部の人たちがこのフロアにて5m×8mという大作に挑戦しました。

それから小中学生の皆さんも大きな紙にチャレンジしてくれました。

外国の留学生もエイ！ ヤー！ とやってくれました。皆、素晴らしい書きぶりでした。今日、今からは本日の特別ゲスト、世界フィギュア選手権で二度優勝された安藤美姫さんが登場します。

今日は書のイベントです。安藤美姫さんは書の大作を演技、披露してくれます。そのあとは、この中部地区の高校・大学の書道部の皆さんによる団体戦・書の大パフォーマンスが行われます。

観客の皆さん！ ぜひ暖かいご声援、応援をお願いします！

最後にもう一つ、今日、私たちはIT・パソコン・携帯の時代、効率化の時代に生きています。そのために手書き文字が生活から少し離れつつあるかもしれません。今日、お越しの皆様、子供たちから大先輩の皆様、もう一度、手書き文字、書の魅力、書の楽しさを発見し、味わってみませんか！

中日書道会の先生は素晴らしい方ばかりです。今日の出会いをよき機会として書を楽しむ人たちが増えることを切に願っています。皆様、午後のイベントもしっかり楽しんで下さい。

有難うございました！

御 礼

去る五月二十五日(日)名古屋栄・オアシス21「銀河の広場」におきまして本会創立八十周年を祝して記念イベントを開催しました。

当日は天候にも恵まれ、終日、多くのご来場をいただくことが出来ました。準備の段階から事務局部長、次長、委員をはじめとして多くの方々のご協力を戴きました。

又、出場して頂きました小・中学生、外国からの留学生、高校・大学の書道部の皆さんに素晴らしいパフォーマンスをして頂きました。当日は無事、盛況裡に終了することができました。会員の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

本会名誉顧問に 大村 秀章 愛知県知事を推戴



皆様、こんばんは。愛知県知事の大村秀章でございます。本日は、中部日本書道会の総会・懇談会ということで、

ご盛會おめでとうございます。この天守の間が端から端まで、見えないくらいですね、たくさんの方でいっぱい、素晴らしい会だと思えます。心からご盛會のお祝いを申し上げます。

昭和九年にですね、スタート以来、この書道の普及、そして書道芸術の高揚に向けた活動を精力的に展開されておられます。今年、中部日本書道会、創立八十周年を迎えたということでございまして、関係の皆様から敬意と感謝を申し上げる次第でございます。また、中日書道展におきまして、入賞・入選に輝かれた皆様、そしてこれまでのご功績により、功労者表彰を受賞された皆様、そして今年三月に愛知県芸術文化選奨文化新人賞の栄誉に浴されました後藤啓太様はじめ、関係の皆様から心からお祝いを申し上げます。

この度のご受賞は、皆様方これまで積み重ねてこられた努力の結晶でございます。今後ともご敬意を表したいと思います。今後ともご精進をいただきます。更に技・表現力を磨かれ、一層ご活躍をされますことを心からご祈念を申し上げます。

また、中部日本書道会におかれましては、例年四千点以上の出展がある中日書道展の開催の他、先日フィギュアスケートの安藤美姫さんをお招きされて、書道の楽しむことができたイベントを開催されるなど、幅広い世代

を対象とした書道の振興にもご尽力をいただいております。こうした活動を八十年やってこられたということでございますので、心から敬意と感謝を表す次第でございます。文化・芸術はですね、まさに人間でなければできない営みでございます。この文化芸術をこの愛知・名古屋の力、さらに大きく盛り上げていきたいと思っておりますし、また三年に一回現代アートの愛知トリエンナーレというのもやっておりますが、去年、大盛會に終わりました。そういうことも含めて文化・芸術をさらに盛り上げていきたいと思っております。

また、私今日ちょっと遅くなりましたのは、浜名湖に行つて参りまして、浜名湖花博の閉会日でございます。そこで、閉会式に行つて、大会のフラッグを受けとつて来ました。来年早いものでですね、二〇一五年、愛知万博十周年ということでございます。二〇一〇五年です。もう九年経つて、来年が十年ということでございます。来年は愛知万博の十周年の記念の都市緑化フェアというのを万博記念公園で、九月十二日から十二日八日まで二か月近く行います。従いまして、来年また万博十周年記念の色んな行事とか盛り上げということがあろうかと思いますが、また中日書道会の皆様にも是非ですね、来年に向けて色んな盛り上げを一つよろしくお祈りを申し上げます。

いづれにいたしましても、中日書道会の八十周年、心からお祝いを申し上げます。また皆様方にはこれからも皆様自身の芸術活動の発展はもとより、後進の育成、そして書道芸術・書道文化のますますのご発展に向けて、ご尽力をされますように、心からご祈念申し上げます。

本日の総会・懇談会のご盛會をお祝い申し上げます。ますますのご発展をご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。本日は、誠にありがとうございました。ありがとうございました。

祝賀懇談会挨拶より

祝賀懇談会に一、二二一名の参加

厚生部長 小島 瑞 柳

平成二十六年六月十五日(日)、ウエスティンナゴヤキャッスル天守の間に於いて、平成二十六年度総会、第六十四回中日書道展祝賀懇談会が開催されました。弦楽四重奏の美しい調べの中、関根玉振副理事長の開会の言葉で八十年を祝う盛大な宴が始まりました。

まず最初に、ご都合で欠席されました海部俊樹名誉会長よりのお祝いのメッセージを、安藤滴水名誉副会長が代読され、「八十年間という目出度い席に出席出来ない事、残念です。五十年の長き間お仲間に加えて頂き、その時々リーダーに多くを教えられ先人達の志しに支えられた。今ここに居る人達がこれからの中日書道会を支えて下さい。」と、温かいお言葉を賜りました。

次に来賓の皆様を代表して、愛知県知事大村秀章様より、「書道文化の増々の発展にご尽力下さい。私も

文化芸術を更に盛り上げて行きたい。」とのお言葉を戴きました。次に、中日新聞社常任顧問の小山勇様より、「オアシスでのイベントは、書道に近づける素晴らしい催しでした。勢力拡大にこれからもお手伝いします。」又書道文化研究家の西嶋慎一様よりは、「中日書道会の社会性を深め、世間に広げて行く事が大事なポイントです。」とのそれぞれ熱いお言葉を戴き、会員一同真摯に受け取りました。

続いて、この度愛知県芸術文化選奨文化新人賞を受賞された、評議員の後藤啓太先生に、樽本樹郎名誉副会長より花束と記念品が贈呈されました。

そして、東海テレビ放送専務取締役河合信明様、「会場の熱気、パワーは八十年の重みを感じた。」との力強い乾杯のご発声で、いよいよ祝宴が始まりました。今年も、ご長寿お祝い顕彰者九人がご紹介され、樽本樹郎名誉副会長よりお花と記念品が贈呈され、参加者一同に力を頂きました。

二時間余りの宴も、松永清石副理事長の閉会の辞により、一、二二一名ものご出席を頂きました祝賀懇談会を、盛大なうちに無事終える事が出来ましたこと、皆様に深く感謝申し上げます。



祝辞 西嶋慎一氏



祝辞 大村秀章氏



乾杯 河合信明氏



祝辞 小山 勇氏



愛知県芸術文化選奨文化新人賞 後藤啓太氏

祝賀懇談会ご来賓出席者名簿

本会名誉顧問	愛 知 県 知 事	大村秀章様
本会名誉顧問	愛知県芸術文化センター総長	神田真秋様
本会名誉顧問	衆 議 院 議 員	近藤昭一様
本会名誉顧問	衆 議 院 議 員	江崎鐵磨様
本会名誉顧問	中日新聞社常任顧問	小山 勇様
本会名誉顧問	書 道 文 化 研 究 家	西嶋慎一様
本会名誉顧問	中日新聞社取締役事業担当	森 要造様
本会名誉顧問	中日新聞社取締役事業担当	太田宏次様
本会名誉顧問	東洋医学研究財団理事長	塚本三郎様
本会名誉顧問	元 衆 議 院 議 員	井戸義郎様
中日新聞社事業局長	中日新聞社事業局長	山口宏昭様
中日新聞社事業部長	中日新聞社事業部長	垣尾良平様
中日新聞社文化事業部次長	中日新聞社文化事業部次長	久田 到様
中日新聞社文化センター部長	中日新聞社文化センター部長	西原健二様
中日新聞社広告局広告二部長	中日新聞社広告局広告二部長	磯部 真様
中日新聞社広告局広告二部次長	中日新聞社広告局広告二部次長	加藤雅範様
中日新聞社文化事業部	中日新聞社文化事業部	杉本研介様
東海テレビ放送専務取締役	東海テレビ放送専務取締役	河合信明様
東海テレビ放送事業局専門局長	東海テレビ放送事業局専門局長	加藤昭宏様
東海テレビ放送事業局プロデューサー	東海テレビ放送事業局プロデューサー	坪内正恭様
「墨」編集委員・出版部長	「墨」編集委員・出版部長	太田文子様
読売新聞東京本社編集委員	読売新聞東京本社編集委員	菅原教夫様
（日展会員・謙慎常任理事）	（日展会員・謙慎常任理事）	河野 隆様
司 法 書 士	佐久間太熙堂専務取締役	佐久間基晴様
司 法 書 士	佐久間太熙堂専務取締役	奥水城治様
税 理 士	佐久間太熙堂専務取締役	谷田義弘様

(順不同)

平成26年度 功 勞 者 ・ 感 謝 状 表 彰

〈功勞者表彰〉

永年公益社団法人中部日本書道会に、ご尽力を賜りました先生方に、功績を讃え、功勞者表彰をいたしました。また創立八十周年に際し、本会参与の渡辺石鼓先生より、過分なるご芳志を頂戴いたしました。

会員の皆様にご披露致しますと共に、本会より感謝状を贈ります。

副理事長 伊藤 昌石
事務局長 伊藤 昌石

常任顧問
故 伊藤 天游氏



参与
故 樹神 北往氏



常任顧問
故 高木 大宇氏



参与
故 高木 紅宇氏



顧問
故 飯田 棲山氏



参与
故 森 怜華氏



平成26年度 功勞者表彰

〈感謝状表彰〉

参与

渡辺 石鼓氏



ご長寿お祝い

満八十八歳、九十歳、九十五歳以上の方々に懇談会に出席された方々は次のとおり。

- 参与 位田 美千
- 参与 高須 大河
- 参与 中川 京童
- 正会員 榎原 悠園
- 評議員 清 芳園
- 評議員 久田 宏道
- 評議員 保田 翠溪
- 正会員 竹内 春柳
- 正会員 田中 婦左子



祝賀懇談会へ出席のご長寿の方々

公益社団法人中部日本書道会 創立80周年記念イベント

いっしょに書道を楽しもう！

日時 5月25日(日) 午前10:00～午後3:30
場所 栄 オアシス21 銀河の広場



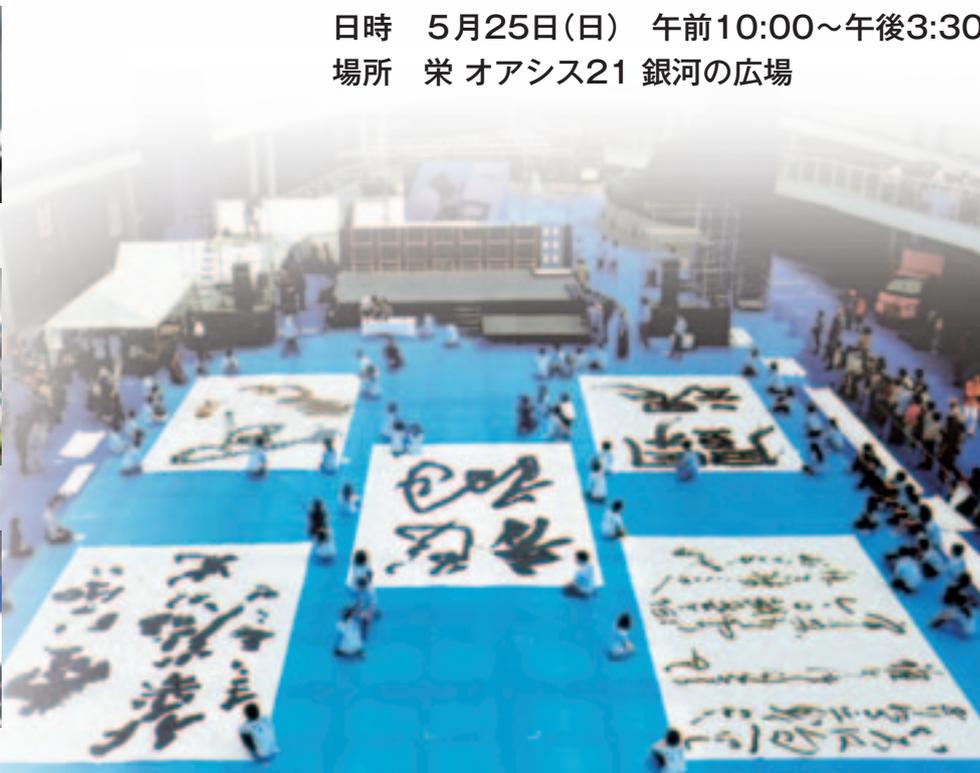
鬼頭翔雲理事長による開催の挨拶



松永清石副理事長による開会の辞



伊藤昌石副理事長兼事務局長による閉会の辞



公益社団法人中部日本書道会 創立八十周年記念事業

総括

八十周年記念事業担当部長

上小倉 積山

昨年度より会員一丸となって取り組んでまいりました中日書道会創立八十周年記念事業に係わる計画を、この度無事終了することが出来ました。これも中心となつて企画・準備を進めてくださった委員の先生方をはじめ、会員の皆様方のご協力のたまものであると考えております。記念事業を担当させていただきました責任者として深くお礼申し上げます。

節目の記録として刊行されました『八十年の歩み』は膨大な資料を基として、地道な作業の積み重ねの末、完成を見ることが出来ました。中部日本書道会の足跡を後世へと伝えるための貴重な記録となるでしょう。また、幅広い年齢層の方々に、様々な形で参加していただき、書を楽しんでいただくことを目的に企画しました記念イベント『いっしょに書道を楽しむ』も大勢の一般の方にご来場をいただき、大変な盛り上がりを見せました。書道会を築き上げた先生による『賀寿の書』、そして各部門の先生による大字書では、本格的でダイナミックな書の表現を見ていただくことが出来ました。それに負けじと、『留学生や小・中学生たちが伸び伸びとした大字揮毫』を披露し、会場に大きな歓声が上がりました。午後に行なわれた高・大生による『書のパフォーマンス』では、各チーム思い思いの表現が多くの来場者の目を

引き付けたことには、これから書道会を担って行く若い人たちの力を感じました。『特別ゲストとして揮毫していただいた安藤美姫選手』の登場で、会場の盛り上がりも最高潮となり、一般の方々にも書の魅力を強くアピール出来たものと考えます。そして、来場者が誰でも参加でき、体験することが出来た様々な『体験コーナー』も早くから大勢の方が訪れ、書を楽しんで行かれました。自らが書いた書作品を展示してもらったことの喜びを多くの人に味わっていただこうと、今回、初めての試みとして行なわれた『あなたも書家気分』には小さな子供から参加していただき、自然体で書かれた二百点の作品は、中日書道展の会期中、愛知県美術館に展示されました。これを機に書道展へ興味を持ってくれる人が少しでも増えてくれればと考えます。今回のイベントでは、LED大型スクリーンを設置し、平面的になつてしまふ書の揮毫をより立体的に見ていただくことも行なわれました。これは『書道展会期中に行なわれた席上揮毫』においても、揮毫風景をモニターで映し出したことが大変に効果的であったと考えられています。

これらの記念事業すべてが会員の皆様のお力で成し遂げられましたことに、記念事業担当者として深く御礼申し上げます。総括とさせていただきます。

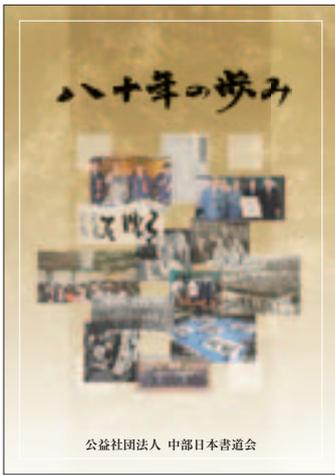
八十周年記念誌

「八十年の歩み」刊行

担当 工藤 俊 朴

平成二十六年三月末、既存の「六十年の歩み」(平成六年刊)をベースとして約四百頁の「八十年の歩み」を本会八十周年事業の一企画として刊行致しました。表紙は本会副会長樽本樹邨先生に揮毫していただき、本会の印を日展会員の河野隆先生にお願いしてすばらしい記念誌となっております。

ご無理を心よくお受け取り頂き、ご協力頂きました諸先生方に心より感謝申し上げます。

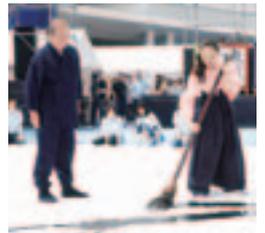


リーフレット



記念誌

特別ゲスト 安藤美姫さんによる大字揮毫



本会会員による大字揮毫

担当 馬場 紀行

創立八十周年の記念イベントの幕開けにふさわしく、本会の中核五名による五m×八mの大字揮毫と二寸角の篆刻が行なわれました。松永清石先生は「龍翔」を渾身の行書で、後藤啓太先生はリズム良く大筆を叩きつけ原字修の詩「空いっばい薔薇の光まきちらせ」。村瀬俊彦先生はかなで「いろは歌」を丁寧かつ大胆に。関根玉振先生は緊迫の隷書「闘魂」。波切童州先生は一度の空筆後に気合充填の草書「開花」。そして岡野楠亭先生は着席で一気呵成に「夢」を甲骨文字で刻した。それぞれに臨場感溢れた第一級のプロの技が大型ビジョンに映し出され、来場者はおそらく今日一日の期待感を抱いたことだろう。



松永清石 副理事長



村瀬俊彦 先生



後藤啓太 先生



関根玉振 副理事長



岡野楠亭 先生



波切童州 先生



中日スポーツ H26.5.26(月)

賀寿の書

担当 廣澤凌舟

十時五十分より「賀寿の書」が行われ、中部日本書道会を今日まで築き上げていただきました役員の方による揮毫がおこなわれました。

ステージ上に設置された大パネルに、中林落風先生から始まり、安藤滴水先生、土屋陽山先生、渡邊笙鶴先生、黒田玄夏先生、佐々木富邦先生、最後に樽本樹邨先生に揮毫していただきました。また七名の先生方に揮毫していただいている間に、平田蘭石先生に印を彫っていただきました。この様子は会場スクリーンに大きく映しだされ、来場者は普段見ることのできない本会を代表する八名の先生方の技に感動しました。

それらの作品は終日ステージ上に展示され、来場者の目を楽しませてくれました。



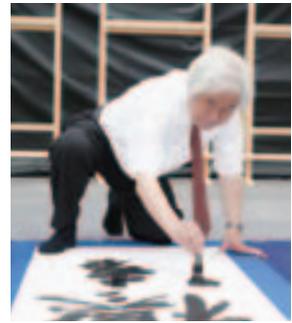
土屋陽山 先生



中林落風 先生



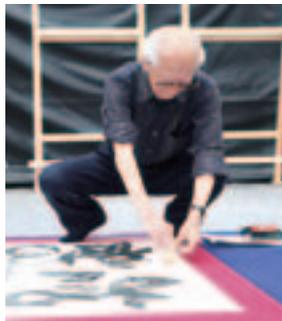
安藤滴水名誉副会長 先生



樽本樹邨名誉副会長 先生



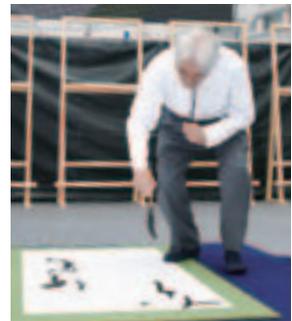
平田蘭石 先生



佐々木富邦 先生



黒田玄夏 先生



渡辺笙鶴 先生

書の国際交流

担当 上小倉 積山

『書の国際交流』では、日本で学んでいる留学生七名が大字書揮毫に挑戦してくれた。七名の留学生は、中国河南大学と河南師範大学から三重県伊勢市の皇學館大学に留学生として在籍している女子学生で、それぞれが思いをこめた文字で、大字書揮毫を楽しみました。母国でも経験したことのない大きな筆に戸惑いもありましたが、爽快な気持ちで揮毫ができたことを喜んでいました。留学生たちは、体験コーナーでも様々なものに参加して書のイベントを満喫していました。



小・中学生による大字揮毫

担当 青木清濤

「みんなの夢をのせて書いてね、それではスタート」で始まった。小・中学生による大字揮毫。自分の身丈より、大きく長い筆にたつぷり墨を含ませ、大きな紙に思いっきりよく書いていく姿は、もう一人前の書道人と云っても過言ではありません。これからの中日書道会は安泰です。そしてこの後の九十周年、百周年に向ってたのもしい限りです。又学生達は、この日を一生忘れないと思います。

公益社団法人中部日本書道会創立八十周年記念事業にも素晴らしい一ページを残してくれました。
「みんな ありがとうね」



書のパフォーマンス

担当 横井宏軒

「書のパフォーマンス」には高校生七チームに大学生三チームの計十チームが参加。八m×五mの大きなサイズの用紙に、音楽に合わせて三分以内の時間で大きな筆による書のパフォーマンスを披露いただきました。数種類の色を使う、音楽・手拍子に合わせる、大きな筆を交代で使いながら迫力のある文字を完成させるなど、各チーム日頃の練習の成果、企画・工夫の成果はすばらしいものでした。

審査の結果、優勝は中京大学附属中京高等学校チーム

でしたが、各チーム遜色がなく、来場者も各チームに声援を送り書のパフォーマンスに見入っていました。



誠信高校 書道部



椋山女学園高校 書道部



皇學館大学 書道部



東海商業高校 書道部



金城学院大学 書道部



中京大学附属中京高校 書道部



中京大学 書道部



桜台高校 書道部



愛知商業高校 書道部



菊里高校 書道部

あなたも書家気分

験型
参加コー

担当 伊藤 仙游

この参加型イベントは、半紙判色紙に筆で、自由に文字を書いて頂いたものに雅印を押印し、色紙掛けに装丁し、審査の後二〇〇点を第六十四回中日書道展に陳列する、というものです。書く楽しさを味わって頂きたいと思います。

出足はゆつくりでしたが、お父さんやお母さんに連れられた小さなお子さんたちが書いているのを見て、若い人や高齢の方たちも楽しんで書いて下さるようになりました。

文字を書けないお子さんもあって、手形や絵文字のように見えるものもあり、うれしそうに筆を揮っておられるのを見るとこちらもほほえましく、楽しく拝見しておりました。



中央は安藤美姫さんの「絆」



愛知県美術館ロビーに展示された「あなたも書家気分」の作品群

留学生の方たちも、お互いに文字を確かめ合うなど、楽しそうに書いておられました。腕に覚えのある高齢の方などは、何を書こうかと思案された後一気に筆を運ばれ、見事に揮毫されました。やはり楽しそうでした。

このイベントを通じて、筆で文字を自由に書く事の楽しさを、皆さんに味わって頂き、一般の方に理解して頂ければと思います。

愛知県美術館の中日書道展に大勢の方において頂き、また作品の返送後に、「こんなに綺麗にして頂いて有難う」とのお礼を頂いたとの事、携わった者としてとても嬉しく、心から感謝申し上げます。

篆刻

験型
参加コー

担当 岡野 楠亭

『篆刻コーナー：オリジナル印を作ろう』コーナーでは、一般来場者を対象にご本人が書かれた文字をそのままその場で篆刻作家が刻り上げ、印をお持ち帰りいただく企画を行いました。

朝十時にイベントがスタートすると同時にブースには大勢の小学生を含む来場者が列をなしました。予定された百本の印材は瞬く間に終了し、皆さんそれぞれにオリジナルの印を手にとり満足された様子でした。



ハンカチに書こう

体験型
体参加型
コーナー

担当 佐野翠峰

今回のイベントの体験コーナーで最も多くの人たちに参加してもらったのが、「ハンカチに書こう」という体験ブースでした。

万博の時の経験を活かし、充分に用意したつもりハンカチ六〇〇枚は、午前十時半開始前から多くの希望者が順番待ちの列をなし、平均で十五分以上の待ち時間ができるほどの大盛況で、午後一時過ぎには、すべてなくなるといいう、うれしい誤算となりました。

これも偏に、事前にいろいろと試作を重ね、インクの濃度等細かいアドバイスをお願いした協賛会員、また当日暑中、テキパキと参加者の対応にあたって頂いたスタッフの方々のご尽力の賜と、心よりお礼を申し上げます。

にぎり墨

体験型
体参加型
コーナー

担当 佐野翠峰

五月下旬という墨づくりには厳しい条件の開催時期にもかかわらず、快く協力して頂いた協賛会員の奈良の老舗、株式会社墨運堂さんに心より感謝を申し上げます。

墨を擦り、心を落ちつけ、筆を執る、という、「書」本来のかたちを思い出させてくれるよい企画であったと自負しています。

墨液しか使った事がなく、固型墨がどの様に作られるか実際に見た事のない子供たちに、額に汗し、全身を使い墨を練る職人さんの仕事ぶりの一端を見ることが出来、有意義なブースであったと思います。

実演していただいた墨職人林龍之介氏に心より感謝すると共に、整理券配付についての度重なるクレームにも終始笑顔で対応して頂いたスタッフの尽力に心より感謝致します。



バンド「コンボ・ザ・レイクス」による演奏



司会是小島一宏 元東海テレビアナウンサー

第六十四回中日書道展

席上揮毫会

於愛知県美術館八階ロビー

担当 後藤啓太
佐野翠峰

平成二十六年六月十四日(土)愛知県美術館ギャラリー八階ロビーにて本会の理事・監事の十人の先生により揮毫会を開催しました。

揮毫されたのは、漢字の伊藤仙游先生、富田栄楽先生、中野玉英先生、仮名の近藤浩乎先生、山本雅月先生、近代詩文書の大島緑水先生、武内峰敏先生、少字数の中村立強先生、横山夕葉先生、篆刻の榊原晴夫先生です。各先生には、書家のプロの技をご披露いただきました。

観客の皆さまからは、「楽しいイベントですね」「筆の使い方や、リズムなど作品制作の参考になりました」「篆刻は特に集中が必要そうですね」「墨の香りがいいですね。心が落ち着くように、習ってみたく

なりました」と、嬉しいお言葉を多数いただきました。

揮毫をお願いしました先生方には、お忙しい中ご協力いただき、感謝とお礼を申し上げます。有難うございました。



漢字 伊藤仙游先生



かな 近藤浩乎先生



漢字 中野玉英先生



漢字 富田栄楽先生



近代詩文 武内峰敏先生



近代詩文 大島緑水先生



かな 山本雅月先生



篆刻 榊原晴夫先生



少字数 横山夕葉先生



少字数 中村立強先生

創立八十周年記念 第六十四回 中日書道展

審査総評

審査部長 松永清石

八十周年記念賞に

二科審査会員より 七十三点

本会創立八十周年記念展に審査部長を務めさせていただきました。光栄に存じますとともに、その責任の重大さに緊張の連続でありました。幸い経験豊富な副部長の先生方はじめ主任、委員の皆様のご協力により無事終了することができました。ここに深く感謝を申し上げます。

- 展覧会会場**
- 愛知県美術館ギャラリー
6月11日(水)～6月15日(日)
 - 名古屋市民ギャラリー
6月10日(火)～6月15日(日)
 - 名古屋市博物館
6月17日(火)～6月22日(日)
6月25日(水)～6月29日(日)

今年度の総出品点数は四、五一四点で昨年と同数でありました。その内若年層は一科六七点、二科五〇九点で五十八回展から導入以来定着の感があります。これもご指導に当たられた先生方の本会に対する

熱い思いと、ご尽力の賜と御礼申し上げます。

審査は五月十日から三日間にわたり、愛知県産業労働センター(ウインクあいち)にて、一党一派に偏することのないよう、良い作品が良い結果が得られるようにとの基本方針のもと実施を致しました。

二科作品一、三一六点の中から、二日目は一科作品一、〇三九点の中から、今年に記念展の関係で例年よりやや高く設定された入賞比率に基づき、各賞を選出、決定をしていただきました。

特別賞につきましても二科、一科同様比率を高く致しました。選考委員による慎重な審査により無鑑査作品の中から中日賞に各部一点の五点と桜花賞一〇九点を、依頼作品の中から海部俊樹賞、大賞各一点と準大賞七四点を、また二科審査会員作品の中から記念賞をそれぞれ七三点を選考して頂きました。

記念賞受賞者は来年から一科の審査員に昇格します。

作品は創立八十周年ということで例年にも増して力作がそろい、いづれも遜色のないものばかりでありました。厳しい審査を経て見事難関を突破されて入賞されました皆様、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。

惜しくも自分の目指した目標に達しなかつた方もおられると思いますが、これに怯むことなく、来年の六十五回記念展に向けて一層のご精進をご期待申し上げます。

結びに、今回の審査に当たりご指導やご協力頂きました皆様に改めて心から感謝と御礼を申し上げます。
(授賞式審査総評より)

出品数一覧表

	一部 (漢字)	二部 (かな)	三部 (近代詩文)	四部 (少字数)	五部 (篆刻)	部 刻字	出品点数
審査顧問	5	3	2	0	0		10
特別出品	3	0	1	0	0		4
一科審	264	67	42	28	18		419
二科審	408	83	102	41	30		664
依頼	302	68	87	25	22		504
無鑑査	341	61	95	26	32		555
一科	573	127	152	39	79		970
(18~21歳)	47	0	16	1	1		65
(15~17歳)	2	0	0	0	0		2
二科	468	88	129	47	75		807
(15~21歳)	363	13	112	15	5		508
出品合計	2,776	510	738	222	262		4,508



名古屋市民ギャラリー



名古屋市博物館



愛知県美術館ロビーには本会の歴史を展示

第六十四回中日書道展に思う



名誉顧問 西嶋 慎 一

を強く打ち出した幹部の方々に敬意を表したいと思う。

中日書道会ほど書道の団体として社会性に富んだ組織はないのではないか。今回も創立八十周年を記念して数々の行事が企画され実施されている。いずれもが、社会に向けて書道のイメージを発信する試みである。

オアシス21・銀河の広場で行われた大字揮毫の数々が、その象徴であろう。留学生による毛筆書写の体験や、一般参加を募った半紙染筆も注目される。普及を日本にとどまらせない。また広く社会への浸透を目指す意図が鮮明に出た行事だからである。後者の体験参加の成果は、中日展の期間中に二百名からなる半紙修作が展示されていて圧巻であった。

社会と共に中日書道会は存在する。決して現実社会から遊離した団体ではない。その強い意志がみなぎる展示であった。かつて、愛知万博での特別企画も、中日書道会の社会性を強くアピールしていたが、今回八十周年の節目に当り、この理念の継承が確認できたことを喜びたい。あるべき姿勢

社会性のある書芸術とは、どのような性質を持つものであるか。まず技術レベルが十二分に習得されていなければならないだろう。その技法の上に、または技法を駆使して、ある表現を発揮せねばならない。作品から作者が制作した意図がうかがわれねばならない。その上で、その表現が作者固有の質を発していれば更に好ましい。つまり個性の発揮である。

海部俊樹賞を受けた井谷李春の作が、中日展の評価基準を実証する。筆は極めて真面目で、行きとどいた筆づかいが生み出す作品の密度が好ましい。大賞の村上薫仍も軟らかい筆さばきで奥行のある作を形作っていた。実に色彩感のある作品だ。

準大賞も佳作ぞろいで、少字数の岡野敬子、かなの笠原喜美江、伊藤静春が印象に残った。大字かな作品として横への展開に秀いでている。

記念賞の受賞者は日展入選経験を持つ実力者揃いで、中日書道会の層の厚さを実証する。漢字の伊藤龍仙、上小倉積山、かなの岡地紅華、三橋紅月が好ましい。岡地は寸松庵に倣う散らしだろうが、興味ある感

覚だ。

近代詩文書には完成度の高い作品が多い。小嶋千翠、渋谷鳴鳳は表現が強い。長谷川鸞卿の思い切りの良い筆運びと巧まざる構図は出色である。築山みなみの墨色も美しい。

中日賞の野田館宇、永島育子、桜花賞の井戸本瑞心、桜井聖子、山中みね子も高い技術レベルが好ましかった。篆刻は記念賞の上前総子だろう。

技術と表現が渾然一体となった作品の代表が平松紫雲だろう。書としての造形表情と素材の万葉集が発する詩的表情が融合し、いいようもない深い精神性を表わす世界となった。

黒田玄夏の軟らかな筆が演ずる瑞々しい線も印象深い。安藤滴水も黒田と同じ三行構成だが、こちらは覇気に特色を示し、表現が若い。鬼頭翔雲、関根玉振、松永清石が発する充実感も魅力的である。伊藤昌石は定石を打ち破り、造形表現の高揚を願うのであろうか。

樽本樹郎の五字句一行は問題作だ。筆力の強さと粘りは尋常でなく、ギツギツと紙に刻み込まれる様に筆は進められ、そこに心の底を見通すかの如き凄味を発する。

長老は、黒野清字が一格で、土屋陽山、中林路風、座馬井邨、後

藤秀園、後藤汀鸞が着実である。

理事では、青木清涛、伊藤仙游、上田賦草、梶山夏舟、岡本苔泉、近藤浩平、山本雅月が印象に残った。加藤矢舟の軽みの筆も面白かった。加藤裕はちかごろ見逃せぬ作家となりつつある。今回の表現も近代詩文書に、何か新しい世界を開きつつある兆しかと思える。篆刻は、岡野楠亭の感性が光った。



西嶋 慎 一 先生

第六十四回「中日書道展」管見

名誉顧問 田宮文平



第六十四回中日書道展は、創立八十周年記念のさまざまな事業が繰り上げられるなかで開かれた。

中部日本書道会の前身たる中部日本書道連盟（大島君川会頭）が創立されたのは昭和九年（一九三四）、当時の会員数は四五〇〇名を擁する大団体となり、首都圏、関西圏と共に書道文化を支える推進力となっている。また、愛知万博への参加に象徴されるように社会活動にも力を入れて、今年も市民参加の栄オアシス21「銀河の広場」等も行われている。

この中部日本書道会の活動の最大のベースとなっているのが、この中日書道展である。何しろ五千点規模の大書展であるから、ここで詳細を紹介することは無理なので、第一室の役員作によって傾向を検証してみたい。

名誉副会長の樽本樹郎『其行峻而通』の五言句は、縦一行の行書だが、これをしつかりと支えているのは楷法の意識である。

同じく安藤滴水『私のお願ひより』は、初代会頭の大島福造のことばで、いわば中日書道会の原点を伝える書である。

理事長の鬼頭翔雲『曹文晦の詩』は、多画の文字の多い七言二句を得意の隸書で縦二行を堅固に構築した。

副理事長の伊藤昌石『五言句』は奔放自在の草書一行が独特。同じく関根玉振『五言絶句』は、縦二行に単体で布置して点画を確実にとらえる。松永清石『唐詩』は、肌色の紙に縦三行、連綿の妙と行間の余白を生かす。

常任顧問クラスには全国知名の人がズラリと並んでいる。黒田玄夏『朝のスペクトル』は漢字主体に流れがよい。黒野清宇『不尽』は赤人の歌によって世界文化遺産を謳いあげ、表装もモダン。後藤秀園『傘の上』は召波の句で、丈夫振りの充実。後藤汀鶯『万葉歌』は、これも赤人の歌で縦二行をダイナミックに熟して新鮮。座馬井郎『良寛の歌』は、祝ご長寿の札が飾られていたが、九十八翁とはおもえないしっかりした筆致であった。土屋陽山『菜根譚』は、一行目が大きく屈強の展開。中林露風『五言句』は、縦一行で単体、連綿の妙。平松紫雲『良寛詩』は、横形式十四行のリズム感が素晴らしい。

理事クラスは、人材的にも、書的にもいまや、中日書道展の推進力となっている人

たちである。青木清濤『良寛のうた』は、縦二行に草仮名で書いて爽やかである。天野白雲『良寛詩』は、縦二行に丁寧に行草体を展開。伊藤仙游『高青邱詩』は、求心力のあるタッチが独特である。上田賦草『詠雪』は、縦二行に行草体を清冽に展開。大池青岑『一行書』は、五言句を重厚の筆致で書く。大島緑水『野田公雄の句』は、弥勒の論しを大字で純朴に書く。

岡本荅泉『築地正子のうた』は、平明のうち情趣を醸す。梶山夏舟『岳端詩』は、長丁場をリズム感よく気脈を通す。加藤矢舟『万葉歌』は、人麿の歌を正方形の空間に四行、清爽のタッチで展開。加藤裕『權の句』は、長谷川權の句をデフォルメを利かしてモダンに造形。川崎尚麗『菜根譚』は、や、細身の清韻の行草体が独特。工藤俊朴『歐陽修詩』は、横形式に三字平均を微妙の大小変化をつけて巧みにまとめる。

近藤浩平『夢のかよひ路』は、すみの江の々と低く布置する。暢達の筆致が洗練されている。佐藤慶雲『陸游詩』は、横形式に九行、点画のしっかりした書だ。武内峰敏『幻華』は、武内幽華の句を一行に濃淡、布置変化して展開。富田栄楽『池春水』は、正方形に変化の妙を發揮。中野玉英『季太白詩』は、

七言句を骨格強固に、そのつづきを中文字で収める。中村立強『簪』は淡墨で多彩な筆致を駆使した現代造形。平松采桂『千字文の一節』は、七言句を一行、独特の感覚の行草体。松下英風『七言句』は、一行に淡墨で爽やかに書く。村瀬俊彦『定家の歌』は、横形式に十一行、行間の広さを生かす。山内江鶴『石川丈山詩』は、字間を詰めて縦三行に気脈通る。山際雲峰『張雨詩』は、縦二行に骨格強固の楷書を展開。横山夕葉『寂』は、墨彩の美しい現代造形。

第一室のケースの篆刻では、岡野楠亭『莊子語』、榊原晴夫『雙脚採浄』、また、理事ではないが、太田偕風『明々如月』の白文印は出色である。



記念賞・海部俊樹賞 大賞・準大賞 受賞者紹介

〈作品評〉 関根 玉振 (一部記念賞・海部俊樹賞・準大賞)・渡邊 笙鶴 (二部記念賞・準大賞)
黒田 玄夏 (三部記念賞・大賞・準大賞)・中村 玄強 (四部記念賞・準大賞)・岡野 楠亭 (五部記念賞・準大賞)



記念賞 (1部) 受賞者

記念賞

第一部 天野 梢華



受賞の知らせを受けて、うれしき以上に身の引き締まる思いでした。このような大きな賞を受けたことが

ゴールではなく、新たなスタートラインに立ったような気持ちになったからです。たくさんの方々の支え導きにお礼申し上げますとともに、これからは恩返しをしまいたいと思っております。

作品を仕上げるにあたり、作品の構成、墨の入れ方など、先輩の先生方からいろいろアドバイスをいただき本当に感謝しております。そして、きつと一緒に喜んで下さるであろ

記念賞

第一部 伊藤 紅樹



第六十四回中日書道展におきまして、思いがけず栄誉ある記念賞を戴き、喜びと感謝の気持ちで胸が一杯です。師匠はじめ諸先生方の温かいご指導に感謝申し上げます。作品の制作にあたっては、王鐸の作風を基

う、昨年末に急逝した師匠からのひとことがいただけないのが残念でたまりません。

〈評〉

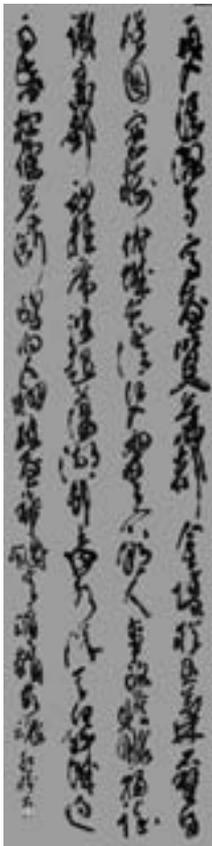
書き出しから最後まで見事に統一した作品。結体もよく構成も調和がとれている。



調にし、四行で力強い作をと試みました。流麗かつ大らかで、リズム感と線の強さが魅力の王鐸に、少しでも近づきたいと努力しました。この賞の重みをしっかりと受け止め、更なる古典の探究を深めてまいります所存です。今後共にご指導ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

〈評〉

行間を広くあけ運筆に連続性をもたせ、文字の歪みと筆圧の変化が立体感を出している。



記念賞

第一部 伊藤龍仙



第六十四回中日書道展におきまして、八十周年記念賞という栄誉な賞を賜り、嬉しさとともに大変責任を感じております。ありがとうございます。三十八年前の初出品以来、明代の王鐸・傅山に始まり、清代の于右任を古典としてきた私に次なる古典に取り組むように師に指示されたのが宋代の黄山谷です。今回の作品はそうした流れの中で自分の顔を出そうとチャレンジした作品です。

日頃から温かくも、厳しく見守ってくださる師匠、そして私を支えてくれる先輩・同輩諸氏のおかげで書を続けられ、この受賞があったと深く感謝しています。

〔評〕

躍動があり、振幅度豊かなスケールの大きさが極立ち、潤渾の間合いに巧みさを出している。

記念賞 第一部 猪又松峰

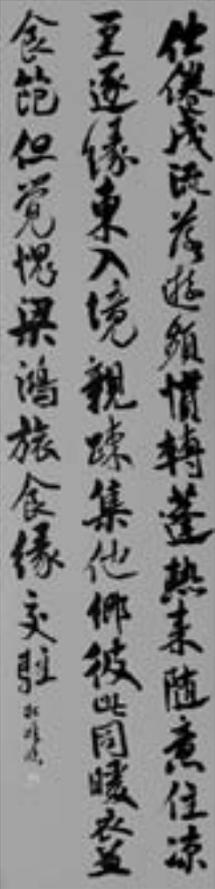


この度は「記念賞」受賞と言う思いもよらない朗報に驚きと戸惑いとが交錯し未だ夢の中のような心地です。お世話になつた師からの勧めで米芾を学び始めてから何度も臨書を重ね勉強しております。今回はリズム感や墨量、余白、字の結体

など試行錯誤を繰り返しながら書き上げました。未熟な私には重い賞ですが、今後も古典の臨書を大切に努力精進して参る所存でおります。宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

古典を基に思いのままに筆を走らせている。字形は崩れることなく清澄な作。



記念賞

第一部 入谷霞流



大きな節目となります。栄誉ある創立八十周年記念賞を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。それと同時に

これからも、この記念すべき賞に恥じぬよう精進してまいりますので宜しくご指導お願い申し上げます。ありがとうございます。

〔評〕

行間を広くとってバランスを乱すことなく、筆力の強弱が作品全体の厚さを表わしている。

記念賞 第一部 植田秀穂

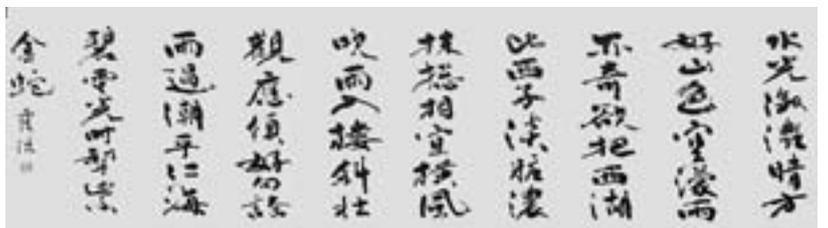
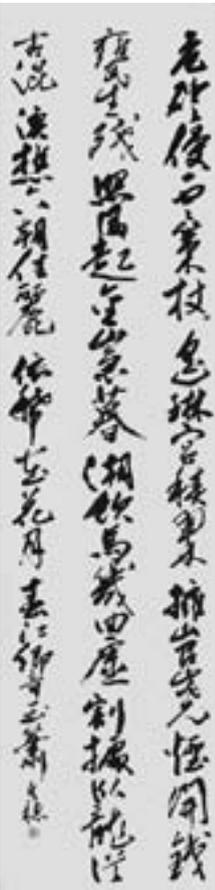


作品を書き終えた時、いつも未熟さを感じてうな垂れる自分がいます。ですがこの度は思いがけず記念賞をいただき、前を向く力をも頂いたように思いました。苦心しながらも作品を生み出す事に、やりがいを感じてここまで続けて来られました。

今までお導き下さいました先生方に深く感謝致しております。また、支えてくれた家族によい報告が出来て嬉しく思いました。

〔評〕

今後も「試行錯誤は書の楽しみ」という心持ちで取り組んでまいりたいと思います。



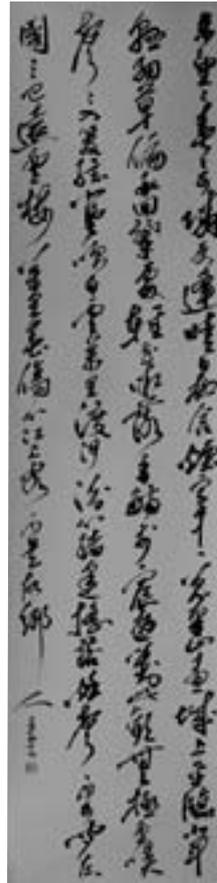
記念賞

第一部 上松早苗



突然の思いもよらぬ記念賞受賞の知らせを頂き、驚きと喜びでいっぱいでございます。有難うございます。

た。これも長年に亘りご指導くださいました師をはじめ、諸先生方のご厚情と心から厚くお礼申し上げます。



〔評〕

線の切れがシャープで明るさが持ち味である。潤渾の変化が巧みである。

記念賞

第一部 遠藤栄久



中日書道展において八十周年記念賞に選せられ大変な名誉と感激しております。ここ十数年漢字作品は漱

石の漢詩に取材し、最近是最晩年の詩から取ることが多くなっています。恩師が逝つて五年、試行模索をし一作一面貌を心がけて類型



〔評〕

大胆な作風に魅力を感じる。造形の変化、筆力の強さが作品を生かしている。

記念賞

第一部 江口大濤



『創立八十周年記念賞』、身に余る賞を拝受しました。これも師の的確なご指導があってこそ心よりお

礼申し上げます。何か大きな力に突き動かされるように、た



〔評〕

流麗な作品、文字の大小、行間の揺れの具合がスケールの大きさを出している。

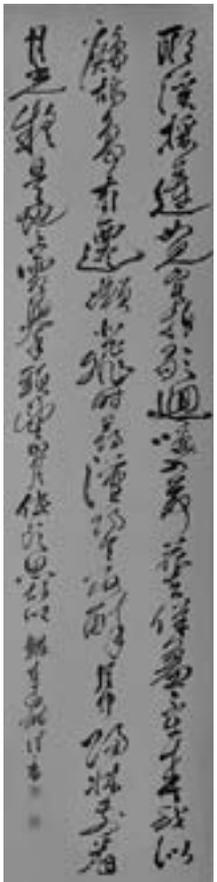
記念賞

第一部 太田佳香



今回中日書道会における記念賞の報を聞き間違いではとわが耳を疑いました。と言うのもここの一、二年自

分の書風に迷いを感じていたからです。師からも「これからは、美しい線だけはいけません。そこに猛々しい力強さと生命力を宿すも



〔評〕

筆圧を維持して早いテンポで仕上げている。行間の白の美しさがすばらしい。

のでなければ表示すべりして、自分勝手なものになってしまふ」と指摘されていたからです。そんなこともあり原点に返り自分の勉強してきた義之の書風を頭に力強さと起筆のうちこみに気をつけながら書いたのですが、とうてい満足のいく作品には届かず反省しています。ここからまた始まりと思いい精進したいと存じます。

記念賞

第一部 小野 咲泉



「書は気持ちを楽しんで遊ぶもの」この言葉こそ、近年の私のテーマでした。

日頃は、作品のサイズ・構成・紙など、様々なタイプに挑戦するも悪戦苦闘の毎日でした。

た。今回、記念展というプレッシャーが決してなかった訳ではありませんが、気持ちと紙と筆と墨が一体化した満足のいく作品に仕上がりました。

その結果このような素晴らしい賞を受賞出来ました事、心より感謝申し上げます。

〔評〕

個々の文字の表情を表に出し、しつかりした結構。疎密の変化が巧ましい。



記念賞

第一部 上小倉 積山



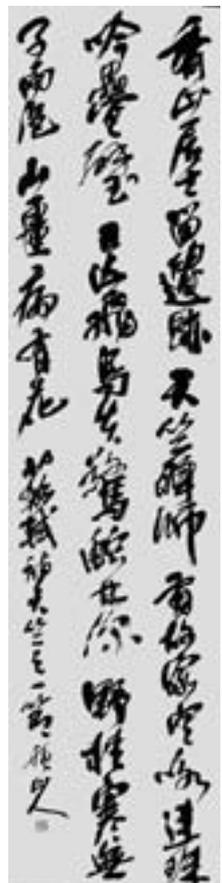
節目となる展覧会において、記念賞を拝受する事ができましたこと誠に光栄に存じます。今回の作品は、

蘇軾の詩を明の王鐸の筆法を用いて制作したもので、自由奔放な運筆の中に、強さを秘めた骨格が見えるように心がけました。軽快な

動きと線の強さを融合させることは、想像以上に難しく大変に苦労いたしました。これからの目標は、今回の受賞をバネとし、この相反する課題を最も良い形で調和させることを自らの課題として、精進して行くことと考えております。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

〔評〕

墨量を豊かにして充実を計り、結構も安定し、運筆のリズムが作の全体を締めている。



記念賞

第一部 加藤 翠影



第六十四回中日書道展におきまして、栄ある記念賞を拝受し、身に余る光栄と厚くお礼申し上げます。全

く思い掛けない事として、驚きと感激で胸がいっぱいでございます。これも偏に師を始め諸先生方のご指導の賜と深く感謝申し上げます。

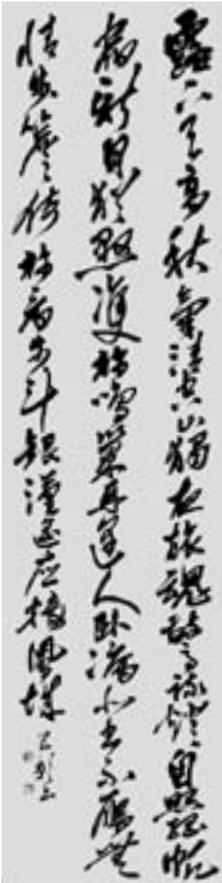
す。

作品は長年深求して参りました呉昌碩の書風をベースに力強く重厚な作品をイメージして三行にまとめてみました。意図する作品には程遠く反省ばかりです。

この受賞を励みに一層、努力、研鑽する所存です。今後共にご指導賜ります様よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

厳しい筆圧で行間の余白を生かし、動きをもって紙面全体を押えたのがよい。



記念賞

第一部 倉橋 高堂



伝統ある中日書道展の創立八十周年記念展において、「記念賞」という大変榮譽ある賞を頂き、誠に有

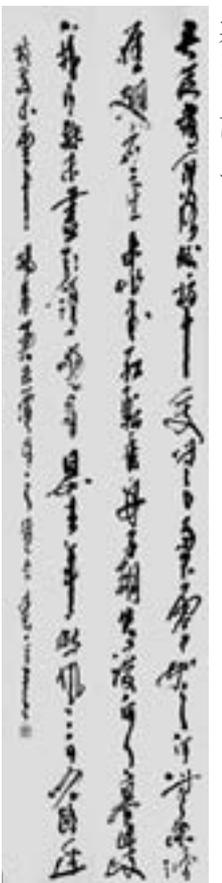
難うございました。これも偏に、審査に当たられました諸先生方のご厚情と、師匠をはじめ、ご先輩、お仲間各位のご支援によるものと心からお礼申し上げます。

長年、王鐸の書風に基づき、強靱な筆力と、行間の余白を思い書き続けてまいりましたが、一歩前進、二歩後退の現状に力不足を痛感するばかりです。

今後初心を忘れる事なく、諸先生方のご指導を仰ぎながら、尚一層の精進を致したいと思っておりますので、ご指導を心よりお願い申し上げます。

〔評〕

行の求心力を強くして、行間とのコントラストをねらって効果をあげている。



記念賞

第一部 黒川 虚宇



このたびは、中日書道展八十周年記念賞をいただき誠にありがとうございました。

私は長く漢字を中心に作品創りをしてまいりましたが、ここ数年は、調和体に魅せられて取り組んでいます。漢字とひらがなの調和は私にとってなかなか

私に長く漢字を

まく表現できず、試行錯誤の毎日でした。

今回の作品は北原白秋を題材にしたものです。まだまだ未熟で納得できる作品ではありませんでしたが、好運にも受賞することができました。

諸先生、諸先輩方のこれまでのお力添えに感謝し、今後共変わらぬご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

〔評〕

単体であるが流れがあつて良い。筆の動きが一字一字厳しくしつかりしている。

記念賞

第一部 佐藤 華泉

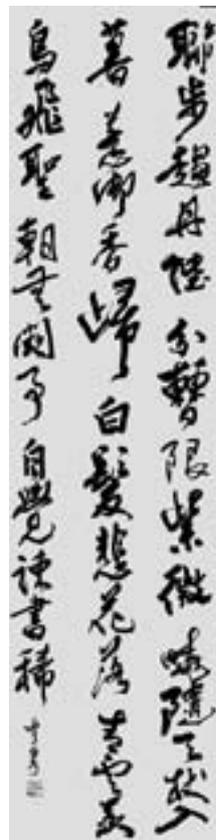
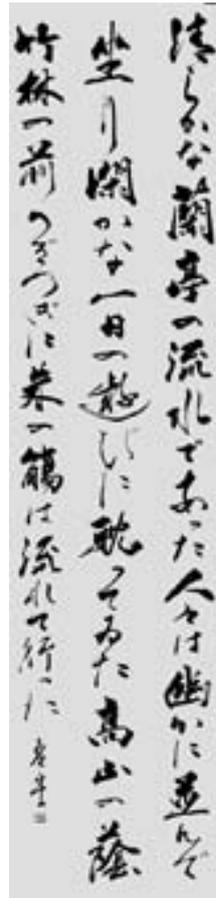


この度は、八十周年記念賞を戴き驚きと感動で、胸一杯でございます。これまでもいろいろお導き下さい

ました諸先生方に深く感謝申し上げます。出品作は、王鐸の書法に魅せられ岑参の詩を書き上げました。頭で描くようには筆が運びま

〔評〕

流れの中に意識的に筆の渋滞を入れて作品の効果を高めている。



記念賞

第一部 桜井 柳絮



この度は、伝統ある中日書道展において、身に余る賞を賜り、驚きと共に感謝の気持ちで一杯でございます。

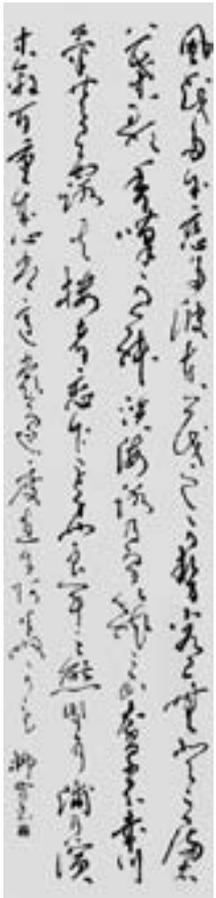
す。これも偏に審査にあたられた諸先生方のお蔭と厚くお礼申し上げます。無限の広さを持ちながら凛として暖かい良

寛に、萬葉歌のリズムを乗せたいと試みてみましたが、力量不足を痛感しております。

今回、受賞させて頂いたことを心に刻み、尚一層精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

筆画の強調と抑制が明らかに示された作。運筆の速さとさばき方がうまい。



記念賞

第一部 柴間 秀瑠

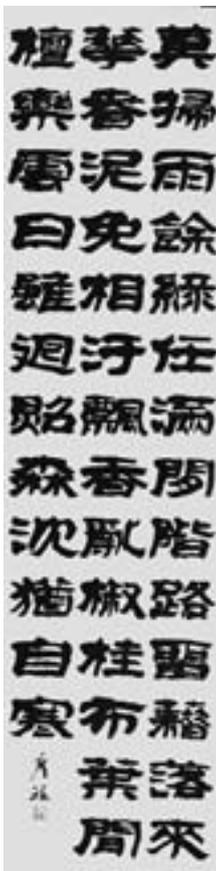


この度は栄誉ある記念賞をいただき大きな喜びと同時に身の引き締まる思いです。

師や書友にも恵まれての三十七年。求めれば求める程遠く感じられる書の奥深さに自身の力不足を思い知らされる日々です。今までは六朝楷書、隸書、

〔評〕

完成された隸書にさらに装飾性を盛り込みおだやかにまとめている。



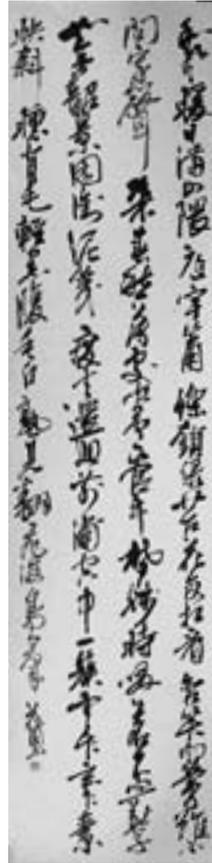
記念賞

第一部 鈴木花園



この度、思いがけない栄えある創立八十周年記念賞を賜りありがとうございます。ございました。

審査にあたられました諸先生方、亡き師匠をはじめ一緒に学べる書友に恵まれ、書作続ける事ができました。皆様に感謝しております。



作品は古意を含みながら余白の美、墨量の变化、力強い墨線、美しい流れが作れるよう夢中で書きました。思う様に表現出来ず未熟さを痛感いたしております。この賞を励みに、精進努力してまいりたいと思います、何卒宜しくご指導くださいますようお願い申し上げます。

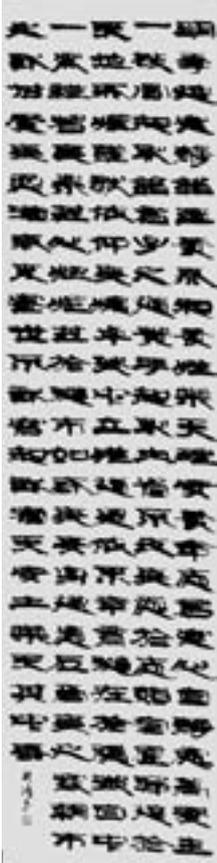
墨量の流れが作品の柔らかさを表わしている。字間の密度が行間の明るさをひき立てている。

記念賞

第一部 鈴木彩鴻



新緑の五月、まるで私の誕生日に合わせたかのように吉報に接しました。八十周年記念賞という予想もしない立派な賞に、ただただ驚くばかりです。六歳から書を習いはじめ、五十を過ぎた今日まで続けられたのは、先生を始め、書友のみ



なさまのおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。この受賞を励みとして、益々書の道に精進していきたいと存じます。本当にこの度はありがとうございます。ございました。

筆画一線もおろそかにせず、一貫整然とした書風をみせた修練の作。

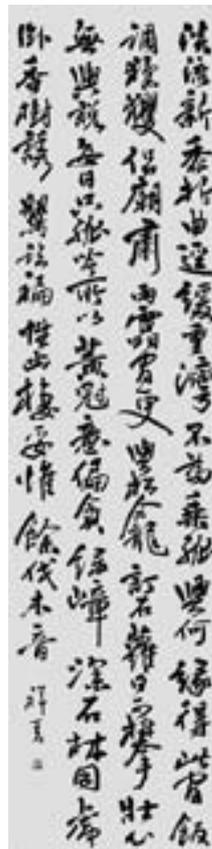
記念賞

第一部 仙石祥香



このたびは、このめでたき年に記念賞を頂くことが出来ましたこと感謝無量でございます。

明清の書、殊に王鐸の書風に魅了され約四十年書き親しんでおります。大変奥が深くまだまだ勉強中ですが線質の強さ、連綿の巧み



さ、字形の変化など、まるで生きているかの様です。作品に活かそうと起筆の強さや丁寧な余白を心掛けました。毎晩書くことが楽しく、精一杯気配りをして書きましたが、思い通りに書けなかった時は師の指導の言葉を心でくり返し書くことに集中致しました。更に精進いたす所存です。今後とも宜しくご鞭撻下さいませ。

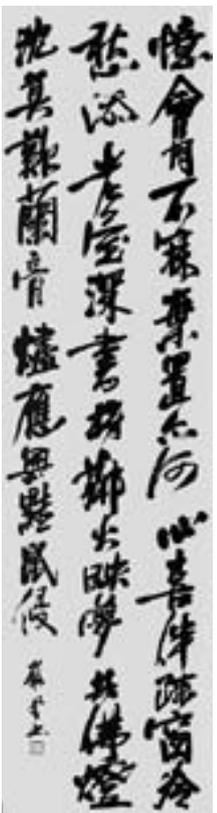
文字の造形を四角くし、筆のタッチによって流れを出した作。

記念賞

第一部 高桑 嚴風



伝統ある中日書道展で記念賞を受賞できましたことは、身に余る光栄です。これも偏にご指導いただいた師匠のお蔭と、深く感謝申し上げます。作品に重厚さを加えたいとの思いから宋代の黄庭堅を基調にしました。洗練され尚力強



く、独特の創造的書法をもつ書風に挑戦しました。墨の潤滑や文字のフォルムを試行錯誤するも意に沿わず、最後は氣迫を込め墨量多く書き上げました。

これを励みに更に幅広く古典に取り組み、記念賞に恥じぬよう精進を重ねてまいります。

厳しい筆圧で行間の余白を生かし、動きをもって全体を押さえ、バランス感覚がよく、構成員がある。

記念賞

第一部 滝 白雅



中部日本書道会
創立八十周年とい
う記念の年に栄え
ある賞をいただき
身に余る光栄と感
謝しております。

もう手の届かない賞だと思っておりましたの
でこの上ない喜びでございます。
これも偏に、厳しくご指導いただいたお蔭

と、心より感謝致しております。

まだまだ先の見えない終りなき道ですが、
賞の重みをかみしめ、「書」を楽しむ心も大
切にして、より一層の努力を心々に刻んで
歩んでまいりたいと思っております。
有難うございました。

〔評〕

一字一字が表現豊かにまとめられている。
線の強調と抑制がこの作の立体感を与えてい
る。



記念賞

第一部 田中 暁雨



この度は、第六
十四回中日書道展
におきまして記念
賞という栄ある賞
に浴し、深く感謝
申し上げます。

作品制作にあたりましては、王鐸・倪元璐
のリズム感と重厚さを少しでも表現出来れば

と試行を重ねて参りましたが、なかなか思う
ように成らず、意図と表現との乖離を見る結
果となりました。今になって書の深遠を痛感
している次第です。
この受賞を機に一層精進して参りたいと思
いますのでご指導の程よろしくお願いいたし
ます。

〔評〕

雄大な動きがあり、筆圧は柔軟であるが、
線は緩まないように心がけている。



記念賞

第一部 田中 石雲



この度は、栄誉
ある記念賞をいた
だき身に余る光栄
と大変嬉しく思っ
ております。これ
も偏に、社中の諸

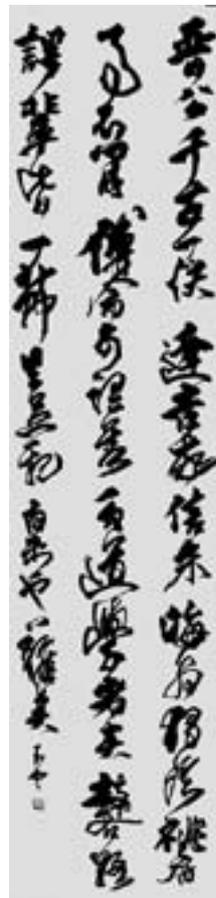
先生方の熱心なご指導と書友の励ましのおか
げと深く感謝申し上げます。
連綿草に魅せられ、傅山・王鐸・良寛など
の臨書を学習しています。今回の作品は傅山

で、墨の重さと線の力動感がでるように心が
けました。白狸毛筆の中鋒で連綿の部分には筆
の芯を使って書き、なるべく墨を持続させる
ようにして書きました。

今は亡き師は、「作品は古典のほのかな香
りがすることが大事」とよく語っておられま
した。これを機にその領域に近づけるようさ
らに研鑽を積んで参ります。

〔評〕

線が肉厚であるが、墨量の豊かさが作品を
おだやかにしている。



記念賞

第一部 谷川 青楓



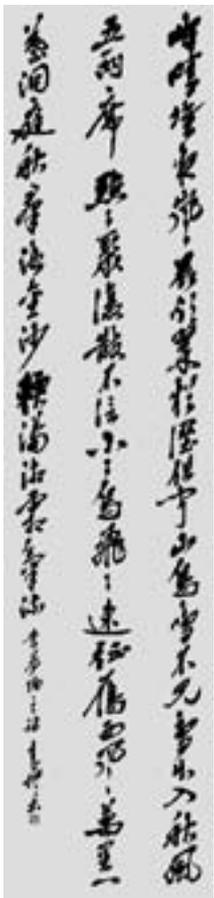
公益社団法人中
部日本書道会が創
立八十周年を迎
え、この喜ばしい
年に、念願であり
ました記念賞を頂

き感激で胸がいっぱいでございます。これも
偏に師始め審査に携わられました諸先生方の
ご厚情と深く感謝致しております。

思いおこせば、七才より筆を持ち数十年、
墨の香に心を癒され、時には思う様に書く事
が出来ず辛い時も多々ありましたが、今と
なつてはすべて良き思い出となっております。
これからは、今回の賞に恥じない様努力し
ていく所存でございます。
何卒、尚一層のご指導ご鞭撻の程よろしく
お願い申し上げます。

〔評〕

行間を広くあけ文字を小粒にし、爽快な感
じを与える。運筆に柔軟性がある。



記念賞

第一部 柘 英峰



この度は、八十周年記念賞を賜り身に余る光栄と感激で一杯です。審査選考にあたられました先生方のご

厚情に深く感謝申し上げます。熱気、気魄せまる北魏楷書の建築的な造形美を基盤に、趙之謙の切れ味のある重厚深遠な線で制作しました。一本の線を尊重し、一点一画の存在感、線の共鳴性を意識して清新で凛とした生気に満ちた書を目指しました。

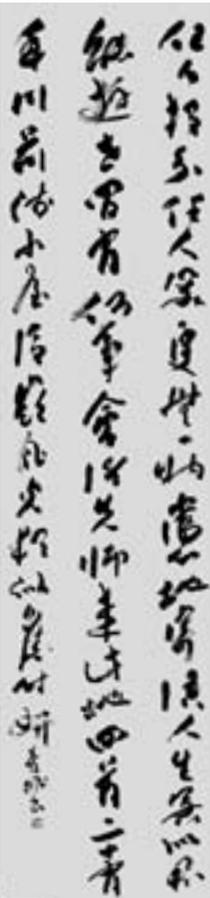
記念賞

第一部 戸田 青楓



中部日本書道会が創立八十周年を迎える記念の年に、身に余る賞を頂き有り難うございました。喜び

と感謝の気持ちで一杯です。良き師に恵まれ又、素敵な先輩・書友の皆様に関われて今まで学ぶ事が出来幸せに思っております。ここ数年、顔真卿を基調にした作品に取り組んでいます。重厚な線を意識しつつ自然な流れ



この度の受賞を励みとし、更に書に心魂を注ぎ、古典に立脚した独自性のある書

と爽やかさを求めました。しかしながら力不足で、その思いを表現する事の難しさを痛感しております。限りなく奥深い道ですが、一層の精進を重ねて参ります。今後共よろしくご指導を賜りますようお願い申し上げます。

と爽やかさを求めました。しかしながら力不足で、その思いを表現する事の難しさを痛感しております。限りなく奥深い道ですが、一層の精進を重ねて参ります。今後共よろしくご指導を賜りますようお願い申し上げます。

一字一字懐が広く、草書の特性を活かして小気味良い。運筆の歯切れの良さも見える。



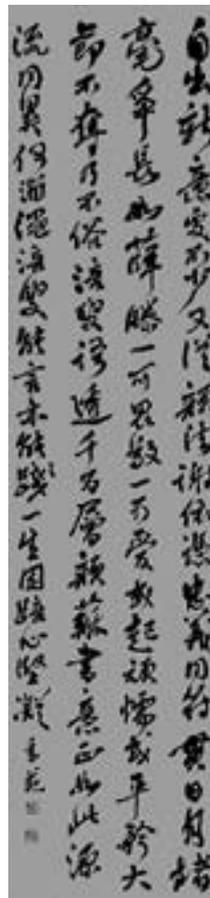
記念賞

第一部 戸松 香苑



この度は、栄えある記念賞を賜り、大きな驚きと共に身に余る光栄と感謝しております。

これも偏に、師匠をはじめ、諸先輩方、書友に恵まれ、又家族の温かい支えがあったお蔭と心からお礼申し上げます。



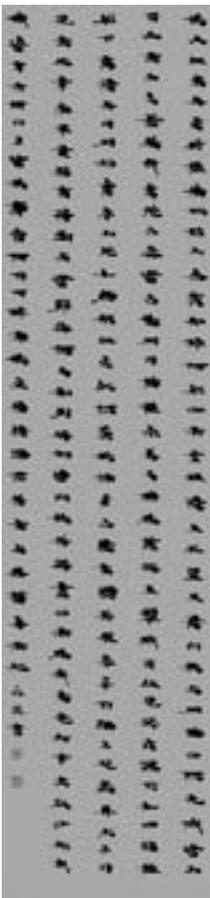
記念賞

第一部 中島 永溪



栄誉ある中部日本書道会創立八十周年記念賞を受賞できました事、心よりお礼申し上げます。初めて出品

した時、名古屋市博物館の静かな一室に展示されてきました。「今日がスタート」未熟な作品と向き合い目標が明確になった瞬間でし



何紹基の作品に取り組んでからまだ日も浅く、この作品もまだまだ力量不足ではありますが、作品の礎は古典であると思っております。今後共、変わらぬご指導の程よろしくお願

文字を小粒に配して行間をあげ爽快感を出している。

た。それから二十五年余り。私の師は形式にとられる事なく、幅広く書道の勉強をさせて下さり、この度の作品も「一文字の中心を意識してまっすぐにのびやかに書く事が大切」とご指導頂きました。いつも温かく支えて頂いた先生、諸先輩、社中の皆様に感謝の気持ち忘れず今後も精進して参ります。

多字数であるが一字一字に豊かさ厳しさの表情があり、章法上の効果もある。

記念賞

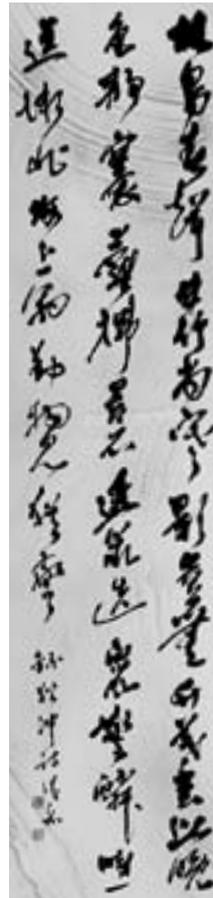
第一部 中村清岳



この度は創立八十周年の記念賞受賞の榮譽に浴し、喜びと感謝の念に堪えません。

傳山の書風に、

巧拙を超えた大らかな魅力を感じ、ここ十数年追究してきました。筆を走らせ過ぎず、しかも筆勢を衰えさせない運筆はどうしたら実



現するの。傳山の作品を何度も臨書しながら鑑賞して参りましたが、未だ汲めども尽きぬ氣韻を感じております。
三年前に亡くなった師匠に受賞を報告できますこと、誠に幸せに感じます。また、今後はこの賞に恥じぬようより一層精進して参る所存です。誠に有難うございました。

〔評〕

線の伸びと縮みを出した快い運筆のリズムが良い。時折振幅を描いて余白の美を作っている。

記念賞

第一部 坂野竹童



この度、師匠を始め諸先輩、社中の皆様の厳しくも愛情あるご指導をもちまして、栄えある「記念賞」を受賞出来、只々深く感謝しております。

これを機に、私自身の永遠のテーマ「王鐸」の書法の探究を体の許す限り目指して、努力していく所存でありますので、今後共変らぬご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

墨量の流れが作品の柔らかさを表わしている。字間の密度が行間の明るさをひき立てている。



記念賞

第一部 平野公愼



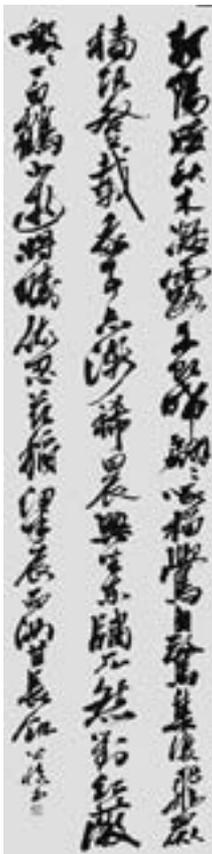
この度は第六十四回中日書道展に於いて、栄えある記念賞を賜り誠に有難うございました。創立八十周年

年は尺牘を学び、強靱な線を作品に活かせればと思っております。手書き文字が少なくなる中で、微力ながら伝統文化である書道の継承者として書活動が続けてまいりました。この賞を励みにして次世代に手書き文字の必要性を伝え、育てていきたいと思っております。今後ともさらに諸先生方のご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

筆の動き、線の強弱、わずかな余白等、自然な風韻で仕上げられ、作者の意図が想像できる。

という大きな節目の年にいただけましたことは意義深く、また生涯のよき思い出となりました。石鼓文との出会いから呉昌碩に傾倒し、近



記念賞

第一部 林春翠



この度、中日書道展において栄えある記念賞を賜り、感激一入でございます。これも偏に永らくご指導

頂いた師匠をはじめ諸先輩、そして審査にあられた諸先生方のお蔭と深く感謝致しております。

〔評〕

行間もあり、線も強く、妥協を許さぬ厳しさがある。



記念賞

第一部 藤井幸堂



平成初期より中日書道会に入会、出品させて頂き、この度の第六十四回におきまして八十周年記念賞を受賞いたしました。今回の受賞に驚くと同時にうれしさをかみしめています。

文字数の多い作品のため、一字一字に気をくばりながら、余白の美と字間、行間のバランスを表現いたしました。

また、師匠より潤渇と墨量に関するアドバイスをいただき、力強い作品に仕上げる様ご

記念賞

第一部 松田樹幹



第六十四回中日書道展におきまして中部日本書道会創立八十周年の節目の年に記念賞を賜りました事は、諸先生方、関係者の方々のご指導、ご支援のおかげと深く感謝すると共に、お礼申し上げます。

又、今は亡き恩師の霊前に受賞の報告が出来ましたことは私の最大の喜びです。

指導いただきました。

書の道の楽しさは無限であり、これからも続けて行きたいと願っています。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

墨の潤渇、線の伸び縮みを取り入れ、全体的にやさしさを表現した作。

作品につきましては、淡墨の美しさを追求した心算ですが、まだまだ未熟な私ですので表現できただかどうか……。

この受賞に恥じないよう一層研鑽して参りますので今後共ご指導、ご支援の程宜しくお願ひ致します。

〔評〕

思いのままに筆を走らせている。懐も広く清澄な作。



記念賞

第一部 丸山聖峰



八十周年記念賞を賜り、身に余る光栄と感謝の思いと共に、賞の大きさに責任感で一杯です。これも偏に師をはじめ諸先生方のご指導の賜とお礼申し上げます。

幼少の頃に書の基本を教えて下さった師、大学時代は臨書に明け暮れて基礎が作られ、現師のもとで創作の深さを学び、練質と余白における美の追究をしてまいりました。

今回の作品は墨色の美と横作品の行間の響

記念賞

第一部 村上史麗



この度八十周年記念賞を思いがけず受賞出来、驚きと嬉しさで胸が一杯でございます。これも偏に、こ

これまで導いていただいた故人である恩師と社中の皆様の励ましのお蔭と、心より感謝申し上げます。

作品は王鐸・米元章をベースに連綿を意識しながら、練質と流れを重視して制作しまし

き合いによる余白、奥行きのある作品を心掛けて創作しました。今後は幅広い表現を目標に人間力を磨き、より一層精進して参りますのでご指導の程よろしくお願ひします。

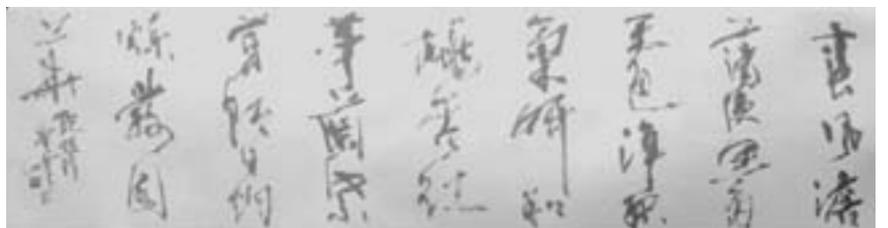
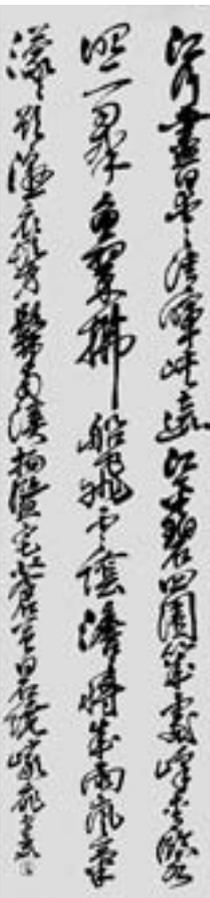
〔評〕

洗練された筆線と紙面構成、疎密緩急、潤渇とを巧みに配し爽快感のある作。

たが、意図とは遠く固い部分が残る作品となつてしまいました。今後も私なりに歩みは遅いですが、一歩一歩基礎を踏み締めながら精進してまいりたいと思いますのでよろしくご指導をお願いします。

〔評〕

腰をおとし安定感を持ちながら、よく動いている。字幅も時折見せて懐の広さを表わしている。



記念賞

第一部 森 清葉



この度は、中日書道会創立八十周年の記念の年に荣誉ある賞を戴き身に余る光栄とお礼申し上げます。

私には遙か遠い賞と思っておりました。これも偏に諸先生、社中の諸先輩のご指導の賜と深く感謝しております。

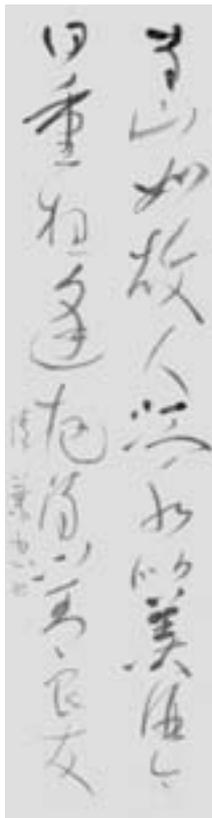
作品を作る時はいつも師の教えである「変化に富みその中で調和とリズムがマッチしてはじめて作品が完成される」その言葉を胸に作っていますが、自分の未熟さを痛感するばかりです。

今後とも精一杯目標に向って頑張りたいと思っております。

今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

清楚な筆線と行の流れ、余白の美、統一感と律動感を備えた作。



記念賞

第一部 山田啓峰



第六十四回中日書道展におきまして記念賞をいただき、驚きと喜びで胸がいっぱいです。これも偏にわ

が師をはじめ、諸先生方のお蔭と深く感謝申し上げます。毎年花粉症に苦しみながらの制作で、今回

も集中して一枚を書き上げることがなかなか出来なくて苦労しましたが、墨量に気を配り、強い線を書くことを心掛けました。

今回の受賞を新たな出発点とし、一層の努力を重ね精進して参ります。今後とも先生方のご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

線の切れがシャープで明るさが持ち味。線の強調と抑制がこの作に立体感を与えている。



記念賞

第一部 山田海石



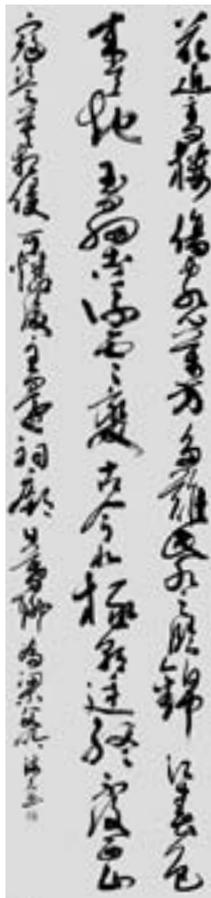
第六十四回創立八十周年記念展におきまして、記念賞を受賞できましたことは、この上ない喜びと身の引き締まる思いです。昨年亡くなられた師のお導

きは勿論のこと、審査に当られました諸先生方のお力添えによるものと心より感謝申し上げます。

詩は杜甫から選び、師風を受継ぎつつ、字は王鐸字典から選び、書いては推敲し、書いては推敲をする日々でした。余白、字形潤濁、線の遅速肥瘦、作品を作るに大切な要素に注意して書きました。この賞を機にさらに精進する所存です。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉

筆画の強弱を明確に表現した作。文字の表情が快く目に映る。



記念賞

第二部 岡地紅華



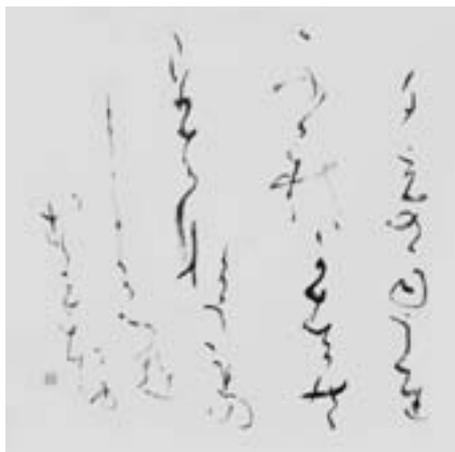
記念すべき創立八十周年にあたる第六十四回展におきまして、思いがけず記念賞を賜り感激しております。

す。これもひとえに諸先生方のご指導のお蔭と心から感謝申し上げます。今回の作品は「品格が大切」という亡き恩師の言葉を念頭におき、「清ら」な線質を

無心で書きあげました。

奥深い書の道を追求めればする程、日頃の浅学を痛感しております。これからも古筆を学び精進を重ねて参りますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

洪味のある線がもち味で、墨量の変化で作品の奥行き、面白味をいかに発揮している。



記念賞

第二部 家田馨子



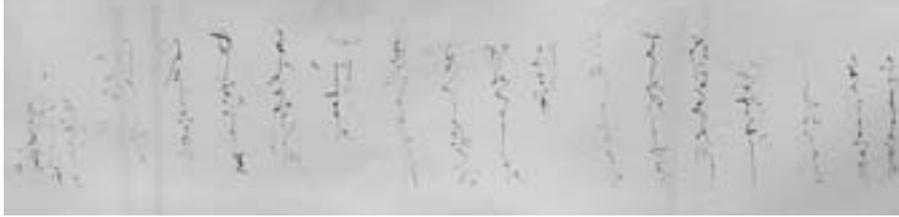
中日書道会の八十周年記念の年に貴重な賞を戴く事が出来、大変嬉しく思います。

今回の作品は、数年程前から勉強している一條撰政集をもとに、その匂いのある作品を取り組みました。細字とは違い、中字での創作は私にとっては非常に困難でしたが、師匠のご指導のおかげで良い作品に仕上げることが出来たと思います。

まだまだ勉強不足、力不足ですので、より一層努力を重ね、納得の行く作品創りに励んで行きたいと思えます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

〈評〉

熟練を積んだ運筆から生まれる強い線と行の絡みを加えた巧みな表現がほどよく調和して厚味のある作品となっている。



記念賞

第二部 池田成子



遍路先の松山で祝報を受け驚き、寺詣のおかげかと思いました。今回は仮名と漢字の調和に悩み未

消化のまま出品となりました。元永本古今集等の臨書をもっとやらねばと思っています。細字仮名は、線、墨、余白など繊細で書く楽しさは格別です。少しづつでも目標に近づこう努力したいものです。

このたびの受賞は仮名書道の手ほどきや、「忙しいから書ける」と励まして下さった亡き師、根気よく指導下さいます現在の師、そして何よりは良き仲間達のおかげかと感謝の気持ちで一杯です。

〈評〉

明かるく温かみのある線質が魅力で、洗練された気品に満ちた作品。



平成26年度 総会
本会功労者表彰・創立80周年記念第64回中日書道展授賞式
公益社団法人 中部日本書道会

記念賞（2部～5部）受賞者

記念賞

第二部 大崎水穂



この度はありがとうございます。記念賞の朗報は夢のようで感無量です。

お習字大好きな

母の勧めで、近所に出来た教室へ小三の時入会。それが今の師との出会いです。魔法のように筆をあやつられる先生に魅了され、「もう少し上手になりたい。」と今日までやって来ました。

多くの方とめぐり会い、多くを教わり、そして支えていただき、感謝の念でいっぱいです。

記念賞

第二部 倉橋松容



突然の受賞の知らせに驚きと戸惑いを感じております。亡き夫に素晴らしい報告が出来大変うれしく思っております。

作品を作る時、いつも多くの注文を出しすぎパニック状態！ 暗闇の中で踊いております。そんな中での受賞、喜びの気持でいっぱいです。今後この注文を一つでも消化出来る

す。

更に古典を深め、皆様と共に歩んで行きたいと思えます。今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

〈評〉

大きな動きの中に深味のあるまろやかな線と墨量の変化による作品の山場づくりがみごとである。

よう精進努力してまいります。

師をはじめ選考していただきました先生方に厚くお礼申し上げますとともに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈評〉

行と行の絡み合い、墨の潤濁と空間の扱いに妙味がみられる作品である。



記念賞

第二部 後藤文明



中部日本書道会創立八十周年という節目の年に、このような大きな賞を頂き、大変光栄に存じます。

関戸本古今集を土台に、仮名文字本来の大ききで作品作りを続けてきました。今回は少し散らし書きの要素を加味し、行頭の高さや行間に変化を持たせました。

作品を作るときは、素直で親しみやすいものにするために、奇を衒わず、読みやすい造形性を心掛けています。

〈評〉

関戸本古今集を基調とした深いキャリアとその本質追求の葛藤が感じられる作品。



記念賞

第二部 高木紅舟



八十周年という節目の年に記念賞を受賞できましたこと、大変嬉しく心より感謝申し上げます。

今回の作品は新古今和歌集より三首を私の好きな古筆、関戸本古今集を基にやわらかな潤筆と繊細な渴筆の調和に心がけ制作しました。構成は一首ずつが独立しながらも三首が紙面で協調し合うように心掛けました。又余白もたつぷり取り涼やかなイメージに仕上げたいと欲張りしました。まだまだの出来ですが気持ちよく書き終えた一枚です。

この受賞を励みに一層精進したいと思います。

〈評〉

三つの集団による構成美とその調和に苦心の跡がみられる秀作。



記念賞

第二部 長谷川 滴水



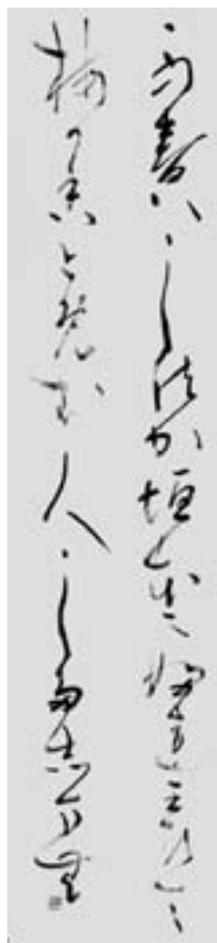
この度は思いも
かけない記念賞受
賞にただただ驚い
ております。これ
も偏に師匠ご夫
妻の日頃のご指導

の賜と感謝申し上げます。
昨今はなぜか日本ということを意識させら
れることが多く、それにつれ以前に増して西

行の『山家集』を読み返すことが多くなりま
した。そこに練り広げられる日本人の美意識
に思いをはせながら書表現を考えると、答え
はそうそう簡単には見い出せません。ひたす
ら試行錯誤の繰り返しですが、今回の作品は
そんな思いを込めて制作しました。

〔評〕

大字かな縦二行の平凡な表現ではあるが、
作者の大きな人柄とどっしりとした書きぶり
が特徴となった作。



記念賞

第二部 三橋 紅月



創立八十周年記
念の年に受賞出来
ました事は、本當
に身に余る栄誉と
心よりお礼申し上
げます。審査にあ

たられました諸先生、諸先輩
方のお蔭と深く感謝申し上
げます。
作品は、源氏物語より取
り、それを散らし書きに致し
ました。行間の余白と墨色の
調和を心がけ少しでも雅で
優美な作品に仕上げられた
らと念じながら書き上げま
した。



今後「継続は力なり」の言葉を大切に、
一層精進努力して参りたいと存じます。
よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

細字作ながら古筆を基調として、動と静の
中に調和のとれたみごとな作品である。

記念賞

第二部 山口 裕子



この度は、思い
がけなく記念賞を
戴き、感激と驚き
で胸がいっぱいで
ございます。

をはじめ審査の先生方のご厚情の賜と感謝申
し上げます。
墨色、行の流れ、空間の響き、線などを考
慮し、おおらかさが表現できればと試みまし
たが日頃の勉強不足を痛感するばかりです。
よき師、よき書友に恵まれ今日まで続けて
来られた事に倅せを感じております。

この賞に恥じぬよ
う、一層精進してま
いりたいと思いま
す。今後ともご指導
賜りますようお願いし
てお願ひ申し上げます。

〔評〕

草の実が「はじけ
る」様な書風で、動
きがあり、墨量の変
化を巧みに表現して
作品に厚味を加えて
いる。

記念賞

第三部 伊藤 芳香



この度は記念賞
を賜り身に余る光
榮と存じます。こ
れも偏に温かいご
指導でここまで導
いて頂いた師匠始
め諸先生方・諸先輩方・書友の皆様のおかげ
と心より感謝申し上げます。

作品制作にあたり、日ごろから初唐時代の
古典やかな古筆を勉強しています。今回の作
品は終筆の時、筆の毛の最後の一本まで気を
配りながら次画へゆつたりと筆を運び、作品

全体の流れを意識す
ることを心掛けた作
品でした。
賞の重みに身の引
き締まる思いを感じ
ています。今後も一
層努力精進を重ねる
所存でございますの
でご指導ご鞭撻の程
よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

潤渇を巧みに変化させ、三行多字数にゆと
りを見せた構成が奏効。運腕更に振幅を増せ
ば尚スケール大なり。



記念賞

第三部 岡本桃香



此度は、榮譽な賞を賜わりまして光栄の極みに存じます。これまで導いて下さいました

恩師、審査に当たられました諸先生方のご尽力、ご厚情の賜物と、衷心より有難く篤くお礼申し上げます。「書は心画なり」と申しますが、作品即心の投影と常々思っております。素材選びから表装に到るまで一連の心の絵日記を綴っているかの様な感さえ致します。これからの目標の一つとして、利那を楽しみ乍ら自然の気

記念賞

第三部 白田香風



中日書道会が創立八十周年を迎えられた年に記念賞を賜りました事は感慨深く、厚くお礼申し上げます。

初出品より四十年余り、亡き師との出会いからは半世紀以上。ここまで続けてこられたのは、亡き師の温かいご指導、諸先輩の励まし、書友の支えがあったお蔭でございます。今回の作品は、書類搬入間近でサイズ変更し時間に追われる中、現師の熱心なご指導によ

と折り合わせて作品制作できたらと思っております。今後共、ご指導ご叱正賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

歌の調べに乗せ、沈潜した用筆が美しい線を描いてゆく。字粒の大小、潤濁の兼ね合いに終始一貫した主張あり。

り出品する事が出来ました。そして、思いがけず吉報を頂きました。今後は、よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

線の練度が高く躍動する気分が印象的だ。習熟された筆法が自在に働き変幻に富んだ作調に魅了される。



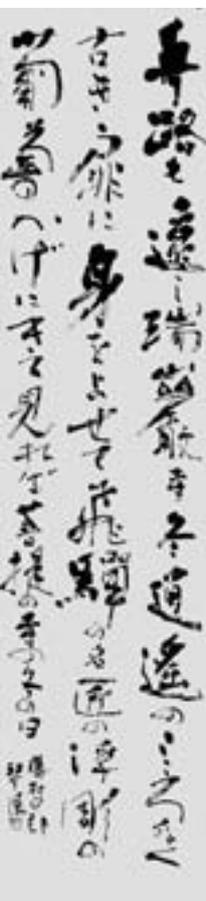
記念賞

第三部 小川琴風



あまりにも突然、且つ身に余る受賞に、とても嬉しい反面戸惑う思いです。今までマイペースでやって

きた私には実力以上の評価ではと、心の葛藤が続きます。作品は藤村が冬の瑞巖寺で名匠の浮彫からどんな叙情を感じたのかに思いを馳せ書いたものです。日頃指導頂いている軽



いたツチで筆の開閉が自在にできる技法を作りたいと思いつ、も、満足のゆく出来には、ほど遠いものです。師匠始め回りの多くの方々に支えられ、頂いた賞です。少しづつ、でもお返し出来る様、これからも楽しみながら精進したいと思えます。本当に有がとうございました。

〔評〕

温雅な筆致で樂趣を秘めた作風に好感が持てる。線質に厚味があり、「かな」との調和も極めて自然だ。

記念賞

第三部 川合採星



伝統ある中日書道会の節目の年に「記念賞」を頂戴し誠にありがとうございました。

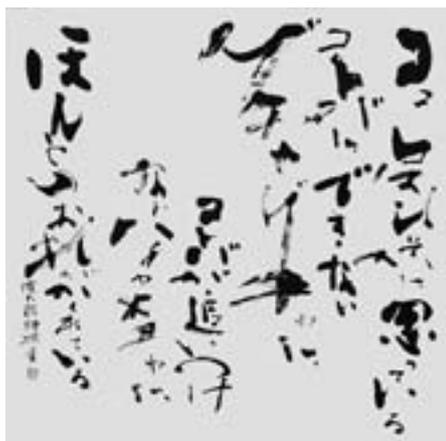
感じるイメージを作品にと心掛けていますが、今回、俊太郎の素直な心の表現をどう構成するか試行錯誤の連続でした。

この受賞は、中日書道会、東海創玄書道会の諸先生方のお力添えによるものと厚くお礼申し上げます。又、亡き師、社中の仲間、家族に支えられて今の自分がある事を心から感謝いたしております。

今後はより一層の精進を重ねますので変わらぬご指導を賜ますようお願い申し上げます。

〔評〕

落筆の高さが筆鋒の開閉を巧みにし、程良い渴筆を表現する。詩の選び方の大胆さが奔放な快作に繋がった。



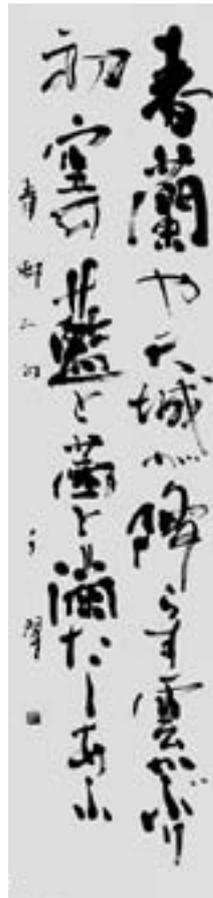
記念賞

第三部 小嶋千翠



この度は、身に余る「記念賞」を戴き誠に有難うございました。これも偏に、いつも熱心にご指導下さる師をはじめ、諸先生、書友の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。

作品は、俳句二句の作品制作に挑戦したものです。まずは、選句、構成上調和する二句



を探すのに一苦労、更に、表現において書きたい句は、中々まとまらず試行錯誤の連続、ギリギリまで制作、力不足の段階での受賞に戸惑いを隠せません。試練の一步と受け止めて、魅力ある作品を目指し精進してまいります。今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

オーソドックスな手法ではあるが秘められた滋味は技量を物語る。この安定感に加え意外性ある表現も学びたい。

記念賞

第三部 澁谷鳴風



この度は、栄えある記念賞を賜りましたこと、心より厚くお礼申し上げます。思いもよらぬ受賞に驚き、

賞の重みに身の引き締まる思いで一杯です。これも偏に師匠はじめ、諸先生方、又社中の皆様の支えのおかげと深く感謝申し上げます。作品は、題材をあれこれ迷っていた折、ソチ五輪での浅田選手の感動的な演技を見て、この句に決めました。なかなか思うように筆を運べず、力量不足を痛感いたしました。この賞の重みを自覚して今後精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

大胆な筆法は豪放で傑出している。三行構成の中央に明るさを求め、両サイドの潤筆に象徴性を高め効果大。



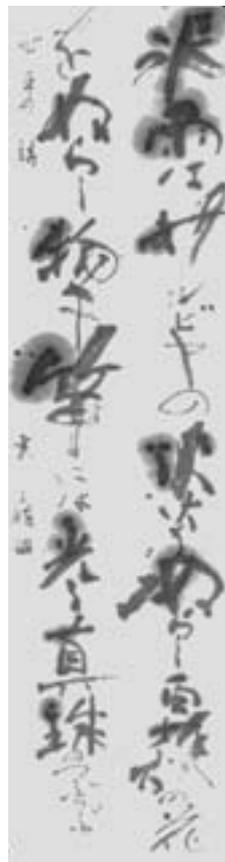
記念賞

第三部 杉本京扇



創立八十周年の記念展におきまして記念賞をいただき誠に有難うございました。三十年余り、近

代詩文書を学ばせていただき亡き師匠も喜んでくださっていると思います。又諸先生のお蔭とお礼申し上げます。書は子供の頃から好きで始めておりまし



た。そして淡墨に魅せられ今回の作品も二行で心平の詩を長鋒で筆のリズムにまかせ楽しく書くことが出来ました。人生も後半に入り好きな書で賞をいただき、これからも続ける事で良い作品が書けるように努力して参りたいと思っております。今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

淡墨の効果を見せる技は随分修練を重ねたのである。難度の運筆を巧みにこなした表現力は見事な手腕だ。

記念賞

第三部 津田松鶴



この度は、記念すべき創立八十周年中日書道展におきまして、栄えある記念賞を賜り誠にありがとうございます。

います。目標としておりました受賞に大きな喜びを感じると共に、日頃から熱心にご指導くださる師、そして支えてくださる登統社の

皆様へ感謝の気持ちで溢れております。変わりゆく環境の中でも、書だけは変わらずに続けていられることを幸せに思い、これからも楽しみながらなお一層練習に精進を重ねていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

〔評〕

氣力を漲らせて紙に向かった姿が目につかぶ。筆線は一气呵成の魅力に溢れ、心地良い冴えを見せた。



記念賞

第三部 寺島春恵



中部日本書道会
創立八十周年に当
たり栄えある記念
賞をいただき誠に
ありがとうございました。

このような身に余る榮譽に浴することを
得ましたのも、ひとえに師はじめ諸先生のおか
げと心よりお礼申し上げます。

又、良き書友に恵まれ、今日まで続けるこ
とができましたことに改めて感謝しておりま
す。

未熟ではありますが、責任ある賞の重さを
自覚し精進してまいりたいと存じます。今後
ともご指導よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

思わず全文読み切りたくなる。リズムが一
貫しているから。傾斜が目には優しいから。い
い作品はこれが大切だ。

記念賞

第三部 長谷川 鸞卿



この度は、中日
書道展におきまし
て、記念賞を頂き、
誠にありがとうございました。

諸先生、またご指導していただいた先生、先
輩方に厚くお礼申し上げます。
作品制作においては、出品出来る作品が、
一作でも書ければと
紙に向い筆を取りま
すが力量不足で苦惱
するばかりです。し
かしこの受賞を励み
に更なる努力を重
ね、これからの作品
展開に活かしていけ
ればと思っております。



創立八十周年記
念第六十四回中日
書道展において記
念賞を受賞させて
いただき、ありが
とうございました。

た。これも偏に師をはじめ、愛知県独立書人
団の指導者、仲間の皆様のおかげだと感謝し
ております。

この賞に恥じないように、表現する文字の
意味を噛みしめ、今後も、味わいのある作品
制作を目指し、ゆつくりと書の道を歩んでい
きたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻
をよろしくお願い申し上げます。
ありがとうございました。

〔評〕

淡墨作品としての情緒的、真率なまでの静
安さが満ち、抑場のリズムと滲みが細部まで
ゆきわたる気韻豊かな作。

記念賞

第三部 中野 世津香

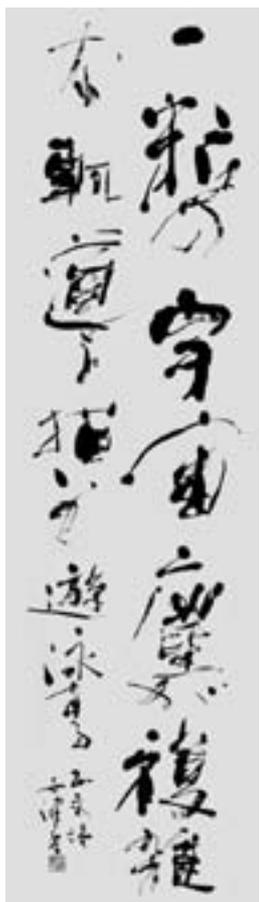


突然の電報で記
念賞受賞の知らせ
を頂きとても驚き
ました。
幼き頃より師匠
に、時には厳しく
時には優しく手を取っていただいた感覚は、
数十年過ぎた今でもはつきり記憶していま
す。

今回の受賞は、亡き師匠、多くの諸先生方
や、諸先輩方の温かい励ましやご指導のお蔭
と深く感謝致しております。
常に試行錯誤の作品づくりではあります
が、過分な賞を賜りました事を機に、より一
層勉強し、身を引き締めて参りたいと思いま
す。本当に有難うございました。

〔評〕

大きく羽搏くポーズは明朗感に溢れてい
る。フォームは躍動し筆鋒がうまく展開して
軟かな軌道を描く。



記念賞

第四部 香村孤竹



創立八十周年記
念第六十四回中日
書道展において記
念賞を受賞させて
いただき、ありが
とうございました。

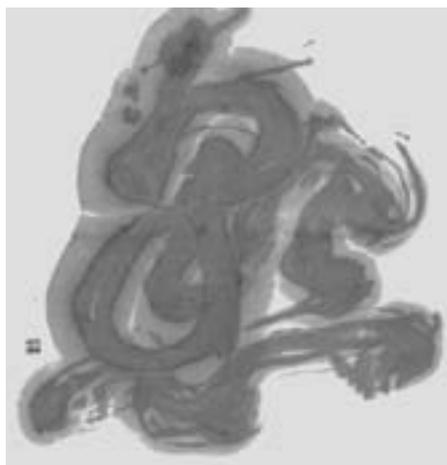
た。これも偏に師をはじめ、愛知県独立書人
団の指導者、仲間の皆様のおかげだと感謝し
ております。

この賞に恥じないように、表現する文字の
意味を噛みしめ、今後も、味わいのある作品
制作を目指し、ゆつくりと書の道を歩んでい
きたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻
をよろしくお願い申し上げます。
ありがとうございました。

〔評〕

淡墨作品としての情緒的、真率なまでの静
安さが満ち、抑場のリズムと滲みが細部まで
ゆきわたる気韻豊かな作。

漢字で鍛えた手法
は手堅さを見せ、重
厚な筆致と行間を充
分にとった明朗な構
成法は見応えのある
作風だ。



記念賞

第四部 鈴木 美都子



八十周年という記念の年に、すばらしい賞をいただき、誠にありがとうございます。ごさいいます。

「妙」を辞書で引くと、すばらしいものとあります。漢字には各々に意味があり、それを書で表すことは、とても意義深いと考えております。その言葉を選んだ今の自分の背景には、感動があったり、その文字に共感を覚えたりと、何かしらきっかけがあるのではないのでしょうか。自分の現在の思いを書で表現することに喜びを感じております。

今回「妙」で賞をいただき、すばらしき出会いがあつた事に感謝申し上げます。

記念賞

第四部 築山 みなみ



第六十四回中日展におきまして記念賞を賜り、誠に有難うございました。これも偏に温かくご指導してく

ださいました先生方のおかげと深く感謝致しております。

今回の作品は、墨量、潤濁、余白を意識し「牧」のイメージの広々さを表現できるように試みましたが、まだまだ思うようには制作できず、更なる挑戦の意を得た次第です。

今後はこの受賞を励みとして、「継続は力なり」をモットーに焦らず楽しみながら尚一層精進して参りたいと思います。ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

筆画深く、鋒先が良く活動し、紙面に食い込んでいる。清健にして暢達、筆の表裏を駆使した筆力旺盛なる作。



〈評〉

筆を高い所から落筆、最終画まで気力充実、筆力剛健にして、ふところ大きく、規模雄大な躍動感溢れる作なり。



記念賞

第四部 溝俣京子



すばらしい賞に喜びと戸惑いの気持ちです。ありがとうございます。ごさいいました。

「我以外皆我師」をいつも胸に、これまで育ててくれたのはすべての方々と、感謝の気持ちで一杯です。この不安な世の中でも、いつまでも明るく光り輝けるように、大らかな気持を持ち続けたいと、作品に取り組みました。これからも自分の思いを出せるように言葉の意味を大切にして作品と共に成長できたらと思います。今後とも一層のご指導をいただきますようお願いいたします。

記念賞

第四部 山田 晞予



想えば師亡きあと十年近く、個人として愛知県独立書人団に属し、多くの先生方にご指導、ご支援を賜りました。

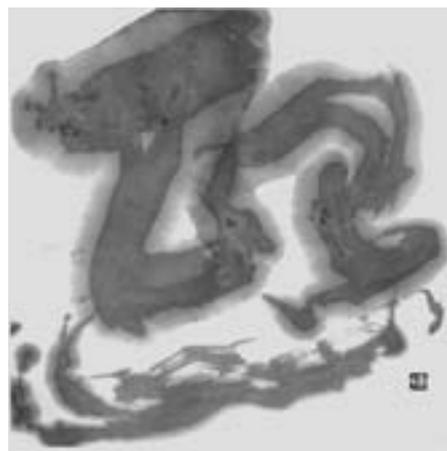
今回の「翔」は何の気負いもなく、不思議な力が腕を動かし、自然に作品が出来上ってしまったものです。

亡き師ならきつと「この作品には叡智がある」などと、笑顔でほめて下さったかな、と一人対話を楽しんでいます。

今後は古典の法帖をくり返し勉強しつつ、「書くしかない」と心に決めていきます。「記念賞」を頂き誠にありがとうございます。

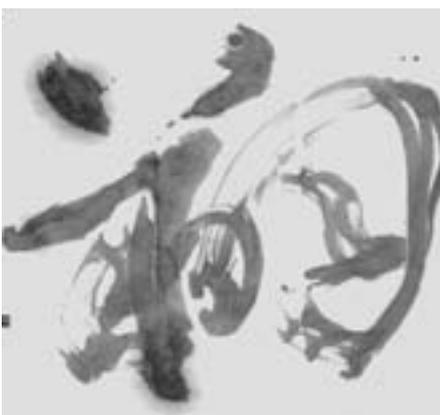
〈評〉

書き始めから順次筆力が増して気満に満ちた作、作者の感情が線のリズムによって形づくられた勁健なる作。



〈評〉

用筆練達にして気脈がよく貫通している。筆致の流れを縦横曲直の筆の捻れの変化がよく表現されている作。



記念賞

第四部 山田梢心



この度の八十周年記念展では、思ひもかけぬ記念賞をいただき、驚きとともに喜びでいっぱいでございます。

書道を始めた頃の、筆を持つ毎日が楽しくて充実していた日々を思い出します。

今回の作品は師のあたたかく、やわらかい線を思い出しながら、「自分らしく」を motto に、余白を生かし、品のある作品に仕上げたいと思ひ筆を運びました。

ご指導頂いております先生方、ならびに書友の励ましに厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

記念賞

第五部 岩本祥龍



この度は記念賞という大きな賞を賜わり大変驚いています。これも先師を始め先輩諸兄や共に学んで来た友人・仲間を支えられての事と、感謝の気持ち一杯です。

篆刻を始めた十九歳の頃は何も分らず、この道は実に地味で遠い世界と感ぜられ「兎に角続ける事」と自分に言い聞かせ今までもそうであった様に、これからも地道に精進するのみです。古稀を過ぎた自分に何が出来るのか？ やれる事を精一杯に頑張ってみようと思ひます。

今後共ご指導、ご鞭撻の程 宜敷くお願い

〈評〉

筆力が点画にこもり、筆意が最終画まで貫通している。凜とした冴えた線条が良い。筆当り自然で、余韻が澄む作。



致します。

〈評〉

「水」が重複し、また扱い辛い多字数を見事に処理された。三字目の「水」に思惑があり観るものを惹きつける。



記念賞

第五部 上前総子



八十周年記念賞をいただき誠に有難うございました。思いがけない受賞に驚き、喜び、そしてその重さに身の引き締まる思いで一杯でございます。これも偏に師の温かく忍耐強いご指導の賜と心より感謝申し上げます。

作品は印文の構成を考え金文を選びました。特に魚の造形的な面白さを表現したいと思ひました。その過程は自身の未熟さを痛感することでもありました。この受賞を励みに一歩一歩努力と精進を重ねて参りたく存じますので、よろしくご指導賜ります様お願い申し上げます。

第六十四回中日書道展創立八十周年記念賞という名誉ある賞を賜わり誠に有難く厚くお礼を申し上げます。



す。これも偏にご指導下さいました師匠をはじめ本会の諸先生方のお蔭と心より感謝を申し上げます。

今回、出品にあたっては日頃から勉強している甲骨文、西周鐘鼎金石文字、馬王堆簡帛文字等々の中から文字の曲直、疏密など自分なりの作風で印篆（白文）の安定した作品をと思ひ制作いたしました。この受賞を機に一層の精進を重ねて参りたいと思ひます。今後共何卒よろしくご指導を

し上げます。

〈評〉

大胆な構成と切れ味鋭い奏刀は作者の持ち味である。闊達で豪快な作は他を寄せつけない。



賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉

漢印を基調に疎密参差の変化を見せる。章法における独自性があり氣に満ちたベテランの技。



記念賞

第五部 林田虎峰



老子の言葉「絶聖棄智」を、甲骨獣骨文字の白文で刻した。「絶」の字体が面白く、「棄」の字体が複雑に組み合い、その中に「聖」と「智」がはいり込み、印面の余白とバランスを、うまく生かせるように布字しました。この甲骨文字の持つ、線の鋭さ、強さ、そして、弱さを彫りて出したいと思いい、印材、印刀を選定して、こころみましたが、なかなかむづかしく、思うように、味わいが出せず苦心しました。この度、思いかけず栄えある賞を頂き、感激致しております。今後も一層精進してまいる所存でございます。

この度は創立八十周年記念展の年に栄誉ある海部俊樹賞を賜り感謝の気持ちで一杯です。先生方に厚くお礼申し上げます。そして、温かくご指導下さり支えて下さいました師や社中の先生方のお蔭と深く感謝申し上げます。今回の作品は、初心に戻り背伸びをせず、



この度の創立八十周年記念展の年に栄誉ある海部俊樹賞を賜り感謝の気持ちで一杯です。先生方に厚くお礼申し上げます。そして、温かくご指導下さり支えて下さいました師や社中の先生方のお蔭と深く感謝申し上げます。今回の作品は、初心に戻り背伸びをせず、

この度は創立八十周年記念展の年に栄誉ある海部俊樹賞を賜り感謝の気持ちで一杯です。先生方に厚くお礼申し上げます。そして、温かくご指導下さり支えて下さいました師や社中の先生方のお蔭と深く感謝申し上げます。今回の作品は、初心に戻り背伸びをせず、



〈評〉

甲骨文字のプリミティブな味わいを生かし圓筆をモチーフに表現された。古拙渾厚の刀痕が見事に映える。



欲張らず、北魏の楷書で力強く素直に表現したつもりです。いつも詩文選びに苦慮し、仕上がった作品を見る度に、思ったように仕上がらず力不足を痛感し落胆しています。この作品もまだまだ力不足な作品ですが、これを機会にこれからも一層精進したいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

六朝楷書の荒々しさを押え、一字としてバランスを乱すことなく筆力の強弱が作品の厚さを表わしている。字間・行間のとり方抜群。

大賞

第三部 村上薫仍



この度は大賞という栄誉ある賞を賜り、誠に有難うございました。思いもかけない大きな賞に身の引き締まる思いです。

これもひとえに、永年ご指導下さいました師始め、温かく支えて下さった社中の皆様のお蔭と、深く感謝しております。今回、線質、余白、潤濁、流れ、墨量など、常々ご指導を頂いている事を心掛け制作しましたが、まだまだ未熟であることを痛感しております。

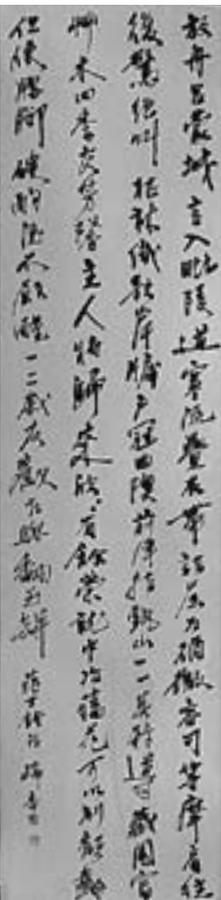
進大賞

第一部 青山瑞香



創立八十周年記念におきまして栄誉ある進大賞を頂き、誠にありがとうございました。突然の吉報を手に

した時の胸の高鳴りは今でも覚えています。師匠をはじめ、諸先生方、又社中の方々のお蔭と深く感謝しております。今回の作品は、行間が入らず字も大きくなり力強さも出ず、苦勞しました。そんな中、師匠の熱心な指導の末に出来上がった作品でした。本当に感謝



今後この受賞を励みに古典の勉強を怠らず研鑽して参りますので、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

縦横に闊達に筆勢が伸び、一体感と明朗性を併せ持つ快作だ。中・大字の作品づくりにもこの余裕を見せたい。

〈評〉

古法をよく学んでおり、黄庭堅を思わせるような結構・運筆に熟練の妙を感じることが出来る作品。

〈評〉

古法をよく学んでおり、黄庭堅を思わせるような結構・運筆に熟練の妙を感じることが出来る作品。





海部俊樹賞・大賞・準大賞（1部）受賞者

準大賞

第一部 浅井紫泉



この度は、栄えある準大賞をいただき、誠にありがとうございます。

中部日本書道会創立八十周年の記念展に受賞できましたことは二重の喜びでございます。これも偏に師匠始め諸先生方のご指導ご支援のお蔭と心より感謝致しております。

墨の濃淡や余白、力強い線、全体のバランスを心掛けて制作に取り組んできましたが、納得のいく作品にはなかなか仕上がらず、自身の未熟さを痛感しております。

この受賞を励みに一層精進して参りますので、今後ともご指導の程お願い申し上げます。

〈評〉

柔らかな筆使いと変化に富んだ墨の潤濁が線に深みを持たせ、厚みのある作品となっている。

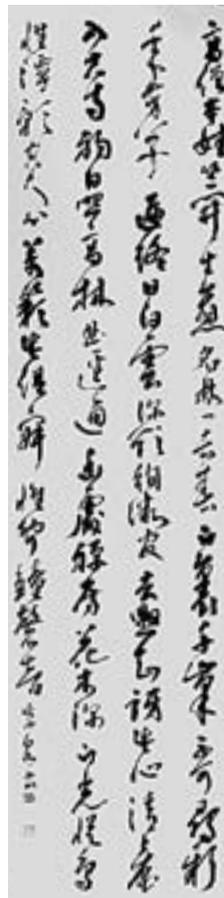
準大賞

第一部 石川瑞祥



第六十四回中日書道展におきまして栄誉ある準大賞を頂き身に余る光栄と感激で一杯です。

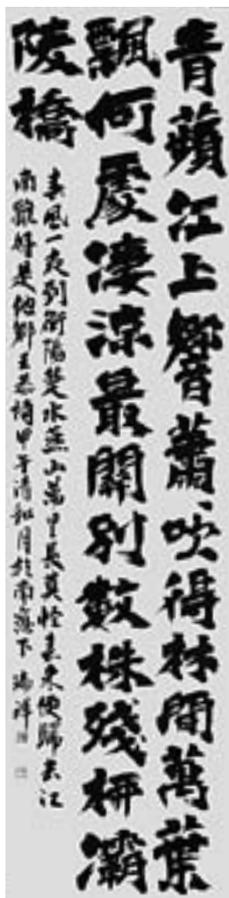
これも偏に温かくご指導下さいました師の支えの賜と深く感謝申し上げます。力強い線の表現に魅せられて数年、墨量、



余白、形質の変化に試行錯誤の繰り返しでした。後半小字は、柔らかく行書との兼合せで構成してみました。思いとは程遠く未熟さを痛感した次第です。この賞を励みに日々精進を重ねて参ります。今後共宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

〈評〉

冴えた線質と骨格の厳しさに、日頃の鍛錬から生まれた技術の高さと強い精神力を感じる。



去風一夜列御隔楚水燕小萬里長莫怪未東使歸去江
南龍峰是仙野王丞相甲子清和月於南燕下 瑞祥

準大賞

第一部 伊藤昌園

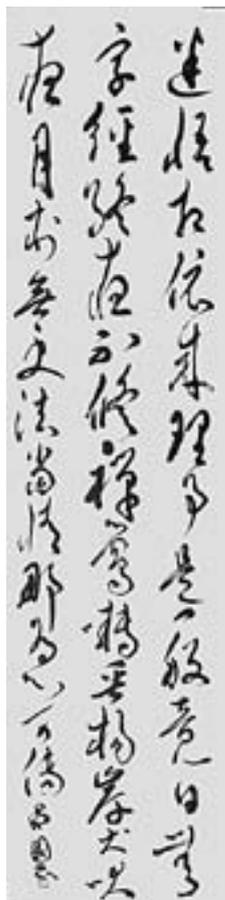


この度は大変栄えある賞を頂き本当にありがとうございます。大ごさいました。大学生から出品を重ね、思えば初めは入選がやっとという感じでしたが、師匠はもちろん、たくさんの方や先輩、書友に出会い、支えられての受賞だと感謝しております。

昨年、書への興味やお酒の楽しさ、本当に様々な事を体験させて頂き、大学時代の恩師が亡くなられてしまい、直接の報告は叶わなかったものの、今回の受賞が恩返しになればと思っております。今後、一層精進してゆく次第でございませう。よろしくお願い致します。

〔評〕

縦方向へ流れて行く、ゆったりとした筆脈と、文字の懐の広さが見事に融合したスケールの大きな作品である。



準大賞

第一部 岩田佳川



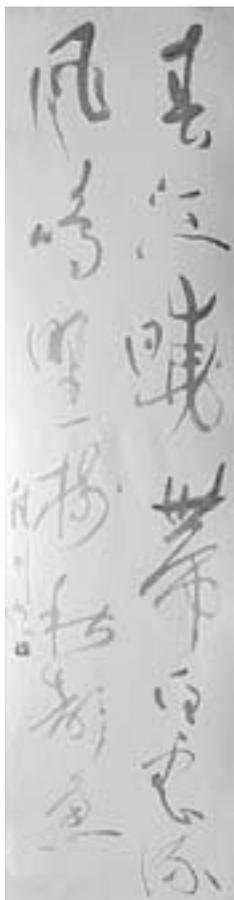
第六十四回中日書道展におきまして準大賞という身に余る賞を賜り、ありがとうございます。大ごさいました。これもひとえに恩師を始め諸先生方の温かく熱心なご指導、社中の皆様の優しい励ましのお蔭と心より感謝申し上げます。

作品は、運筆のリズム、墨量、筆圧の變化、全体のバランス等に心懸けて筆を運びました。しかし思うように進まず自分の未熟さを痛感しております。

これからもこの賞を励みに一層努力し、精進して参ります。今後ともご指導下さいませようよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

大きな動きを淡い墨色で表現することで、ゆったりとして品格の高い作風となっている。



準大賞

第一部 遠藤紫聖

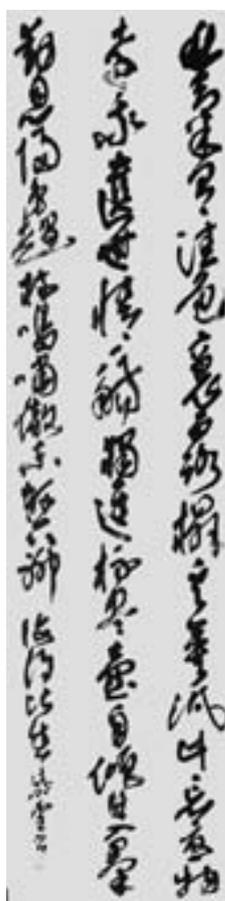


これもひとえに熱意をもってご指導下さいました先生、お世話になった仲間の皆様のお蔭だと感謝の気持ちでいっぱいです。五十文字でいいですね。今回もなんとか提出できたと思っておりますので受賞の通知をいただいた時は信じられませんでした。

こうと決めた後びつたりの漢詩選びには少々拮据こごりました。紙も白、赤、黄色と試し結局黄色に落ち着いたものの、次は墨の濃さ、なかなか思うようにいきませんでした。これからは課題である「リズム良く力強く」を目指し、少しずつでも前に行けるよう精進して参りたいと思います。

〔評〕

呉昌碩のような中鋒を意識した用筆法で書けている。文字に強い躍動感を感じる作品となった。



準大賞

第一部 大谷万里



この度 中日書道展において準大賞を頂く事ができました。大ごさいました。ご指導頂きました先生のおかげでこのような大きな賞を頂く事ができました。

なかなか思う様に書けなかった時も、支えて下さった先生や先輩、又家族の理解があつてここまでやってこれました。この賞を励みに今まで以上に精進していきたいと思ひます。本当にありがとうございます。

〔評〕

行間と字間のバランスが絶妙であり、そこに墨量の変化が加わることで見事なアクセントとなっている。



準大賞

第一部 大原朱桃

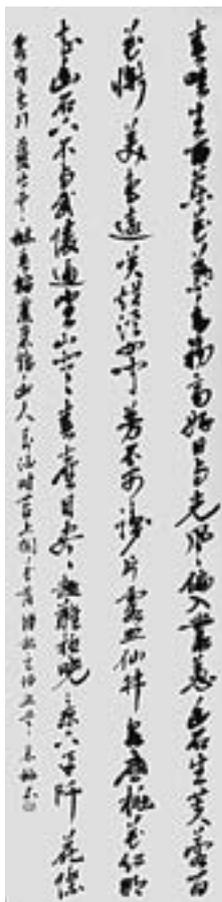


この度、中日書道展におきまして、思いもかけない準大賞という賞を頂き身に余る感激と感謝の気持ちでいっぱいでございます。これも偏に師をはじめ諸先生方のお蔭と深く感謝しております。

自分の作品は欠点ばかりが目につき自信を失いがちですが、この受賞を励みとして未熟さを克服するべく精進してまいりたいと思っております。今後共よろしくご指導ご鞭撻を心からお願ひ申し上げます。

〔評〕

作品全体の明るさとは対照的な文字の密度や重厚さに目を引かれる。かなり完成度の高い作品である。



準大賞

第一部 岡田翔鳳

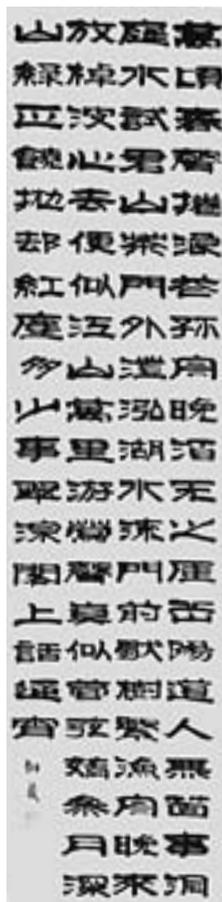


この度は、中日書道展において栄えある準大賞を頂き誠に有難うございます。中国の詩人「王文治」の七言絶句三首を隷書体で書き上げました。わが師の助言を頂き、余白の美しさを整えながら、いかに力強い線を表現することができるか

が、苦心したところです。今日まで書が続けてこられたのも、師の温かい教えと家族の支えがあったからこそと思っており、感謝の一言です。今回の思いがけない受賞により、書に対する気持が一段と強くなりました。自分を更に磨きながら、今後も作品づくりに努力して参りたいと思っております。

〔評〕

隷書の扁平な字形を見事に生かした作風であり、古法を踏まえた運筆にも熟達した技量を感じることが出来る。



準大賞

第一部 加島遊舟

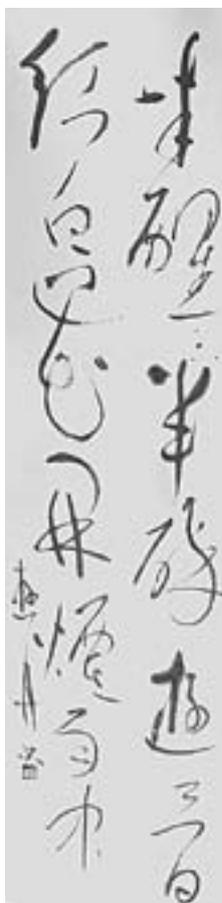


この度準大賞を載き私には身にあらまること大変うれしく有難く感謝致しております。何回かの重病で心が折れ、続ける意欲さえ失いかけたこと、それでも会長、理事長、先輩の先生方、会の仲間、そして忘れてはいけない亡き恩師の指導

があつてこそ、書に夢を持ち続ける事が出来ました。継続は力なり、この年まで続ける事が出来たことを深く感謝いたします。作品は、人生の楽しみと自然の美しい情景を心に思いながら無心で書きました。今後も責任を重く感じ精進する事を心に誓ひ努力致します。

〔評〕

大胆な運筆でありながらも、どこか優しさを感じさせる作風であり、落款の処理も絶妙と言えよう。



準大賞

第一部 加藤定子

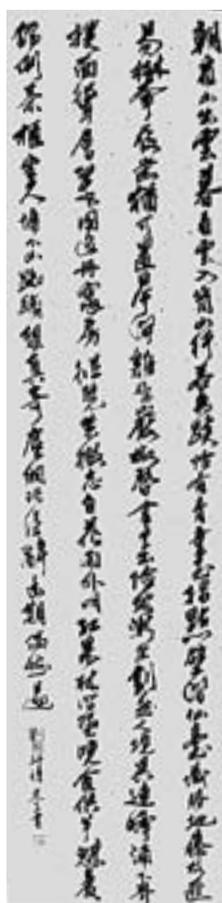


準大賞!! これは私が、想像もしたこともない出来事です。今の自分に何が値するのかが分っていないのが正直な気持です。本当にもったいない程の賞です。ここ迄私を導いて下さった師に感謝申し上げます。お仲間の優しさに支え

られ私は本当に倖者です。単純に墨の匂いが好きで筆が持ちたくなり、娘の同級生のお母さんから教室を紹介され、「書道展」がある事も初めて知った次第です。まだ勉強する事ばかりです。体の続く限り書く事が出来るなら、書は私の最高の宝です。有難うございました。

〔評〕

折り重なるように迫る線とその運筆からは書に対する作者の強い意志を感じることが出来る。



準大賞

第一部 河合翠山



長良川の間に、赤く燃える篝火が映し出され、岐阜に夏を告げる鶉飼いと共に、本会より吉報をいただきました。

思えば書を始めて二十五年、五年前に中国美術學院に一年間留学し、篆隸楷行草書の書法を学び、隸書の素朴な魅力を知りました。

当學院の教授から、あなたの師は青山杉雨先生ですかと問われ、師の師だと応答もしました。

作品は、後漢時代の礼器碑を礎にし、均衡美や重厚性・温もりを大切にしました。これからも、木簡から鄧石如と剛柔を、追いつ求め、楽しめたらと思います。

〔評〕 罫線を引くことによって、隸書の特徴である横方向への流れだけではなく縦方向への流れも見せたところが魅力。



準大賞

第一部 川瀬 美津子



この度は準大賞という身に余る大きな賞をいただきありがとうございます。喜びと驚きの気持ち一杯です。

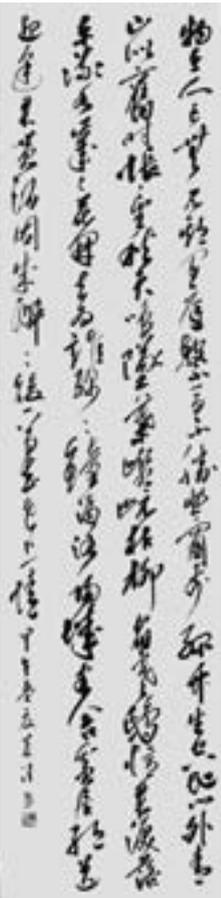
書道教室に入れていただいて、もう三十年近くになりますが、書展に出品する時はいつもとても緊張します。そして練習は苦しい時間でもありますが、とても満足感のある豊

かな時間でもありました。

この度の受賞は、師匠の厳しくも温かいご指導と、教室の皆様の温かいご支援、家族の理解のお蔭と深く感謝しております。

今後も書を楽しみながらお稽古に精進してまいりたいと思いますので、尚一層ご指導下さいますようお願い申し上げます。

〔評〕 文字の大小を巧みに使い、墨量に頼らずその変化によって非常に効果的に見せている作品である。



準大賞

第一部 木村青燕



この度は、中日書道展で準大賞を受賞することになり、大変光栄に思います。家内から携帯で連絡を受けました。

は、地に足が着かない気持ちになりました。急いで帰宅し祝電に目を通したら、改めて嬉しさがこみ上げてきました。不器用な私が今回受賞できたのも、日々ご

指導くださる師匠を始め、書道会の諸先生方のおかげと感謝しております。今までに、何度筆を置こうかと思いつながら、今日まで続けてきた結果での受賞なので、感無量です。今回の気持ち忘れずに、新たに出発したいと思えます。

審査をしてくださった先生方に心よりお礼申し上げますと共に、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

〔評〕 重厚な運筆に趙之謙の姿を感じる事が出来る作品。墨の潤渾からも作者の技量の高さを感ずる。



準大賞

第一部 国枝春茜



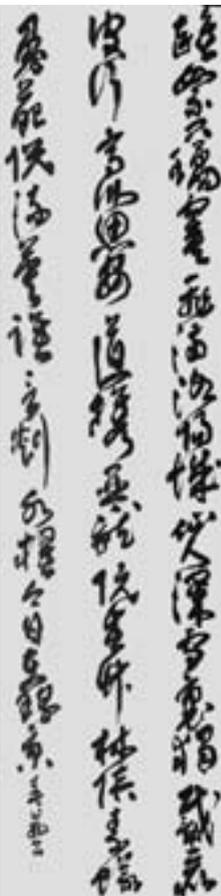
思いがけず準大賞を頂き有難うございました。身に余る光栄と感謝の気持ち一杯です。

き師をはじめ諸先生方のご厚情の賜物と厚くお礼申し上げます。常々充実した人生を送り

たいと思ひ「継続は力なり」を信じマイペースで書き続けてまいりました。本当に喜びの気持ち一杯です。

この受賞を励みに今後も好きな書に尚一層努力を重ねたいと存じますのでご指導下さいますようお願い申し上げます。

〔評〕 一貫した運筆でありながらも、これほどの変化を見せている点が素晴らしい。内に秘めた強さも十分に感じる。



準大賞

第一部 倉田朝華

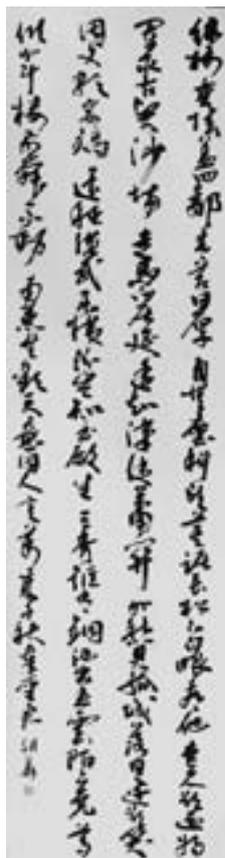


この度、栄えある準大賞を頂き、大変うれしく思います。師匠始め諸先生方の温かいご指導とご支援のおかげと深く感謝致しております。良き先輩方、家族に恵まれて書道を続けられることをありがたく思います。

力まず、肩の力を抜いて書くことを意識して取り組みましたが、技術面だけでなく練心にも重きを置いて勉強しなければならぬと改めて思いました。この受賞を機に、より一層精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

線の厳しさと、スピードが魅力となっている作品であり、何か軽快で楽しい音楽を聴いているようである。



準大賞

第一部 栗木高節

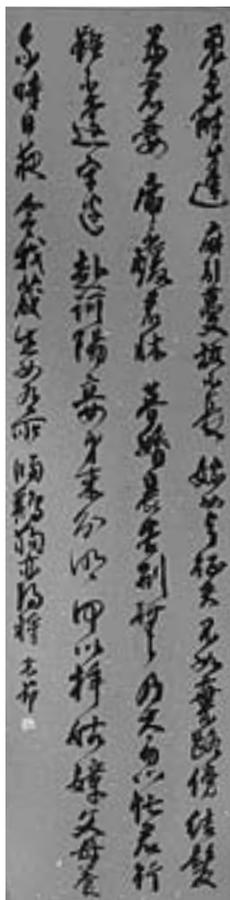


この度は、思いもかけぬ榮譽ある準大賞をいただき、身に余る光栄と感激で胸が一杯でございます。

囲の人々のお蔭と心より感謝致しております。今回の受賞を励みに、まだまだ勉強不足で未熟な私ですが、日々努力を重ねたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願致します。ありがとうございます。

〔評〕

粘り強い運筆からは、落ち着きと物静かな雰囲気を感じられ、安定感のある作品となっている。



準大賞

第一部 久留宮 千扇



この度は榮譽ある準大賞をいただき、喜びと共に賞の重みに身が引き締まる思いでございます。これも偏に、温かく熱心にご指導下さいました師をはじめ、審査にあられました諸先生方のお蔭と、心より深く感謝いたしております。

作品制作には師からご指導を受け、墨量や余白に気を配りましたが、思うように書けず、力量不足を痛感するばかりです。小学校の時に始めたのを機に、書の魅力に惹かれ続けてきた書道。この受賞を励みに一層精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

写経の線の強さ、軽快さ、文字の大小のリズム、その全てを感じる事が出来る完成度の高い作。



準大賞

第一部 黒田竹翠



この度は栄えある準大賞を賜り、誠に有り難うございました。身に余る光栄と喜びの気持ちで一杯でございます。

病のある私を、支え協力してくれた夫に感謝の思いです。師匠のご指導のもと王鐸を学んできました。遅々とした歩みの私ですが、これからも精進して参りたく思います。今後ともご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

淡々とした書きぶりと同じくりと引かれた線から、物事に動じる事のない強い精神力を感じる作品である。

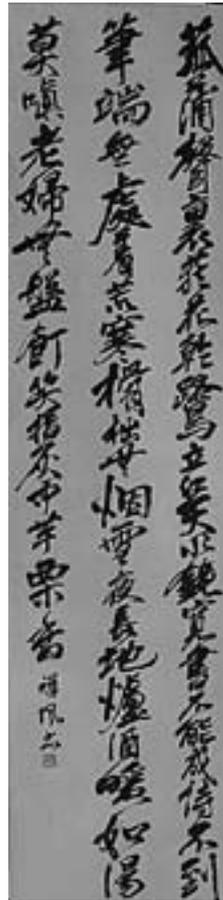


準大賞

第一部 小島祥風



創立八十周年記念第六十四回中日書道展において、準大賞という栄誉ある賞を頂きとても嬉しく思っております。また、いつも熱心にご指導下さる我が師、諸先生方、書道展に関係する多くの方々へ深く感謝致します。



作品を作り上げていく際、師の指導の様な一つの点、そして線が、いつもいつも難しく、思うように筆が運ばません。今回の受賞を励みとして、さらに精進する所存ですので、今後ともよろしくお願いいたします。

〔評〕 豪快な筆使い、大胆な墨量は見る者を引き付ける。文字の密なる構成も流石といえよう。

準大賞

第一部 酒井光華



この度は、思いがけず準大賞という大きな賞を頂き、身に余る栄誉に恐縮しております。これも偏に温かくご指導下さいました師をはじめ、諸先生方のご厚情によるものと深く感謝いたしております。



まだまだ作品に対する課題は多く未熟ではございますが、すばらしい師、社中の皆様と共に学べることに感謝しつつ、古典を基礎に自分らしい作品が書けるように精進してまいりたいと思っております。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようによりしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

〔評〕 古典を踏まえた連筆の妙、墨の潤渇の巧みさを紙面の随所に感ずる事が出来る作品である。

準大賞

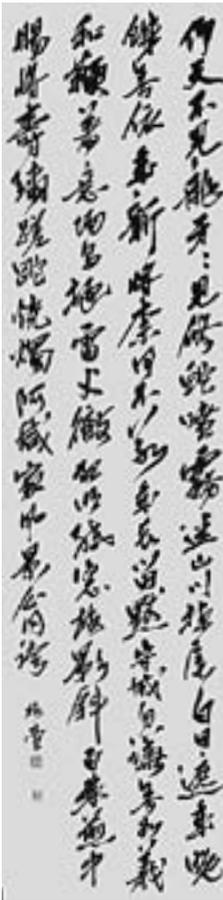
第一部 近藤梅鶯



第六十四回中日書道展におきまして準大賞という栄えある賞をいただき、ありがとうございます。受賞ございました。受賞の報せを受けた時は信じられない気持ちでした。書を習いはじめ月日を重ねることにその奥深さへの畏敬の想いは増し、書に出逢えて

拙いながらも今日まで続けてこられたことを幸せに思います。これも偏に師のご指導をはじめ諸先輩、共に研鑽し励ましあう仲間や家族の協力のお蔭と感謝しております。今回いただいた賞の名に恥じないように一層精進してまいる所存でございます。本当にありがとうございます。

〔評〕 抑揚のある点画からは練度の高い筆法を駆使している事が理解できる。弾力のある線も見事である。



準大賞

第一部 清水好流



創立八十周年記念という年に栄誉ある準大賞を頂き、誠にありがとうございます。これも偏に長年に亘り温かくご指導下さいました師匠はじめ、審査に当たられました諸先生方のお蔭と心より厚くお礼申し上げます。



墨量を意識して書けば行間が定まらず、又行間に気配れば流れがなくと四苦八苦し、未熟さを痛感しております。

〔評〕 この受賞を励みに、一層精進して参りますので今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。字形をよく研究した上で墨量の変化、文字の大小を見せしている所に鍛錬の深さを感じ



準大賞

第一部 立松翠葉



この度は、思いもよらぬ準大賞の朗報を頂き、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

中日展に作品を

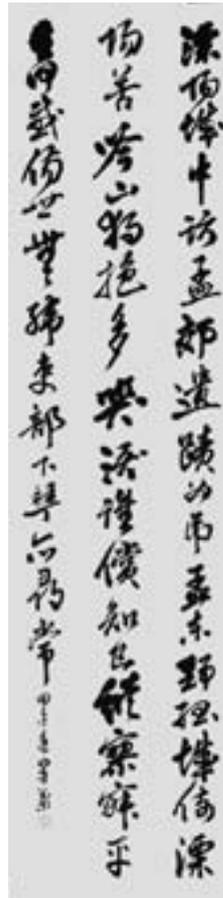
書きはじめて二十余年余りになりますが、毎回

心がけているのは余白の美しさです。まだまだ未熟な私ですが、この賞を励みに初心を忘れず日々努力をして参りたいと思っております。

今後とも、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

スッキリとした行間と墨継ぎ箇所の構成が立体感を生み、興行きの深い作品となっている。



準大賞

第一部 津屋多美子



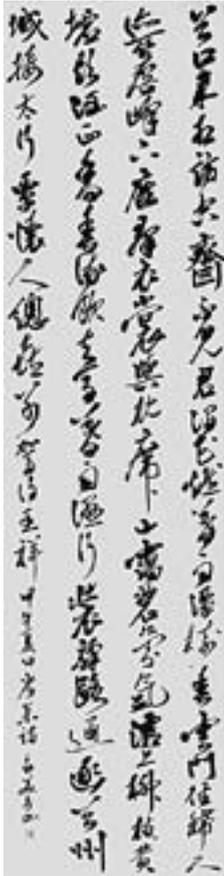
この度は栄えある準大賞を受賞する事が出来、大変光栄に存じます。審査員の皆様をはじめ、直接指導下

さいました先生には、心よりお礼申し上げます。日々の生活に追われ、書く時間を確保する事が難しい中で、何とか作品を書く事が出来

ました。「継続は力なり」と申します。小学生の頃から、どんなに忙しくても練習してきた事が、今に生かされたと思います。まだまだ未熟ですが、日々努力して、書き続けていきたいと思えます。

これからも、ご指導よろしくお願いいたします。

〔評〕 最初から最後まで気脈は一貫しているが、その中に文字の懐を作って行くことで作品全体に共鳴する響きを感じる。



準大賞

第一部 中村和則



創立八十周年記念第六十四回中日書道展におきまして栄誉ある準大賞を賜り誠に有り難うございます

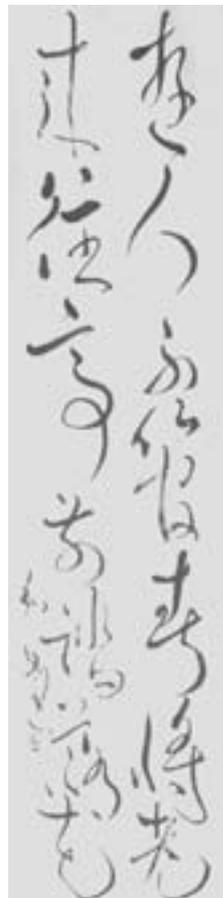
た。これも偏に師の熱心なご指導をはじめ、諸先生方のお蔭と心よりお礼申し上げます。

詩情を淡墨の幽玄な世界で表現しようと試み、流れ、潤濁、余白に気を配り努力致しましたが、思うように筆を運べず未熟さを感じております。

今後は、この賞に恥じぬよう、線質を磨き品位ある作品を心掛けますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

思い切った空間の演出が、大きな流れとなり作品全体のイメージを大きなものにしてている。



準大賞

第一部 中村華風



この度は、準大賞を賜りまして、誠に有難く、厚くお礼申し上げます。

過分な栄誉に身のひきしまる思いです。一層精進させていただきます。

ここまで、ともすれば、日常の雑事に追われ、くじけそうになる私を、支え続けて下さいました師をはじめ、先輩、同輩の方々に、心より、深く感謝いたします。

〔評〕

一点一画に作者の揺ぎ無い態度を感じることが出来る。整然とした字配りには、どっしりとした落ち着きを感じる。



準大賞

第一部 中村青丘



思いがけない受賞に大変戸惑い乍ら、師への、そして書道が続けられる環境への感謝の念をひたすらに感じております。お導き下さいました先生方、社中の皆様に心よりお礼申し上げます。誠に有難うございました。

普段から、勢いの感じられる線を大事に、墨量、筆圧に気をつけながら、リズム良く筆が動かせる事を目標に努力していますが、到底及ばず、未熟さを痛感する日々です。今後とも古典から学ぶ姿勢を大切に、真摯に精進してゆく所存ですので、何とぞご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

作品構成がよく考えられており、重厚な線質であるにもかかわらず、何か爽やかささえ感じる。

準大賞

第一部 丹羽茜麗



受賞の祝電を頂けた日の身が震えるような喜びは一生忘れることがないと思います。書の道が続けられるように導いて下さった我が師と諸先輩の方々、会員の皆様のお蔭と心より深く感謝致しております。

十年前に家族の闘病生活が始まり、書道を諦めようかと思いましたが。しかし、苦しい思いの中で唯一「書」が私の生き甲斐になっている事に気付いた時、出来る範囲で無理せず継続していきたいと思直しました。未だ修練の途中です。これからも師の教えを守り、書道に携っていきたいと思います。

〔評〕

独特な文字の構図からは、古典筆法の匂いを強く感じる。バランス感覚にも素晴らしいものがある。

準大賞

第一部 中村 智恵美

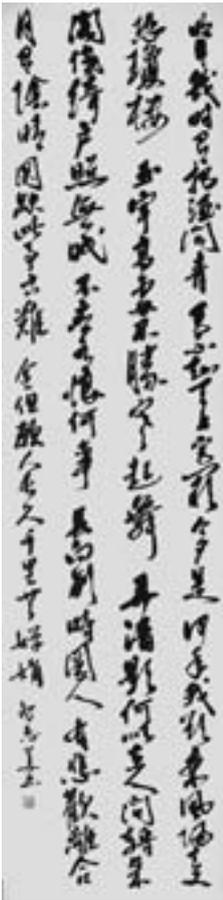


この度は受賞の知らせを受け、大変恐縮しております。無鑑査以来初めて四行作品に挑戦し、最初は本当に出品できるのか心配でしたが、師のご指導のおかげで何とか出来上がりました。

この作品は、蘇軾の詩「水調歌頭」を、テレサ・テンが「但願人長久」というタイトルで詩はそのまま歌ったものです。にも拘らず短命だった彼女に思いを馳せながら書いた作品で思いがけず受賞することができ、喜びも一入です。本当にありがとうございます。

〔評〕

運筆に切れがあり、激しい文字の躍動を感じる。その動きを墨量によって抑えている点は見事。



準大賞

第一部 秦 雪暎



この賞の知らせは、まるで夢の様な出来事でした。何度も直される日々でしたから……。どうしたらいいのかわからないと思いましたが、ふと蘇軾の原本の始筆の美しさを感じました。もしそれがこの作品に表わせたなら幸福に思います。書道が続けていて本当に……。

良かったと心より感謝申し上げます。主人が生きておりましたらどんなに喜んでくれた事でしょう。わが師匠、諸先生方、お選び下さった先生方に心底よりお礼申したいと存じます。有難うございました。まだまだ未熟者の私ですがこれからもがんばりますので、どうかよろしくお願い致します。

〔評〕

密度の濃い細かい文字構成の中に流れる空気を感ずる。緻密に計算された空間処理の成せる技であろう。



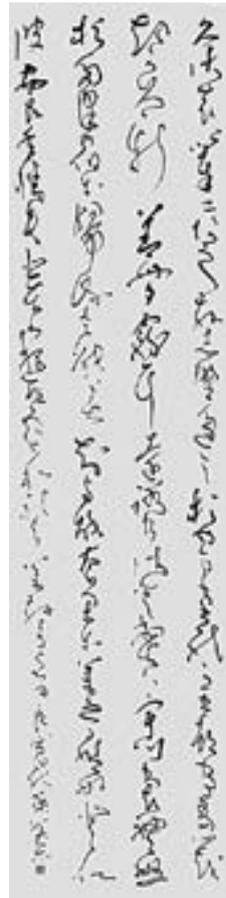
準大賞

第一部 波多野 香葉



この度、準大賞という大きな賞を頂き、大変光栄に思います。これもひとえに師のご指導の賜と深く感謝致しております。

以前、新潟の地で良寛の作品を目にし、その何とも言えないリズムカルな運筆に心が和



らぎ、大変感動しました。以来良寛の詩歌を作品にしています。厳しい修業の末に生まれた良寛の書法など、到底真似られるものではありませんが、良寛の書に精通されている師より、運筆や余白の取り方等ご指導頂きながら今後も邁進して参りたいと思います。宜しくご鞭撻の程お願い申し上げます。

川の流れのごとく静かに、清らかに書かれた。他には無い落ち着いた品格の高さは抜群のものがある。

準大賞

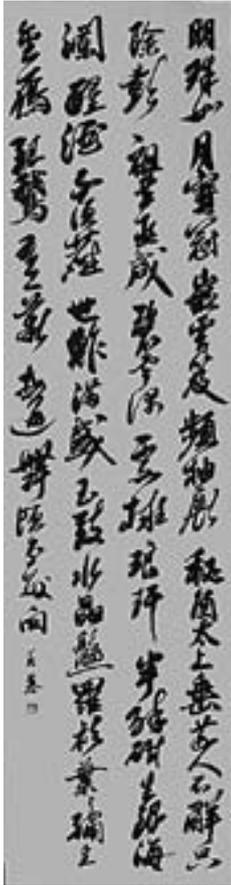
第一部 羽場 春蕙



創立八十周年記念の栄えある年に栄誉ある準大賞を頂き驚きと喜びで一ぱいで手のふるえる思いでございます。これも偏に熱心にご指導下さいます師匠始め諸先生方のご厚情の賜と深く心より感謝お礼申し上げます。当にうれしく有難うございました。教室では

皆様のお蔭もあり、よき書友にめぐまれていきます。作品も「墨量多く」「行間」に「カスレ」に又、字の「流れ」等作品のむずかしさ奥の深さを痛感しています。まだまだ未熟な点も多く、書の日頃の勉強を一步一步精進してまいると思っております。今後共宜しくご指導の程お願い申し上げます。

線質の強さ、運筆の豪快さ、そして大胆な墨量は作品全体の迫力となって見る者を圧倒する。見事。



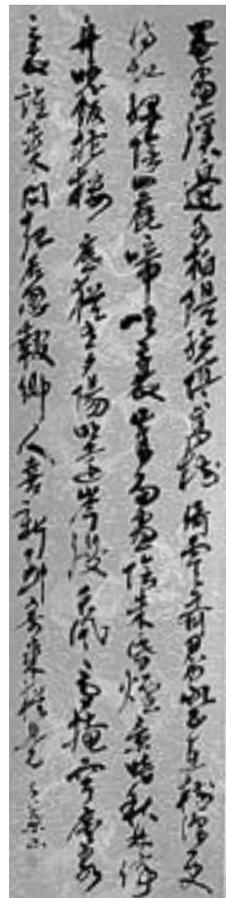
準大賞

第一部 林 千葉



創立八十周年という記念すべき年に栄誉ある賞を戴き有難うございました。喜びと共に、賞の重みに身が引き締まる思い

でいっぱいです。これも偏に熱心にご指導下さいました恩師をはじめ、諸先生方のお蔭と深く感謝しております。



今回の作品は、密を重点として、文字の大小をつけずに、力強い線質と墨量を心掛けて書きました。この受賞を大きな励みとして、仕事・家事・両親の介護と限られた時間の中で、書の出来る事に感謝し、一層精進して参りたいと思います。今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

手馴れた運筆が非常に心地良いリズムとなつて作品全体に漂っている。終始一貫した流れも素晴らしい。

準大賞

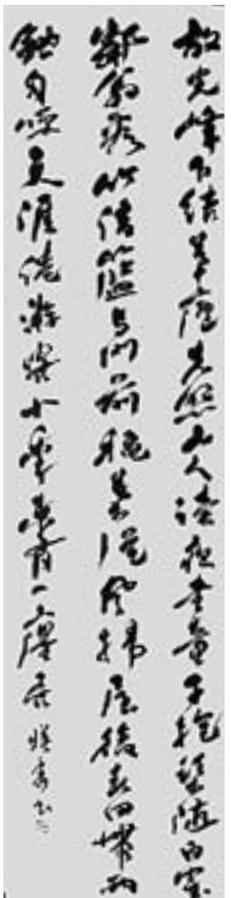
第一部 藤澤 映秀



この度は、栄誉ある賞を頂き感謝の気持ちで一杯です。師をはじめ諸先生方のご指導ご支援の賜と心より深くお礼申し上げます。

作品は、行間、墨量に留意し、力感のあるふくよかで柔らかく且つ強い線と、流れも表

現しようと試行錯誤しましたが、書けば書く程、甘さと浅さと軽さが見えてきてしま、今の自分の未熟さを痛感するばかりでした。今回の受賞を励みとし、書の道を歩める喜びを感じつつ、この限りなく奥深い道を手探りしながら一步一步前進して行きたいと思っております。今後共ご指導の程宜しくお願い申し上げます。



行間、字間、そして文字の中に作られた白い空間がこの作品の強い印象となつている。正に白を生かした作品である。

準大賞

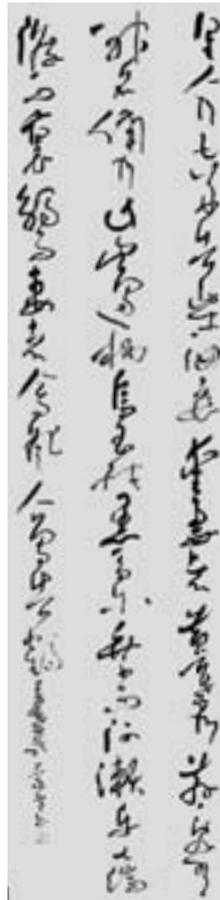
第一部 星野蘭雪



この度は、栄誉ある賞をいただき誠にありがとうございました。喜びに驚きと、それ以上に驚きと、その賞の重さに身の引き締る思いがしております。これも偏に師匠をはじめ、諸先生方、周りの方々の温かい

ご指導のお蔭と心より感謝しております。この作品は、良寛調を意識し、試行錯誤を繰り返す中で得たものです。落ち着いた心境で制作できたことに喜びを感じました。今後とも一層のご指導を賜りますようお願い致します。

余分な物を取り除いて簡素化した草書体と書風がよく融合し、爽快な気分にならせてくれる作品である。



準大賞

第一部 穂積爽風



思いがけない準大賞の吉報を戴き夢のようです。嬉しさと共にこの賞の重さをずつしりと感じ、身の引き締まる思いです。これも偏に、温かく熱心にご指導下さいました今は亡き師をはじめ、諸先生や先輩方のお蔭であり、心より厚くお礼

申し上げます。小学生の頃書を習い、数十年の空白ののち、良き師にめぐり会い、そして今日を迎えることができ、ほんとうに果報者でございます。今後はこの賞に恥じない様、より一層精進して参りたいと思えます。引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

独自の書風から生まれる空間が、墨の潤濁と同じ効果を生み、自然なリズムを醸し出している。



準大賞

第一部 村瀬彩光



創立八十周年記念第六十四回展におきまして、栄誉ある準大賞を頂き本当に有難く感謝しております。

トさに魅了されています。今、ようやく趙之謙の篆書に行き着きました。趙之謙の持つ渾厚な線質、流麗な結構には遥か遠く及びませんが、少しでも、一歩でも学んで行きたいと思っております。熱心に指導して下さる師匠、社中の皆様へ感謝とお礼を申し上げます。

趙之謙の筆法、結構法を非常によく学んでいる。中鋒の線にも伸びがあり素晴らしい。今後が楽しみである。



準大賞

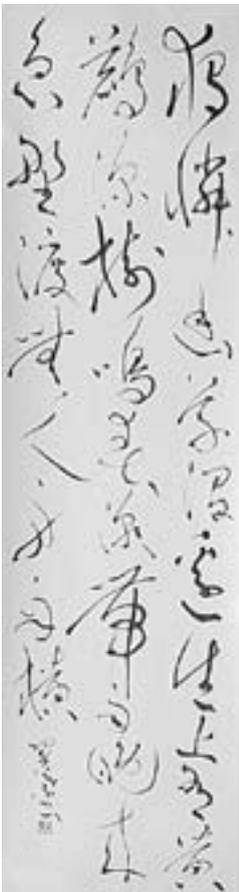
第一部 森 翠葉



第六十四回中日書道展におきまして、栄誉ある準大賞を賜りまして、驚きと喜びの気持ちで一杯でございます。これも偏にご指導くださいました師をはじめ、諸先生方のご厚情と心より感謝申し上げます。

作品制作には、まだまだ課題も多く、勉強不足を痛感する日々でございますが、この度の受賞を励みとして、初心に返り少しでも切れの有る線、魅力ある書を目指して、より一層精進して参りますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

浅瀬のせせらぎのごとき行の流れ、線の美しさは見事である。僅かな墨量の変化も実に清々しい。



準大賞

第一部 安田 一絵



仮名から転向して二十数年、最近では佐理の書を学び和様の漢字や調和体の楽しみが漸く理解できる様にな

なって参りました。幼時より親に勧められて始めた書道でしたが茶華道を学ぶ内に、書道も奥深い日本文化の表現には、三位一体相通じる物があるのでは...との思いが強くなつて参りました。今回の受賞は私の新たなカンフル剤となり望外の喜びに浸っております。これも偏にご指導賜りました先生や私の作品を選んで頂きました諸先生のお蔭と心よりお

準大賞

第一部 梁川 景雲



この度は記念すべき八十周年創立におきまして準大賞を頂き誠に有難うございました。これも偏に、長きに渡る恩師の温かいご指導と諸先生方のご厚情や社中の皆様の励ましのお蔭と心より感謝致します。

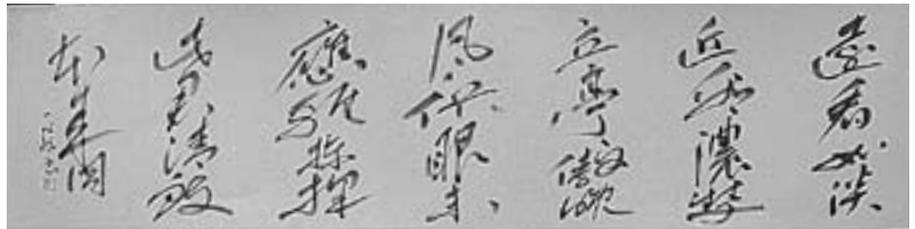
呉昌碩の古典を学ぶ中で書の奥深さに増々魅力を感じるとともに自身の未熟さを痛感す

礼申し上げます。今後も楽しみ乍ら精進して参る所存でございますので、よろしくご指導賜ります様お願い申し上げます。

横型式の作品と扁平な文字が実によく調和している。広く取った空間も生きており、墨色と紙もマッチしている。

日々ではございませぬが、この賞に恥じぬよう探求心を忘れず家族の理解を胸に一層精進して参りたいと存じます。今後とも何卒ご指導賜りますようお願い申し上げます。

柔軟な運筆と墨量によって実に効果的表現となっている。作品の重厚さを罫線によって引き締めている。



準大賞

第一部 山崎 富泉



この度は、思いもよらぬ準大賞を頂き望外の喜びでございます。これも偏に、温かくご指導下さいました師をはじめ中日書道会の諸先生方のお蔭げと、心より感謝申し上げます。

今回は、力強い六朝楷書に「穏やかさを落とし込む」をテーマに、取り組んでみました。この受賞で、明日への曙光を微かに垣間見ることができたとの思いがいたしております。まだまだ未熟でございます。皆様方の一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

準大賞

第一部 吉田 一峰



このような賞を頂き光栄で、喜びに満ちあふれています。ありがとうございます。ございました。

今回の作品は、隷書を書き始めた原点に立ち返り「千字文」を選択し、無心でおくすることなく思い切つて書きました。

〔評〕

造像記の力強さを前面に押し出し、一行の中に文字の大小の変化、字形のバランスを巧みにまとめている。



継続は力なり、自ら進んできた道、この道のりを通じて多くの方々に支えられ感謝の念にたえません。これからも師の指導を仰ぎ、墨ならではの力強さ、やさしさ等、表現力の素晴らしさを伝えていきたい。

〔評〕

側款に至るまで、全く乱れることなく隷書の字形を貫いており、古法をしっかりと身に着けている。



準大賞

第二部 青山法子



第六十四回中日書道展において、準大賞を頂き、誠にありがとうございます。今回は初めて百人一首に取り組みましたが、構成に手間取り、書き込むところまでいきませんでした。

わが師からは、元永を柱に、線の太さ・長さ・方向などの変化。字間の詰め方、受け方など、丁寧に指導受けますが、体得することが難しいです。作品にも稚拙さはかりが目立ち、考慮すべき点が多々あります。

この受賞を激励ととらえ、修練を積み重ねばと、気持ち新たにさせていただきました。

〈評〉

古筆をもととして、洗練された気品の中に力強をもそなえた作品である。



準大賞

第二部 石原松扇

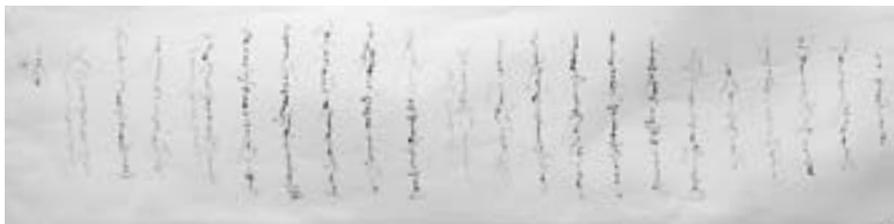


この度は、伝統ある中日書道展において、荣誉ある準大賞を賜り喜びと感謝の気持ち一杯です。これも偏

に永年に亘り温かくご指導くださいました師のお蔭と心より厚くお礼を申し上げます。又社中の皆様の励ましに守られそして家族の理解もあり感謝しております。常々師匠より墨の濃淡、墨量、行間等々、指導を戴きながら制作に取り組んでいます。この受賞を励みに、これからも精進して参りたいと存じます。今後共どうぞよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。有難うございました。

〈評〉

たたみかける線の集団表現が美しく、行の流れ、流動感がみことな作品。



準大賞

第二部 伊藤静春

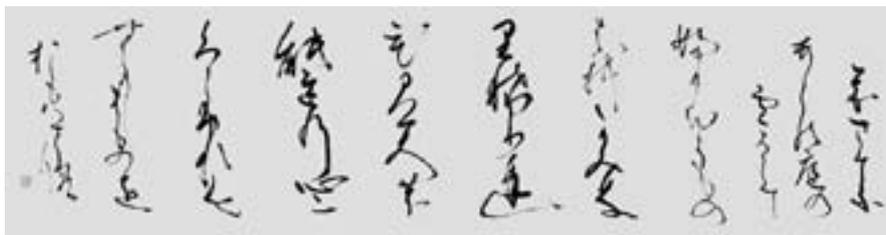


思いもかけない賞をいただき、喜びよりも驚きでした。もともと書く事は好きで、美しいかな書きの年賀

状を書きたい、と云う思いから始まって、いつのまにか三十五年も続いています。色々の古筆に挑んで参りましたが、やる程に奥深く、勉強の種は尽きません。八十路に入っても手も気力も衰え気味ですが、心穏やかに楽しく学んで行きたいと思っております。有難うございました。

〈評〉

大胆な構成と墨量の変化がみごとに調和したスケールの大きい作品。



準大賞

第二部 稲垣京子



この度は、思いもかけず準大賞を賜わり、誠にありがとうございます。知らせを頂いた時には驚きと戸

惑いの気持ちで一杯になりました。これも偏に良き先生に恵まれ、長年一緒に書仲間と励んで来られたおかげと感謝しております。これを機に、自分の未熟さとして力量不足を痛感しながらも一層の努力を重ねて行きたいと思えます。審査にあたられた諸先生方には心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

〈評〉

直筆による深いかな線の表現に墨量の巧みな変化が加わって大きくゆったりとまとめた作品。



準大賞

第二部 井上 翠



創立八十周年の記念の年に、思いがけなく栄えある準大賞を頂き誠に有難うございました。残りの人生に

良い思い出を作る事が出来ました。優しく、時に厳しくご指導下さいます先生をはじめ、何かとお世話をかけています諸先生方に心からお礼を申し上げます。

作品は伊藤左千夫の歌二首を選びました。牧畜業を生業にしていた左千夫の、のびやかな自然体の歌に魅せられて筆をとりましたが、思いの外の作品になってしまいました。まだまだ筆との葛藤の日が続くと思いますが、これからも宜敷くご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

するどい線と運筆の微妙な強弱が加わったみごとな線の美しさが魅力の作品。



準大賞

第二部 笠原 喜美江

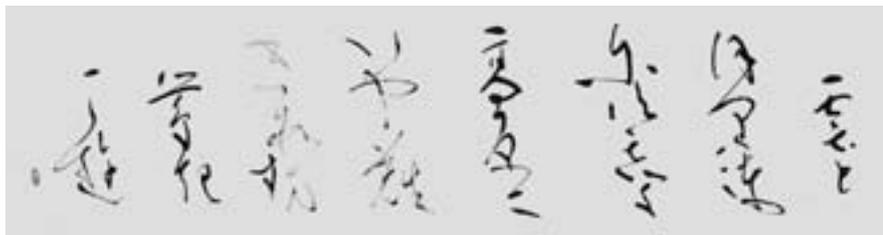


この様な賞を賜り師の指導のおかげです。本当に有りがとうございました。久し振りに歌(木下利玄)一

首を書くことにしたのですが迫力に欠けるものになりました。長きにわたり書ける喜びは、家族や良き先輩、あたたかな友人、周囲の方々のおかげと感謝の日々です。日本の文化かな書道に縁があり、平安人の卓越した偉業を勉強できる事はすごく幸せな事であり、継承し広く伝えて行くことが大切だと思います。今まで通りにスローテンポで進んで行きますが今後共にご指導の程何卒よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

大らかでゆつたりした書きかたが、スケールの大きい雄大で気品のある作品にしている。



準大賞

第二部 近藤 由紀枝



この度は栄えある準大賞を賜り、誠にありがとうございます。師匠をはじめ諸先生方、共に学ぶ社中

の方々のお蔭と心より感謝申し上げます。「白」の美しい明るい作品にしたいという思いには程遠く、反省点の多い作品となり、勉強不足を痛感しております。今後は賞に恥じないよう努力を重ね、書道を続けられる環境に感謝しつつ、創作を楽しんでいきたいと思っております。

今後共にご指導賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

重ね書きの密集群を巧みに加えて、力強い渴筆線と潤いのある線との調和がみごとな作品。



準大賞

第二部 酒井麗月

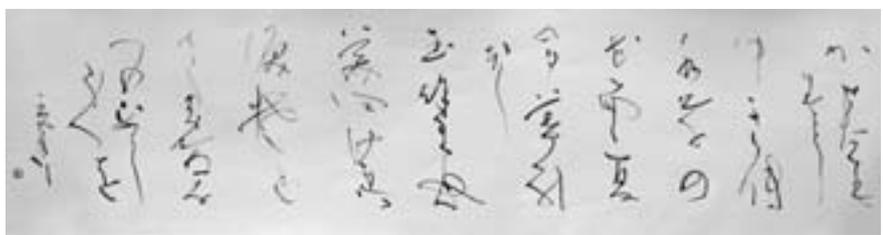


この度は栄誉ある準大賞を頂き、誠に有難うございました。書の道に進み四十六年。七十才目前。心身共に衰えを実感し始めた頃、エッセー集「老いぬれば……豊けし」(書家、エッセイスト、永井柳太郎著)のタイトルと、文章中の「光輝高齡者」の五文字に出会い、「これだ!!」……と。この度の身に余る賞は、後期高齡者から光輝高齡者へ。そして、老いぬれば「心」豊けしの人生へと愚鈍な私の背を押していただきました。長い間ご指導下さいました先生方、温かく支えて下さった周りの皆様により感謝申し上げます。

ありがとうございます。前。心身共に衰えを実感し始めた頃、エッセー集「老いぬれば……豊けし」(書家、エッセイスト、永井柳太郎著)のタイトルと、文章中の「光輝高齡者」の五文字に出会い、「これだ!!」……と。この度の身に余る賞は、後期高齡者から光輝高齡者へ。そして、老いぬれば「心」豊けしの人生へと愚鈍な私の背を押していただきました。長い間ご指導下さいました先生方、温かく支えて下さった周りの皆様により感謝申し上げます。

〔評〕

達者で軽快な運筆と緩急による線の深さが壮重で雄大な作品にしている。



準大賞

第二部 鈴木千恵



創立八十周年記念の年に、思いもかけず準大賞を賜り、驚きと感謝の気持ちで一杯です。

作品づくりにあたって、構成に苦悩しつつ机の回りに、一条摂政集本、集字帖を置き、出来上った作品を見てみると「何か違う」と毎日、反省↓臨書↓創作の繰返しでした。満足できるものは仲々仕上がりにませんが、一歩

づつでも前進できるように、これからも古典を大切に努力を惜しまず精進して行きたいと思います。

〔評〕 古筆を基調として、その清楚な線と散らし形式を巧みにとり入れた秀作。



準大賞

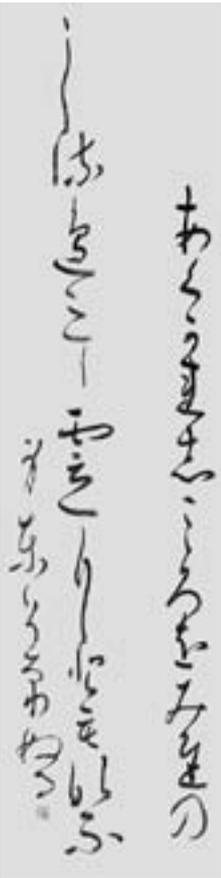
第二部 柴田 美由紀



この度は思いがけず準大賞をいただきありがとうございました。これも偏にわが師をはじめ、諸先輩方のご指導の賜物と感謝しております。今回は西行の『山家集』から羈旅の歌を一首選び、歌意の、雲になぞらえた漂泊の思いを作品に表現しようという構成を考えました。中日展の特別な紙面の大きさを生かし、空間と文字の作る

行とのバランスに配慮しながら、のびやかな作品に仕上げたいと思いましたが、まだまだ線に甘さの残る拙い作品だと反省しております。これを励みに、さらに努力を重ねていくつもりです。

〔評〕 暖色の加工紙を使って温かみのある安定感に富んだ作品表現を成功に導いた作。



準大賞

第二部 森 笙韻



この度は、思いがけなく準大賞という大きな賞を頂き誠にありがとうございます。驚きと喜びと感謝できたく思います。

胸が一杯です。これも偏に日ごろより優しくご指導下さる師匠のおかげと深く感謝しております。又社中の方々よりさまざまな刺激を頂きありがたく思っております。墨の潤渇の調和が難しく、勉強するべきことは多々あると感じております。

受賞は、もつと張りなさいという励ましと胸に刻み、更に精進してまいりたいと思います。今後共よろしくご指導お願い申し上げます。

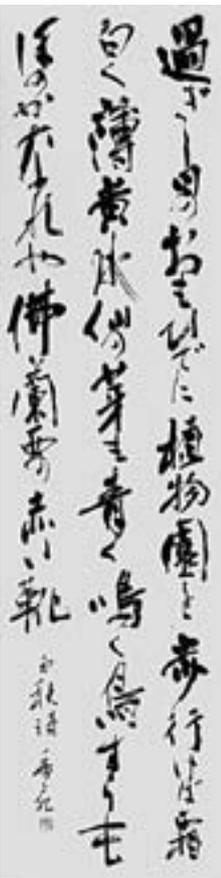
〔評〕 大らかで素直な線質が、温雅ですがすがしい作品となっている。



この度は、思いがけない準大賞という身に余る榮譽を賜り、誠に有難うございました。感激と同時に身の

ひき締まる思いでございます。これも偏にお導き下さいました師を始め、審査に当たられました先生方のご高配、諸先生方、社中の皆様に深く感謝申し上げます。作品は、白秋の詩文を、余白と自然な流動性、墨量に考慮しつつ書作しました。完成に

〔評〕 筆鋒と紙面との抵抗をうまく利用した表現力を高く評価したい。理に叶った造型力に平素の錬磨が実る。



準大賞

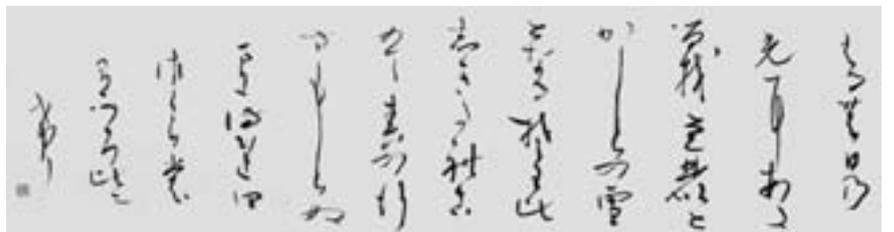
第三部 井上 香苑



この度は、思いがけない準大賞という身に余る榮譽を賜り、誠に有難うございました。感激と同時に身の

ひき締まる思いでございます。これも偏にお導き下さいました師を始め、審査に当たられました先生方のご高配、諸先生方、社中の皆様に深く感謝申し上げます。作品は、白秋の詩文を、余白と自然な流動性、墨量に考慮しつつ書作しました。完成に

〔評〕 筆鋒と紙面との抵抗をうまく利用した表現力を高く評価したい。理に叶った造型力に平素の錬磨が実る。



準大賞

第三部 大橋 幽徑



創立八十周年という記念すべき年に、思いがけなくも準大賞を賜り身に余る光栄に感謝の気持ちで一杯で

ございます。

これも偏に、幼い頃より見守り下さった亡き先生はじめ、諸先生方の温かいご指導と会の皆様方の励ましのお蔭と深く感謝申し上げます。作品には潤渇、リズム等に気を配り書作しましたが、まだまだ力量不足で、創作する難しさを痛感しております。

今後は受賞に恥じない様、一層努力し精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。有難うございました。

〔評〕

若やいだ豊かな線に魅力あり。「かな」にも扁平な形をとり入れて漢字を良く響かせ合せて好感が持てる。



準大賞

第三部 加古 松泉

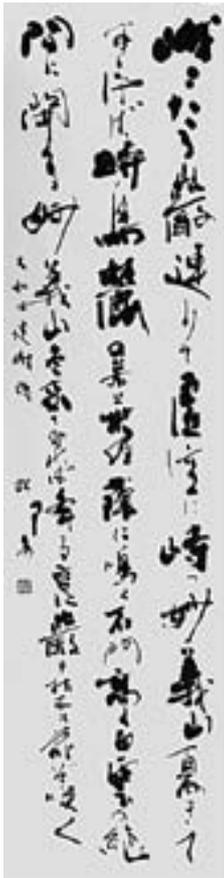


この度は、栄えある準大賞を戴き、誠に有難うございました。これも偏に師匠をはじめ社中の皆様の支えがあつてのことと深く感謝しております。今回は、行間の余白の美しさに気をつけて

取り組みました。体全体を使って弾力性のある線を出すところまでは到達しております。今後はその気持ちを筆に乗せ、もう一歩踏み込んで書いていこうと思います。どうぞ宜しくご指導くださいますようお願い申し上げます。

〔評〕

滲みを活用した豊潤な線と緊密な文字群が互いに均衡を保つ。落筆の高さを極めれば更に拡がりある作になる。



準大賞

第三部 桜井 和香



この度は思いがけず、大変立派な賞を頂き有難うございました。

お二人の先生には深く感謝致しています。還暦も過ぎた二年前に師が代わり、当初はとても不安でしたが、今では沢山の素敵なお仲間と、新たな気持ちで楽しく学んでいます。



この頃は、誰かに喜んで貰えたらと思いがら詩文捜しをしています。特に安永路子さんの歌は、ずっと応援してくれている姉が書を習っていたこともあり、喜ぶのではと、良く書きます。歌が詠まれた時の気持や空気を想像しながら、書を通じて伝わればと、これからも精進して参る所存です。

〔評〕

暢達明朗、書美の要素を存分に發揮して快調。一見平凡に見える行立てに微妙な変化を内蔵する非凡な技あり。

準大賞

第三部 田中 幸香



この度は栄誉ある中日展におきまして、準大賞を頂き、言葉では言いあらわせない喜びで、感謝致しております。今回の受賞にあたりましては、師匠の熱心な指導の賜物と心よりお礼申し上げます。私が書始めて師匠に出会い、その後二

十年間、書と作品を学び歩んでまいりました。これも諸先輩と書友の皆様の支えがあつての事と深く感謝しております。これからも恵まれた環境の中で、今まで以上に自分らしい書を目指して書いて参りたいと思います。今後とも指導の程よろしくお願い致します。

〔評〕

大字部分に壮大な大地の眺めを描き、小書さには寄せる波音か、詩情を想わせる美しい調和だ。



準大賞

第三部 羽柴 苔谷



この度、栄えある準大賞を賜り誠に有難うございました。私をこまごまで導いて頂きました師匠の懇切な指導と、諸先輩方の見守りとに、心よりお礼申し上げます。

師匠からは、永年に亘り作品創りに様々な手法の指導を受けて参りました。最近はその中から隷書体を基本とした作品を多く創作しております。この度もこれに挑戦しました。墨量と線質と余白の均衡に不安を感じつつ多

数書いた中の一枚が出品作品となりました。

今後、日々精進して参りますので、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

気魄に満ちた表現だ。運腕大きく緩急を巧みに使ったメリハリの効いた作調が魅力の感性豊かな作。



準大賞

第三部 前田 祥石



この度はこの様なすばらしい賞を頂き、誠に有難うございました。思いもよらぬ受賞の知らせを受けた際には、まさかという驚きで日ごとに賞の重みと喜びを感じています。

思えばこれまで様々な事が脳裏を駆け巡ってまいりますが、幼少期より今も変わらず熱心

にご指導して下さいました師匠をはじめ諸先生方のご厚情の賜と深く感謝申し上げます。今後、尚一層の努力を重ねて参りたいと存じます。この度は本当に有難うございました。

〔評〕

淡々とした放ち書きに独自の妙味あり。淡墨の味わいと共に清澄な趣きに心をひかれる。小字ながら暢達佳調。



準大賞

第三部 前田 千登世



この度は、栄えある準大賞を戴き有難うございました。これも偏に、ご指導下さいました師匠をはじめ、諸先輩方の励ましあつてのことと心から感謝申し上げます。

今回は、三好達治の詩「千曲川」を題材に



選びました。日頃、文学作品に触れる中で出会う、日本語ならではの素敵な表現、ならではの造形を、美しい線、で表現したい——との思いで創作しております。しかしながら、力不足を痛感するばかりでございます。今後とも、努力を重ねて参ります。ご指導賜ります様お願い申し上げます。

〔評〕

豪放なタッチが予期しない方向性を生み、直線で激しいまでの筆の叫びが強く心に迫ってくる異彩を放つ作。

準大賞

第三部 松下 聖心



この度は準大賞を賜りまして誠に有難うございました。いつも熱心にご指導くださる師をはじめ諸先生方や書友の皆様、そして温い目で見守ってくださる家族のお蔭と心より感謝、お礼申し上げます。いつも書作にあたり、楽しんで書こうという気持ちで臨むのですが、何枚か書き進む

うちにいつしか考えすぎ余分な力が入ってしまうその繰り返しでした。そんな中でなぜか無心にリズムよく書けた一枚が今回の作品です。学ぶ程に書の奥深い魅力に引き込まれます。今後も古典の研鑽を積み、感性を豊かにして精進したいと思えます。よろしくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

用筆に入念な緩と急あり、一字一字に表情があつて良い。ふところの広い造型はおおらかに流動美を見せる。



準大賞

第三部 村松紫雲



始めに身に余る賞を戴きましたこと、心より感謝申し上げます。今回の題材は、山深く

神々しい空気と色彩を繊細に表した詩、それを表現することの難しさを感じながらの制作でした。常に「形より線質を」とのはてしない目標を模索しつつ、筆を手にはしています。この度は温かくご指導下さいました師匠は元より、良き先輩、社中の皆様方のお蔭と改めて感謝申し上げます。

す。今後共どうぞよろしくご指導下さいます様お願い申し上げます。

〔評〕

気取らない温雅な味わいが情趣豊かな作風をつくりあげている。淡々とした中にヤマ場を置き見飽きない作。

準大賞

第三部 村田籬香

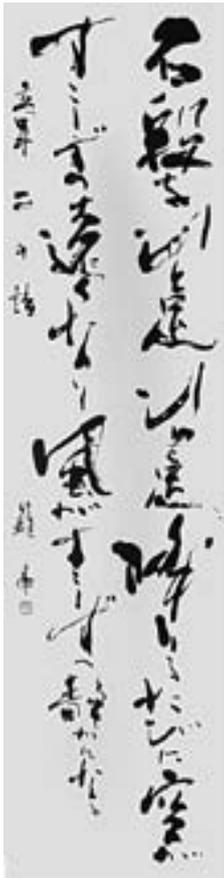


この度は、思いもかけず準大賞を頂きまして誠に有難うございます。振り返りますと、これまで幾度も筆を持ってない時期がありました。それでも今日を迎える事が出来たのは、師をはじめ諸先生方、諸先輩、書友に恵まれ、ご指導いただけたお蔭と心より感謝申し上げます。巡り会えた素敵な詩文を、自分の感性で表

現する喜び。それが伝わるような作品が出来たらと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

直線が効いて爽快感溢れる。緊張した造型の中に潤渇の融合をはかり温かさを感じさせる技法が光る。



準大賞

第三部 渡辺桂真



思いも依らぬ今回の受賞でした。偏にご指導下さった先生方のお蔭と心より感謝しております。以前私は

前衛書をやっていた為近代詩書は暗中模索状態。もがき悩んでおりましたが、ある時亡き師が「上手に書こうと思わなくていい。」と言われました。その一言で其までの迷いが一気に吹き飛び心が軽くなりました。それから師のその言葉を心の支えにしています。今

回の作品は演奏会に居る情景を想いながら力まず奇をてらわれない線の変化に心がけました。今後は、この賞に恥じぬよう、精進を重ねていきたいと思えます。

〔評〕

流暢な筆致は心地良い音楽美を連想する。呼吸の長い線が行間に響き、潤渇は楽器の音色であろうか。

準大賞

第三部 保田翠苑



この度は栄えある賞を戴き、誠に有難うございます。師の優しく温かいご指導と、諸先生方のご厚情に

ました。

今後とも楽しんで、魅力ある線、選文に合った多彩な表現を追い求めたいと思っております。引続きご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。

〔評〕

直線でぐいぐい書き進む運筆に手腕の確かさを見る。更には時に大、時に小と構成の巧みな工夫も輝きます。



準大賞

第四部 石塚 美根子



この度、私が栄
誉ある準大賞を戴
けたのは、師匠、
諸先生、書友の温
かいご指導があつ
たからと感謝して
おります。

体調を崩した私が、頑張っている姿を知ら
せたく、中日展で賞を戴くのが目標でした。
「獲」は、賞を獲得したい強い思いから選
んだ文字です。しかし、自分の勉強不足もあ
り練質に力強さ、感情が表現できず悩み苦し
みました。課題として、古典をもっと学び、
自分の感性をも磨き魅力ある作品を書けるよ
う勉強していきたいと思ひます。これからも、
ご指導宜しくお願い致します。

準大賞

第四部 稲垣 竹徑



何処からか微か
に聞こえて来る鶯
の声に元氣付けら
れ、題材を「鳴」
としました。待ち
に待った春の訪
れ、息吹、冬の寒さからの解放感等、明るい
春のイメージを表現しようと思ひがけ、紙面に
臨みました。

この度は予期せぬ栄誉ある準大賞を賜り、
感激と共に身の引き締まる思ひでございます。
誠に有難うございました。これも偏にご
指導下さった師をはじめ、諸先生方、仲間の
皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。より一
層努力、精進して参りたいと思ひます。今後
共にご指導賜りますようお願い申し上げます。

〔評〕

大胆な構成と変化に富んだ線の妙味は人の
心をひきつける。結体と筆致がからみあつて
運筆の活動が心地良い作。



〔評〕

筆路の秀潤にして暢達した線質は、運筆快
適たる自然な脈絡が息づいている。穏健な筆
触の気象大なる作なり。



準大賞

第四部 岡野 敬子



準大賞有難うご
ざいました。厳し
い師に出逢えたこ
と、本当に倅せで
す。すべては自分
の勉強以外にはな
い。忘れ置いていかれることを徹底的に教
えられました。

「取捨選択」……若い頃から貪欲に書の技
術を得ようとしてきました。ただ捨てる事に
意識を持ったことはありませんでした。今ま
でどうすれば自分独自のいい作品が書けるか
と構成ばかりを探してきましたが、ふと作つ
たって仕方ない。無理な構成は理知的な品性
に乏しい。と昨年から少し捨てる様にな
りました。計画を捨てるを覚悟して。

準大賞

第四部 鈴木 愛



この度は身に余
る光栄な賞を賜
り、驚きと戸惑い
で一杯です。これ
も偏にいつも温か
くご指導下さる両
先生方と社中の諸先輩方のご厚情の賜物と深
くお礼申し上げます。

この作品は、心に希望の燈がともりますよ
うにとの願いを込めて書かせていただきました。
臨書を重ねる事で線の強さを表現出来た
らと願っておりますが、書の世界は奥深く一
生をかけての勉強なのだと思ひ改めて実感して
おります。
この受賞を新たな一歩として日々努力精進
して参る所存ですので、今後ともご指導ご鞭

〔評〕

偏旁の大胆なデフォルメと、筆力沈着にし
て豪胆な運筆が変化の妙を尽くしている。激
しい動きの中の白も魅力。



〔評〕

形と線の自然な脈絡のリズムは書芸の妙を
發揮している。まことに明るく且つ自然で、
気品の高さを感じる作。



捷の程宜しくお願い申し上げます。

準大賞

第五部 紀藤 捷庵



この度は、大変
栄誉ある準大賞を
賜り深く感謝申し
上げます。これも
偏に熱心にご指導
くださっている師

のおかげであると痛感しております。

篆刻という方寸の芸術の世界に出会って以
来、その奥深さに圧倒され、小心落墨、大胆
奏刀。布字は細心の用意をし、奏刀は大胆に
という金言のとおり自分なりに考え、伝統を
重んじ古典に立脚した作品をと、常に念頭に
置いて取り組んできましたが、まだまだ勉強
不足の感は否めません。

今回受賞させていただいたことをこれから
の励みとして、改めて初学の志に戻り、より

準大賞

第五部 花村 秀嶽



栄えある準大賞
の吉報を戴き感激
と更なる精進とが
交錯いたしました。
師のご指導の
賜物と厚くお礼申



平成十三年春仲。隣人より篆刻額を戴いた
ことが契機で入門を決意しました。篆刻とい
う小さな方寸の世界の中で「陰と陽」「赤と
白のバランス」の妙味にとりつかれ、生き甲
斐の境地に浸ることができました。しかし、
文字を素材とする造形芸術は実に奥深く、篆
刻のごく入口で迷いの世界に居る自分を認識
する次第です。師の業績の偉大さと日々研鑽
される後ろ姿を糧に第二
歩へと精進します。

〔評〕

曲線部に力を宿し安定
感のある字形を見せる。
分間布白も見事であり心
地よいリズムを醸しだ
す。

一層精進していく所存です。

〔評〕

篆書の筆致が表われ骨格のある線を巧みに
操る。鋭い刀法から生じた白の空間は清爽な
印象を与えている。



準大賞

第五部 水谷 有志



父は篆刻家でし
た。父の指導で、
篆刻をたしなんで
まいりましたが、
二年前に他界し正
直趣味的に留めて

おこうと考えておりました。この度は思い掛
けない賞を頂き只々驚いております。何かの
間違いだと自分で言い聞かせつつ現実はこの
賞の重みを痛感しております。

これから自分は何をするべきか、どうした
ら良いのかを自分で見つめ直し、この賞に恥
じない様に勉強に励んで行く事が諸先生方、
今日まで支えて頂いた方々への感謝、お礼だ
と思っておりますので今後共にご指導ご鞭撻の
程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

私璽に倣い輪郭を重厚に取り甲骨文字なが
ら朴訥とした表情を意図する。大胆かつ繊細
の両面をもつ情感ある作。





準大賞（2部～5部）受賞者



中日賞・桜花賞（1部）受賞者



中日賞・桜花賞（2部～5部）受賞者

中日賞



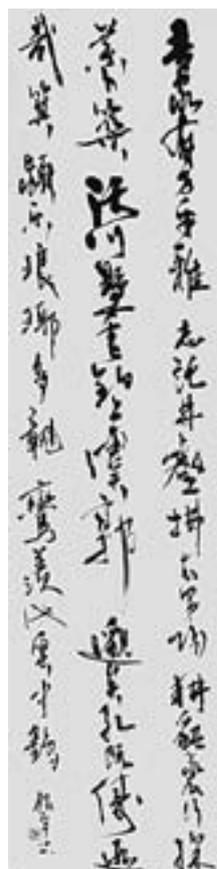
第四部 中日賞
山本裕子



第五部 中日賞
山本正良



第三部 中日賞
小島廣子



第一部 中日賞
野田館宇



第二部 中日賞
永島育子

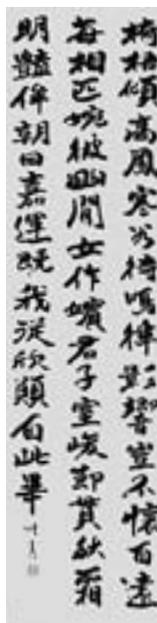
桜花賞



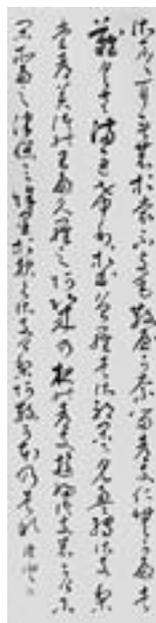
第一部 桜花賞
市川松泉



第一部 桜花賞
石塚弘子



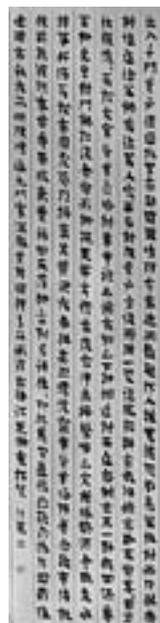
第一部 桜花賞
安藤映秀



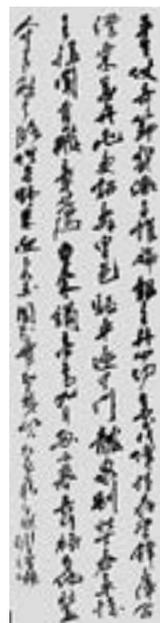
第一部 桜花賞
浅野清澄



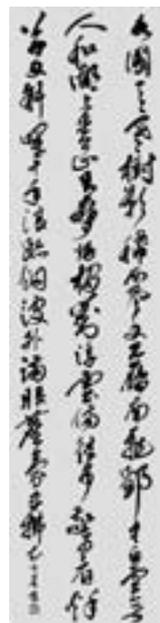
第一部 桜花賞
浅野京雅



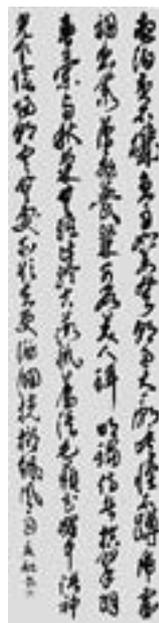
第一部 桜花賞 伊藤 江麗



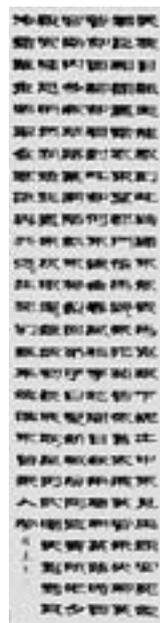
第一部 桜花賞 伊藤 静香



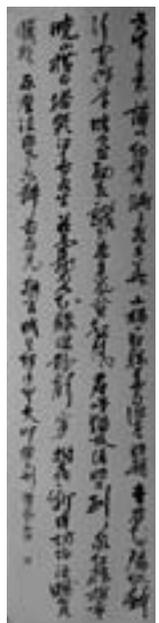
第一部 桜花賞 伊藤 由美



第一部 桜花賞 今井 夏虹



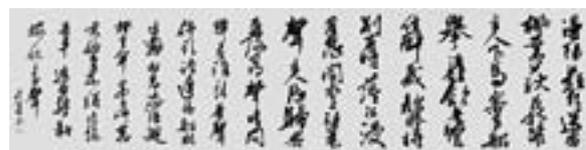
第一部 桜花賞 岩瀬 祥苑



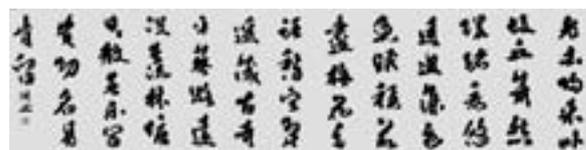
第一部 桜花賞 上田 紫鳳



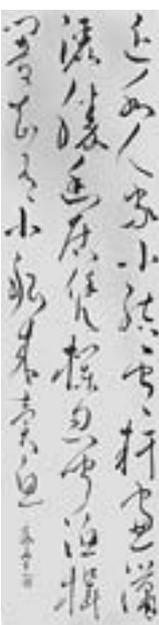
第一部 桜花賞 井戸本 瑞心



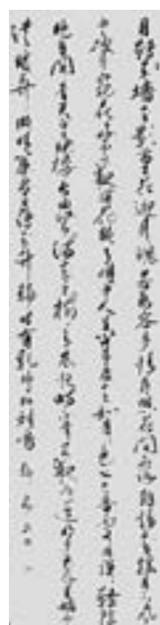
第一部 桜花賞 岩井 玲翠



第一部 桜花賞 酒井 淑婉



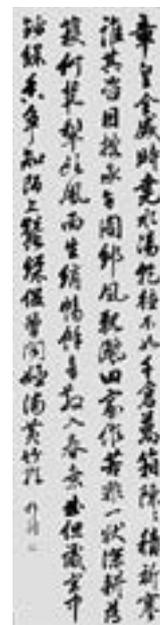
第一部 桜花賞 江崎 露舟



第一部 桜花賞 江戸 静泉



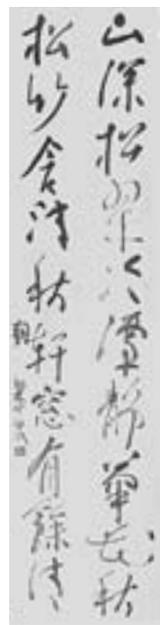
第一部 桜花賞 大竹 澄青



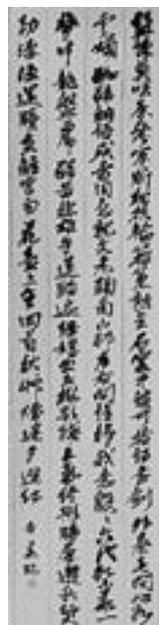
第一部 桜花賞 尾中 杉得



第一部 桜花賞 加古 翠涛



第一部 桜花賞 梶川 朝景



第一部 桜花賞 加藤 杏華



第一部 桜花賞 川口 花園



第一部 桜花賞 神田 醉月

第一節 桜花賞 木本蓮花

第一部 桜花賞 樽林春翠

第一節 桜花賞 古塚璃幸

第一部 桜花賞 後藤沼香

第一節 桜花賞 佐藤清暁

第一部 桜花賞 佐藤清暁

第一節 桜花賞 佐藤清暁

第一部 桜花賞 佐藤清暁

第一節 桜花賞 佐藤清暁

第一部 桜花賞 佐藤清暁

第一節 桜花賞 佐藤清暁

第一節 桜花賞 塩手麗穂

第一部 桜花賞 志賀青香

第一節 桜花賞 菅谷芳泉

第一部 桜花賞 杉浦大河

第一節 桜花賞 杉浦大河

第一節 桜花賞 高瀬清恵

第一部 桜花賞 高橋江翠

第一節 桜花賞 高橋江翠

第一節 櫻花賞 豐嶋青岑

第一部 櫻花賞 中垣幸聲

第一節 櫻花賞 中野聲石

第一部 櫻花賞 中村杏華

第一節 櫻花賞 中村杏華

第一部 櫻花賞 中村桂華

第一節 櫻花賞 中山沙渚

第一部 櫻花賞 林美翠

第一節 櫻花賞 庭田靜苑

第一部 櫻花賞 橋本佳靜

第一節 櫻花賞 長谷川治光

第一節 櫻花賞 花村翠仙

第一部 櫻花賞 長谷川治光

第一節 櫻花賞 橋本佳靜

第一部 櫻花賞 庭田靜苑

第一節 櫻花賞 長谷川治光

第一部 櫻花賞 橋本佳靜

第一節 櫻花賞 庭田靜苑

第一部 櫻花賞 長谷川治光

第一節 櫻花賞 橋本佳靜

第一部 櫻花賞 庭田靜苑

第一節 櫻花賞 長谷川治光

第一節 櫻花賞 日高真弓

第一部 櫻花賞 福本寿鴻

第一節 櫻花賞 福本寿鴻

第一部 櫻花賞 二村東翠

第一節 櫻花賞 二村東翠

第一部 櫻花賞 前畑清苑

第一節 櫻花賞 前畑清苑

第一部 櫻花賞 松永堯雨

第一節 櫻花賞 松永堯雨

第一部 櫻花賞 三浦巖芳

第一節 櫻花賞 三浦巖芳

嶺南冠元陸三愛
 子等榮茂春龍
 致頌於昌年金輝
 龍鳳

第一部 桜花賞 村林龍鳳

寒山轉蒼翠
 秋風聽暮蟬
 渡頭餘落日
 墟里上孤烟

第一部 桜花賞 水田珪華

秋風送爽
 丹桂吐香
 丹桂吐香
 丹桂吐香

第一部 桜花賞 美希昌風

後世始創
 持跨首途
 難哉泰王
 不知此愛
 茶懷清壺
 禮義昌倫
 聖經久煙
 埃法尚有
 存者發言
 時所吟

第一部 桜花賞 西田光華

石橋引以起
 方聲亦必以
 上人弟聲心
 飛出功華之
 去志樹竹身
 法勤可年有
 學此合道正
 聲中仰山麻
 空翠亦伴竹
 生不中人山
 而趨乃宜可
 作弟不不長
 先弟乾

第一部 桜花賞 村瀬香園

為華去地一
 茲亦有樹
 橫屋行在

第一部 桜花賞 渡辺祥令

此物之
 此物之
 此物之

第一部 桜花賞 吉田聖汀

昔年
 昔年
 昔年

第一部 桜花賞 山本小谿

此物之
 此物之
 此物之

第一部 桜花賞 山添智加

此物之
 此物之
 此物之

第一部 桜花賞 矢野彩友

此物之
 此物之
 此物之

第一部 桜花賞 村山菖苑

此物之
 此物之
 此物之

第二部 桜花賞 梶田女理

此物之
 此物之
 此物之

第二部 桜花賞 石黒直子

此物之
 此物之
 此物之

第二部 桜花賞 小林直子

此物之
 此物之
 此物之

第二部 桜花賞 今井金子

此物之
 此物之
 此物之

第二部 桜花賞 佐藤悦子

此物之
 此物之
 此物之

第二部 桜花賞 岡田真澄



第三部 桜花賞 伊藤久子



第三部 桜花賞 岩城みつ代



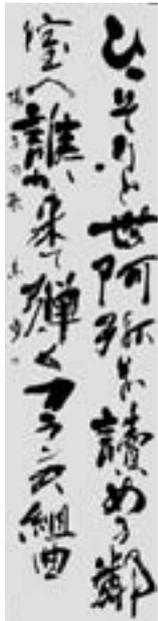
第三部 桜花賞 大沢真弓



第三部 桜花賞 近藤末子



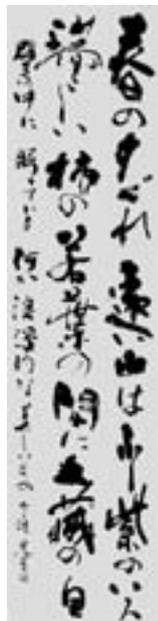
第三部 桜花賞 熊澤青流



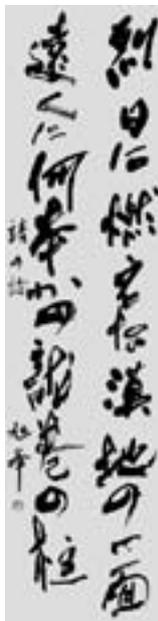
第三部 桜花賞 小川東歩



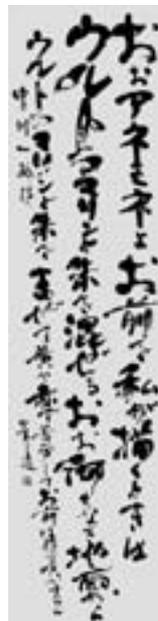
第三部 桜花賞 樋口真衣



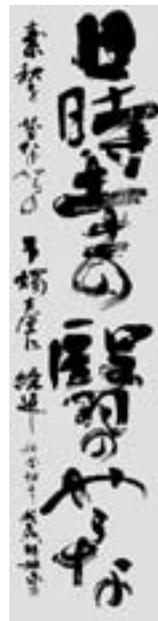
第三部 桜花賞 堤光星



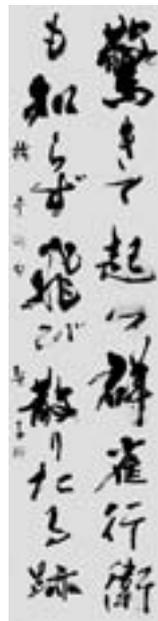
第三部 桜花賞 鈴木旭峯



第三部 桜花賞 志村峯遠



第三部 桜花賞 佐野桃泉



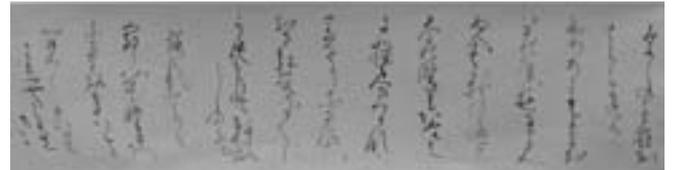
第三部 桜花賞 桜井聖子



第二部 桜花賞 杉浦清子



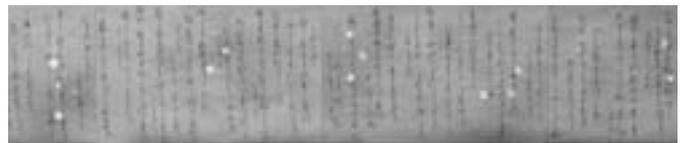
第二部 桜花賞 野田智子



第二部 桜花賞 信川芳枝



第二部 桜花賞 山田美園



第二部 桜花賞 山中みね子



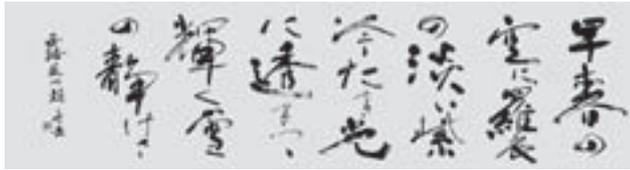
第三部 桜花賞 平田 瞳



第三部 桜花賞 山口 紫泉



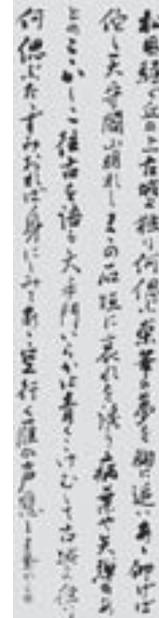
第三部 桜花賞 森 尚香



第三部 桜花賞 渡辺 冬岳



第三部 桜花賞 川口 紫泉

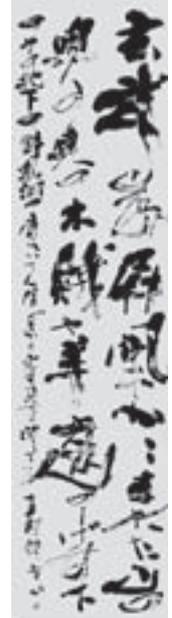


第三部

桜花賞

平松

圭鳳



第三部

桜花賞

平野

智山



第五部

桜花賞



第四部 桜花賞 清水 眞美



第四部 桜花賞 嶋田 恵紅



第四部 桜花賞 黒柳 知里



後藤 慧鏡



第五部 桜花賞 杉浦 鶴雲



第五部 桜花賞 会田 慶子



第五部 桜花賞 新美 友子



第五部 桜花賞 多田 青石



第五部 桜花賞 伊藤 梅香

中日賞・桜花賞作品評

第一部(漢字)伊藤 昌石評

〔中日賞〕

野田 館宇

縦への展開を意識し、行間を明るくした作品。堅実かつ重厚な作である。

〔桜花賞〕

浅野 京雅

一字一字丁寧に洗練された筆法は、日頃の努力の証である。口調のある作品である。

浅野 清澄

密度の濃い充実した作品。筆の使転に冴えをみる秀作である。

安藤 映秀

重厚沈潜の中に、些かの動きを加え、全体に豊かな情感がある快作。

石塚 弘子

文字の大小に表われている立体感のある構成が、品位の漂う作品になっている。

市川 松泉

大胆な筆線と構成美、さわやかな流れの美しい作品である。

伊藤 江麗

豊潤な筆線が生かされている、高い品格と安定感絶倫な研鑽の所産であろう。

伊藤 静香

流麗な筆線と確かな結構、立体感と律動美のある力作である。

伊藤 由美

熟達した重厚ある線の構成美、高い感性と情熱ある作品と見る。

井戸本瑞心

細字、一点一画に細やかな神経の行きとどいた、みごたえのある作。

今井 夏虹

豊潤な筆線と洗練された構成、生氣と充実感が漂う作品となった。

岩井 玲翠

躍動感と気宇に充つ、構成の妙、安定感が伝わってくる作である。

岩瀬 祥苑

筆圧が十分利いて、思いきりの良い筆法は重量感があつて見応えあり。

上田 紫鳳

冴えた筆線と洗練された造形美、高い品格を備えた力作である。

江崎 露舟

伸びやかな線質と行の流れ、律動美と立体感の溢れたさわやかな作品。

江戸 静泉

清雅な筆線と行の流れ、ゆつたりと自己の世界を表出した感性のある作品である。

大竹 澄青

淡墨の作品で行の流れがリズムカルで、行間も、余白も美しい作品。

尾中 杉得

重厚にして勉艱な筆線、量感と明るさを兼備した秀作。

加古 翠涛

確かな結構と気魄が溢れ出る筆線。重量感のある力作。

梶川 朝景

淡墨で造型美の工夫表現がすぐれた、詩情溢れた品格のある作。

加藤 杏華

引き締まった筆線が淀みなく流れ、行間の余白にも充分の配慮がある作。

川口 花園

ドッシリ構えた結構は整然とし、思いきりの良い筆法は重量感ある力作。

神田 酔月

左払いの強調が、確かな筆線と構成へのバランス絶妙。

木本 蓮花

きめ細やかに充実した作。気負いがなく品格がある。

榎林 春翠

流麗な筆線、生きた空間、清雅な心情が筆触を通して伝わってくる作。

古塚 璃幸

多字数だが、一字一字を丁寧に書き、行間の白を活かした秀作。

後藤 沼香

優美な結構と筆の流れの冴え、立体感と律動感のある秀作。

酒井 淑婉

雅味豊かな線質が、ダイナミックで高度な感性を醸した作。

佐藤 清曉

重厚沈潜の中に、筆触の呼吸と使転の冴えが光る格調高い作。

佐藤 琉華

清雅な余白が効いて、洗練された結構、さわやかで品格のある作。

塩手 麗穂

骨格はドッシリした造形で、筆触の鋭く切り込む線の強さは見事である。

志賀 青香

一点一画いささかの緩みなく、躍動感に富む秀作です。

菅谷 芳泉

筆法にいささかの迷いなく、筆圧が十分利いて重厚味ある力作。

杉浦 大河

墨量十分で重量感のある作。行間の白が作品効果を高めている。

杉浦 仁美

気負いなく、全体にほのかな詩情を感じる秀作である。

田垣 秀條

文字は且念に書しているが余裕があり。奥ゆかしく品位ある作品。

高瀬 清恵

力強く一字一字丁寧な筆線、のびやかで濃墨でも行間の白さがうまく全体のバランスを保っている作。

高橋 江翠

作風の大膽さと練達の技が光る。一貫した流れで最後まで乱れなく習熟度の高い作。

高松 彩月

運筆と用筆の技の高さが線質に出ている。作品構成も気品に満ちた快作。

竹内 深風

加工紙と書風線質の相乗効果は成功といえる。平素の努力が成果を示した作。

多和田美穂

古典を基とし切れ味のよい作風。一定のリズムで最後まで息をぬかず書かれた力作。

鶴見 翠川

緩急を駆使しリズム感溢れ、大きくとった行間と余白の美しさの安定した作。

豊嶋 青岑

最後まで乱れの無い、安定感のある筆線、日頃の努力の証。おみごと。

中垣 幸聲

字体の大小、疎密、潤渇など筆線の変化によって律動美を備えた作。

中野 聲石

温もりと高雅な風趣を備えた、密度の濃い充実した作品。

中村 杏華

流暢な筆線と重厚な構成の中に静中の動をみる、高い感性と情熱を秘めた作。

中村 桂華

鋭い筆線で一貫した造形の妙、風格ただよう作品である。

中山 沙渚

行間・字間を充分とった淀みのない運筆で動きのある作。

西田 光華

いささかの揺るぎのない筆法で、重厚感のある作品。

庭田 静苑

練熟した筆致と、洗練された結構。全体に神経の行きとどいた作。

橋本 佳静

冴えた線、運筆も大きく自在、清澄な品格のある作。

長谷川 治光

筆がよく働き筆先もよく利いて、潤いがある豊かな作。

花村 翠仙

密度のある構成、軽快なりズムが快い、安定感のある作。

林 秋芳

大胆かつダイナミックな筆勢、雄大なスケールを持った秀作。

林 美翠

筆の運びが骨格をしつかりさせて、造形美が見事に書き上げられた快作。

日高 真弓

気力に勝る作で、高い品格と充実感に日頃の研鑽の深さを感ずる。

福本 寿鴻

洗練された筆線と形姿、疎密緩急により立体感のある作。

二村 東翠

気力が充実し、文字の結構、疎密、間のとり方など、高度に洗練された作。

前畑 清苑

重厚にして力強く切り込む筆触、書学に対する真面目さが表われた作。

松永 堯雨

ゆったりと構えた豊かな線質、悠然たる運筆は日頃の努力のたまもの。

三浦 巖芳

密度ある構成、洗練された筆線、行間を明るくした安定感のある作。

美希 昌風

自然に流れる筆線、行の呼応や余白にも配慮された秀作。

水田 珪華

真面目で安定した作。行間の余白にも充分な配慮工夫のある作。

村瀬 香園

横書きで字間行間を充分とつた余裕が、小字ながらも大きく見える印象的な作。

村林 龍鳳

起筆から収筆に至るまで気を抜かず、品位と気宇に優る秀作。

村山 菖苑

赤い加工紙に、暢達した筆線と個性的な形姿が律動美のある作品になっている。

矢野 彩友

練熟した筆致と、洗練された結構、日頃の努力の成果が見てとれる。

山添 智加

ゆるぎない筆法、リズムの一貫をなして軽快な作となった。

山本 小谿

豊潤な筆線、リズムカルな振幅、行の響きと余白のバランスが美しい作。

吉田 聖汀

小気味良い筆線が軽快なりズムを奏で、雅味を一層引き立てている品位ある作。

渡辺 祥令

単体ながら、自然に流れる軽妙なりズムが快い。大きくとつた余白が美しい。

第二部 (かな) 渡邊 笙鶴評

〈中日賞〉

永島 育子

古代調の気品のある料紙に、優美にくり広げられた連綿美が雅の世界をみごとに表現している。

石黒 直子

円味のある細い線がよくきいた明かるい動きのある作品が魅力的ですばらしい。

今井 金子

藏鋒の深味のある線がみごとで、構成にも変化があり安定感のある作品。

岡田 真澄

重厚な線で大胆に表現し、墨量の変化が更に一層作品の厚味を増した秀作。

梶田 女理

ポリウム感があり、大らかな世界をかもした作。墨の潤濁が格調を高めて成功した。

小林 直子

行間の変化と円味のある線が魅力的な作品。行頭を揃えて行尾の変化でみせた作。

佐藤 悦子

行頭・行尾の凹凸のくり返しが、一見平凡に見えるが逆に落着を増し成功した作。

杉浦 清子

深みのある強い線が魅力的な作、特に後半の山場がこの作品を成功に導いた。

野田 智子

細い切れ味のよい線が実にみごとな作。長い二段の作品ながら見る人を飽きさせない。

信川 芳枝

弾力のきいた強い線と潤いある線とがほどよく調和して躍動感のある作品。

山田 美園

温かみのある線と流れる美しさが、作品を優雅にまとめあげている。

山中みね子

古筆のとり組みの深さを十分に發揮した上品で気品に富んだ作品。

第三部 (近代詩文) 黒田 玄夏評

〈中日賞〉

小島 廣子

明快なテンポで次々と文字群が登場する楽しい作だ。筆線はすべて暢達し気分高らかに賛歌を謳っている。

伊藤 久子

直線の爽やかさと潤濁の多彩な変化が澄み切った春の気分を謳いあげている。横長にふさわしい腕の動きだ。

岩城みつ代

大字は筆鋒の開閉を狙って奏効、小字との対比を鮮明なものにした。骨力を養うべく古典習熟に傾倒望む。

大沢 真弓

開放感を念頭に置いた運腕が全体を貫ぬき樂趣多し。自由な雰囲気の内ガッチリした筆線を今後の課題に。

小川 東歩

落筆の高さで鋒が開き随所に厚味ある線を使って立体感に溢れる。ひらがなも臆せず堂々一貫したのが良い。

川口 紫泉

筆の握りが軽やかで線が澄み気持の安らぐ好感の書。潤濁の配分が実に合理的で美的感覚に秀れる。

熊澤 青流

メリハリの効いた構築性豊かな書風で活力充分。終筆に見られる勢いは気持の高揚から湧き出た自然の産物。

近藤 末子

悠然とした運筆はおおらかさを生み、安定感に優れている。細い線の織り混ぜ方が巧みで明朗な作となった。

桜井 聖子

活気のある筆の動きがダイナミックな作風となり、漢字かなを一体化させた調和性は安心感をもたらして佳。

佐野 桃泉

筆線に弾力あり、開閉に伴う潤と濁は作者の意気溢れるところと観る。いのち煌めく書と云うか。

志村 峯遠

色彩感覚を想わせるような、真つ向勝負の潤と、控え目なワキ役湯が良いコントラストを響かせる趣きの作。

鈴木 旭峯

字間にゆとりを持たせどの字にも味わいの深さを充分見せている。沈潜の筆線は豊かさを包含し格調が高い。

堤 光星

字形の傾斜は心の行くままであろう。その自在な心境がこの作の魅力であり楽しさに満ちた感動が残る。

樋口 真衣

意表を突く横画の上下動が行間字間に疎密の変化を与え、テンポの良いリズムを奏でている。進境楽しみあり。

平田 瞳

てらいのない構成であるが筆線の確かさは存分の見応えがする作品だ。清澄、暢達と魅力に富んだ風情だ。

平野 智山

パツと燃えさかるような意志の働いた線に目を奪われた。力の限り切り進む真剣勝負の心意気が溢れ出る。

平松 圭鳳

温雅な書風で漢字かなの調和をはかる技の光る書。細字ながら線質に豊かさあり、時に軽妙な調子もあつて佳。

松原 光彩

運腕大きくスピード感溢れ生命力を感じる作。左右への振幅大いにあり、横長紙面を存分に活用している。

森 尚香

流れ爽やかにして行間の響き合いが美しく、幽雅な調べの世界だ。線質の温かさは独自の持ち味であらう。

渡辺 冬岳

迷いなく屈託なく書き切つてゆく心意気が魅力。線は明朗で暢達、空を切つてゆく爽やかさは貴重な技法だ。

第四部（少字数）中村 立強評

〈中日賞〉

山本 裕子

温雅清浄の筆致の流れに一貫性があつて良い。終りの部分の右旋回の弾力の効いた渴筆の捻れがこの作の魅力。

〈桜花賞〉

黒柳 知里

秀潤にして筆勢もよく伸びている。形質とも用意周到な作。一筆書きの筆路明快な特徴を醸し出している作。

嶋田 恵紅

用筆法を得て明確な結体を基に思いきつた表現は暢達した線条の響きとなつて表われていて安定感のある作。

清水 眞美

大胆な結体で、規模大にして用筆勁健筆勢が溢れ気力十分なる作。遅速緩急抑揚の変化美、潤濁美が絶妙。

第五部（篆刻刻字）岡野 楠亭評

〈中日賞〉

山本 正良

参差繚繞な作、文字の強弱による印面の余白が美しい。また文字を立体的に見せる刀技は高い境地を示す。中日賞にふさわしい作。

〈桜花賞〉

会田 慶子

中央に大胆な界線を利かせ単調さを回避している。刀法には淳朴古拙な趣が顕れ風格がある。

伊藤 梅香

曲と直の線が織り成し熟練した穏やかな作。篆刻創作の基となる篆書の構造を保ち自然な篆体の姿を求めている。

後藤 慧鏡

二顆での出品、共に呉昌碩を追隨した作。特に輪郭の処理が巧みで虚実効果を見せる技法は極地である。

杉浦 鶴雲

奇を衒わず虚飾を排し独特の渋味を見せ、線性は自信に溢れ凛とした輝きを放つ。巧を拙に蔵す。

多田 青石

ゆるぎない文字造形、一点一画に存在感があり余白に発生した響きが印面全体に満ち溢れ格調高い作。

新美 友子

スケールの大きな作で運刀に迷いが無い。二つの「鳥」の変化とバランスがこの作の見せ場。



若年（15歳～21歳）受賞者

創立八十周年記念 第64回 中日書道展入賞者

記念賞

第一部(漢字)

- 天野 梢華 伊藤 紅樹
- 伊藤 龍仙 猪又 松峰
- 入谷 霞流 植田 秀穂
- 上松 早苗 江口 大濤
- 遠藤 栄久 太田 佳香
- 小野 蹊泉 加藤 翠影
- 上小倉積山 倉橋 高堂
- 黒川 虚宇 桜井 柳絮
- 佐藤 華泉 柴間 秀瑤
- 鈴木 花園 鈴木 彩鴻
- 仙石 祥香 高桑 嚴風
- 滝 白雅 田中 暁雨
- 田中 石雲 谷川 青楓
- 柘 英峰 戸田 青楓
- 戸松 香苑 中島 永溪
- 中村 清岳 林 春翠
- 坂野 竹童 平野 公慎
- 藤井 幸堂 松田 樹幹
- 丸山 聖峰 村上 史麗
- 森 清葉 山田 海石
- 山田 啓峰

川合 採星 小嶋 千翠

澁谷 鳴風 杉本 京扇

津田 松鶴 寺島 春恵

中野世津香 長谷川鸞卿

津屋多美子 中村 和則

中村 華風 中村 青丘

秦 雪暎 波多野香葉

羽場 春蕙 林 千葉

藤澤 映秀 星野 蘭雪

穂積 爽風 村瀬 彩光

森 翠葉 安田 一絵

梁川 景雲 山崎 富泉

吉田 一峰

青山 法子 石原 松扇

伊藤 静春 稲垣 京子

井上 翠 笠原喜美江

近藤由紀枝 酒井 麗月

柴田美由紀 鈴木 千恵

森 笙韻

井上 香苑 大橋 幽徑

加古 松泉 桜井 和香

田中 幸香 羽柴 苔谷

前田 祥石 前田千登世

松下 聖心 村田 籬香

村松 紫雲 保田 翠苑

渡辺 桂真

石塚美根子 稲垣 竹徑

岡野 敬子 鈴木 愛

紀藤 捷庵 花村 秀嶽

水谷 有志

長谷川治光

庭田 静苑

中山 沙渚

中村 杏華

中垣 幸聲

鶴見 翠川

竹内 深風

高橋 江翠

田垣 秀條

杉浦 大河

志賀 青香

佐藤 琉華

酒井 淑婉

古塚 璃幸

木本 蓮花

川口 花園

梶川 朝景

尾中 杉得

江戸 静泉

上田 紫鳳

岩井 玲翠

井戸本瑞心

伊藤 静香

市川 松泉

安藤 映秀

浅野 京雅

浅野 清澄

石塚 弘子

伊藤 江麗

伊藤 由美

今井 夏虹

岩瀬 祥苑

江崎 露舟

大竹 澄青

加古 翠涛

加藤 杏華

神田 醉月

樽林 春翠

後藤 沼香

佐藤 清暁

塩手 麗穂

菅谷 芳泉

杉浦 仁美

高瀬 清恵

高松 彩月

多和田美穂

豊嶋 青岑

中野 聲石

中村 桂華

西田 光華

橋本 佳静

花村 翠仙

林 美翠

日高 真弓

福本 寿鴻

中日賞

第一部(漢字)

野田 館宇

第二部(かな)

永島 育子

第三部(近代詩文)

小島 廣子

第四部(少字数)

山本 裕子

第五部(篆刻・刻字)

山本 正良

桜花賞

第一部(漢字)

浅野 清澄

安藤 映秀

石塚 弘子

市川 松泉

伊藤 江麗

伊藤 静香

伊藤 由美

井戸本瑞心

今井 夏虹

岩井 玲翠

岩瀬 祥苑

上田 紫鳳

江崎 露舟

江戸 静泉

大竹 澄青

尾中 杉得

加古 翠涛

梶川 朝景

加藤 杏華

川口 花園

神田 醉月

木本 蓮花

樽林 春翠

古塚 璃幸

後藤 沼香

酒井 淑婉

佐藤 清暁

佐藤 琉華

塩手 麗穂

志賀 青香

菅谷 芳泉

杉浦 大河

杉浦 仁美

田垣 秀條

高瀬 清恵

高橋 江翠

高松 彩月

竹内 深風

多和田美穂

鶴見 翠川

豊嶋 青岑

中垣 幸聲

中野 聲石

中村 杏華

中村 桂華

庭田 静苑

西田 光華

長谷川治光

橋本 佳静

林 秋芳

花村 翠仙

日高 真弓

福本 寿鴻



特別賞 選考委員

- 第三部 (近代詩文)**
 伊藤 久子 岩城みつ代
 山中みね子
 信川 芳枝 山田 美園
 杉浦 清子 野田 智子
 小林 直子 佐藤 悦子
 岡田 真澄 梶田 女理
 石黒 直子 今井 金子
第二部 (かな)
 吉田 聖汀 渡辺 祥令
 山添 智加 山本 小谿
 村山 菫苑 矢野 彩友
 村瀬 香園 村林 龍鳳
 美希 昌風 水田 珪華
 松永 堯雨 三浦 巖芳
 二村 東翠 前畑 清苑
- 第五部 (篆刻・刻字)**
 後藤 慧鏡 伊藤 梅香
 会田 慶子 杉浦 鶴雲
 多田 青石 新美 友子
- 第四部 (少字数)**
 渡辺 冬岳 森 尚香
 松原 光彩 平松 圭鳳
 樋口 真衣 平田 瞳
 鈴木 旭峯 堤 光星
 佐野 桃泉 志村 峯遠
 近藤 末子 桜井 聖子
 川口 紫泉 熊澤 青流
 大沢 真弓 小川 東歩



第1部 (漢字) 審査風景

一科

第一部 (漢字)

- 推薦
 今井 由紀 岩田 永慎
 岩田 華風 上山 翠芳
 長田 裕華 鏡 留奈
 春日井 榮嘉 倉光 枝芳
 兒島 麻乃 古園 井美凜
 小山 香碧 近藤 峻岳
 坂井 彩乃 清水 佳蘭
 清水 美和子 杉山 松雅
 鈴木 溪聲 墨 沙織
 墨 千紘 戸本 舟泉
 長江 毬華 西尾 清麗
 野田 春華 野田 翠風
 野田 静月 野村 揚月
 林 華香 松永 秋花
 美馬 汪山 安井 清翠
 安西 明日香 山田 清翠
- 特選
 浅川 都鸞 浅野 揺草
 阿知 和泰山 安藤 翠昂
 石川 加翠 石川 惠翔
 伊藤 谿石 伊藤 彩秀
 伊藤 昌郷 伊藤 美扇
 稲葉 翠泉 居波 亜季
 位田 白峰 植田 漣陽
 白井 紅逕 内田 勢潭
 梅村 真琵琶 江川 幸甫
 大鐘 智美未 大寄 露光
 大西 紅邑 大羽 虹鷲
 大場 敏充 小川 華葉
 小原 淑芳 遠座 紅果
 垣東 翠照 加藤 脩平
 加藤 芳司 神尾 有沙
 神谷 芳翠 河合 澄香
- 準特選
 横山 翠慧 山本 江華
 山口 勝司 山下 有道
 山内 翔鶴 山北 真弓
 安井 翠谷 八谷 香奈
 村瀬 紫苑 森 環翠
 間野 成美 三吉 香風
 増田 白雪 松川 春霞
 牧 秀艸 牧 奈緒美
 本田 吉華 前川 紫雲
 堀 清溪 堀場 水香
 藤森 綾香 堀 秀鍊
 藤村 瓊香 藤本 香保里
 萩野 公美子 原田 春琴
 野田 和寛 野田 昌寛
 永谷 華美 西脇 和子
 長澤 美峰 中村 翠苑
 中川 佳楓 中川 瑞風
 鳥居 桃華 猶井 紅風
 谷内 彩光 寺西 智鶴
 滝本 柳烟 竹内 聰泉
 高木 玉鈴 高取 翠揚
 関 春香 関 翠虹
 新宮 緑園 鈴木 翠泉
 佐藤 恵園 佐藤 史織
 峪口 紅霞 佐々木 白郊
 小松 翠篁 近藤 瑛月
 後藤 柳月 小林 洋子
 栗木 美楓 後藤 真希
 工藤 尚篁 熊崎 溪華
 川本 晴美 木田 由津



一科 第1部 当番審査員

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-------|------|------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|------|------|-------|
| 香ノ木茜苑 | 栗山文美 | 栗田佳虹 | 倉田果苑 | 熊崎瑞峰 | 木全蕙月 | 川北博子 | 上村桂蘭 | 金森柏泉 | 加藤秋石 | 勝野佳玉 | 春日井紅雲 | 尾関克則 | 長船志保 | 小栗桃実 | 奥野鶴扇 | 小川詩織 | 岡本奈美 | 岡崎啓雪 | 太田祥風 | 大岡祥園 | 宇野英里香 | 鶴飼春蕙 | 上田黄柳 | 上蔦杏苑 | 岩田希彩 | 岩崎清風 | 稲垣清雅 | 伊藤里紗 | 伊藤清延 | 伊藤瑞恵 | 井戸友理 | 市川純慧 | 磯貝碧雲 | 石崎恵秋 | 石泉松風 | 井桁翠咲 |
| 小澤松煙 | 小石順 | 黒岩翠華 | 倉知葉舟 | 熊澤松湖 | 久野深水 | 川本柚香 | 河合秀香 | 兼子桂苑 | 金丸紫山 | 勝野珠虹 | 香月恵里 | 垣本松風 | 小澤裕子 | 長田和記 | 奥村陽鶴 | 小川秀苑 | 小川暉翠 | 岡本覃溪 | 大藪翠園 | 大久保真麗 | 大池香嶺 | 内山雅舟 | 上田雙詠 | 上杉真里佳 | 岩田浩泉 | 岩澤紫穂 | 今井翠柳 | 稲垣輝彩 | 伊藤汀華 | 伊藤翠眉 | 伊藤紫鳳 | 市橋文親 | 市岡敬華 | 石田舜華 | 石川景雲 | 伊佐治星月 |
| 中川麗泉 | 中垣裕華 | 長尾秀麗 | 内藤春翠 | 戸田冬峯 | 遠山柳恵 | 鶴見香翠 | 都築弘昭 | 近松青玉 | 谷田青崖 | 田中恭子 | 田澤扇華 | 竹内雀邨 | 竹内一樹 | 高山さち子 | 曾根精華 | 澄川翠栄 | 須田桃苑 | 鈴木翔山 | 鈴木花邸 | 杉森亮子 | 神藤紫穂 | 志村玲香 | 島田楓林 | 七野瑞夏 | 塩野谷厚志 | 佐藤紅蘭 | 酒向美恵子 | 榊原春蘭 | 酒井照苑 | 齊藤美流 | 近藤珠翠 | 小林雅子 | 後藤蘭徑 | 後藤圭翠 | 小平光彩 | 小嶋玉寶 |
| 永坂瑞祥 | 中川翠山 | 永岡沙弥 | 中井紅潤 | 友松芳春 | 戸田夏舟 | 寺澤恵泉 | 堤絢子 | 辻村幸玉 | 谷本義仙 | 田中緑泉 | 田中絵三奈 | 竹浦栄翠 | 武内花扇 | 田口夏帆 | 高津径花 | 関戸華月 | 須田白城 | 鈴木晶行 | 鈴木春瓊 | 杉山洋子 | 杉浦薫水 | 白塚山城 | 清水美津子 | 篠原久祥 | 志知隆道 | 佐藤桃華 | 佐藤光華 | 桜井光葉 | 坂井田青馨 | 嵯峨節苑 | 近藤明彦 | 近藤裕 | 小早川恵祥 | 後藤枝翠 | 児玉翠風 | 小嶋瑞香 |
| 水野秋窓 | 水野雅秀 | 水口久美子 | 真野桃華 | 松原澄秋 | 松田紫鵬 | 松岡蘭毫 | 間瀬琥穂 | 牧泉里 | 前川緋邑 | 堀木水明 | 堀美洲 | 外村幹秀 | 夫馬恵舟 | 小塚松香 | 福山恵山 | 富貴原寿風 | 廣瀬千翠 | 日比野貞寿 | 樋口白扇 | 原田玉香 | 林萃香 | 林彩香 | 濱島緑風 | 馬場紅雲 | 服部瑞花 | 服部芝華 | 野呂隆硯 | 野田晃寛 | 丹羽麻由美 | 西川佳江 | 新美瑛洲 | 中山恵理子 | 長野輝泉 | 中西瑤花 | 中島静鈴 | 長坂竹華 |
| 南谷巨輝 | 水野華穂 | 水谷君代 | 丸山香苑 | 松本静鳳 | 松原祥羽 | 松田玉芳 | 松井悦子 | 牧野瑞風 | 前田小牧 | 本間鳴琴 | 堀木真山 | 堀翠苑 | 古橋紀風 | 船橋幽泉 | 藤井秀堂 | 福田祥光 | 深田光鵬 | 平野桃泉 | 久田千祥 | 半谷恵風 | 原香風 | 林尚志 | 林華静 | 濱地彩嶺 | 華井春汀 | 服部修江 | 蓮尾純風 | 野々垣煌玉 | 野口紅川 | 西山美翔 | 西川樹顛 | 新津美泉 | 長屋純子 | 中根亜子 | 中島桃泉 | 中島昭川 |
| 木戸長山 | 川本茅穂 | 川瀬英泉 | 加藤千冬 | 勝田節苑 | 奥谷虹雨 | 小川芳華 | 岡嶋桂川 | 大野石蘭 | 大須賀恵峰 | 内田皐月 | 上本松翠 | 伊藤清川 | 伊藤慧彩 | 伊藤薫 | 石川清秋 | 石川恵水 | 池山博水 | 新井陽月 | 浅野春光 | 青木芝翠 | 秀逸 | 渡邊水香 | 若松翠泉 | 吉田翠竹 | 横田杏歌 | 山本祥子 | 山路静竹 | 山口紅鶴 | 山川桂花 | 山内麗花 | 安田彩霞 | 森井嶺月 | 村田華雪 | 村瀨悠 | 宮崎芳川 | 宮尾清峰 |
| 鬼頭千鶴 | 北村翠蓉 | 川瀬桃紅 | 粥川美煌 | 加藤祥華 | 尾崎節香 | 小川幸子 | 岡田沙織 | 大野真季 | 大野琴舟 | 江口星千 | 鶴飼千聖 | 今西香溪 | 伊藤春翠 | 伊藤鶴雲 | 石川仙城 | 石川翠峰 | 池田豊泉 | 足立耕堂 | 浅野彩苑 | 渡邊朝萌 | 脇田朝萌 | 吉成香映 | 横山竹庭 | 湯川瞬光 | 山田清翠 | 山口光華 | 山川清水 | 山内彩心 | 矢野紫舟 | 森川富華 | 森芳華 | 村瀨芳翠 | 村上橙果 | 三宅夕麗 | | |



一科 第2部～第5部 当番審査員



第2部(かな)審査風景

渡辺	横溝	山村	山田	山崎	森下	水野	堀脇	舟戸	藤井	広瀬	平田	樋口	西田	中村
夏希	憲吾	光葉	千夏	白雲	精華	美舟	明代	裕貴	紅夢	光輝	光蘭	薫仙	子寧	勝子
	吉川	横江	山田	山田	山口	森	松村	古田	二村	廣瀬	平野	平岩	濱口	西川
	富穂	海渡	真広	玉蓉	舞子	加奈子	美沙	寿子	くまゑ	和香	和秀	霞葉	結加里	万央

林	萩原	富永	高岡	佐藤	近藤	小林	木村	川瀬	鬼石	大島	今井	伊藤	安藤	秋田	秀逸
富美子	由希子	明美	真由美	悠佑	秀光	翠月	祥光	裕美	健司	健太郎	美翠	たつゑ	早百合	智美	
星	峰須	二村	塚田	柴田	櫻井	小林	栗木	鬼頭	加藤	小川	岩土	伊吹	伊藤	浅井	
智子	賀穂洋	梅村	琴乃	瑞香	幸子	玲華	甘露	俊夫	一枝	裕子	彩花	伴子	清雅	優琳	

林	高島	鈴木	日下部	大島	稲垣	特選	小川	石原	推薦	第五部	藤村	永見	岡島	荒川	秀逸	肆矢	山崎	藤田	服部	竹本	志賀	小川	太田	準特選	伊藤	佐伯	中野	佐野	伊藤	黒柳	推薦	第四部	山中	安岡
誠哉	濤翠	清華	響風	敦己	華扇	選	勝代	雲木	(篆刻・刻字)	美穂	美香	美紀	安子	安子	真理	香志	光峰	光志	深谷	西川	鈴木	奥村	大野	井翠	恭華	照子	武藤	片桐	眞実	眞実	少字数	美沙季	明信	
水野	瀧上	平	小池	大原	塩谷		小川	今井		矢藤	服部	白石	磯部	磯部	米田	峯村	深谷	榮子	朝美	西川	晴江	千晴	郁子	玲子	香紗	圭	千賀子	林	林	吉村	山口			
和香	紀翠	富耀	理一	裕美	華舟		真由美	修武		巧真	大峰	真子	翠陽	翠陽	清翠	理樹	榮子	朝美	朝美	晴江	晴江	千晴	郁子	玲子	香紗	圭	千賀子	寿江	星光	星光	香峰			

岩田	井上	井田	池田	阿知	第一	森	堀江	成田	鈴木	榊原	神山	上田	青木	秀逸	吉原	八谷	村瀬	松岡	菱川	中野	徳倉	帯刀	鷹羽	榊原	小泉	国枝	川瀬	寛	大嶋	伊藤	池田	準特選
有袈里	恵	昌志	翠瑤	和恵華	(漢字)	翠竹	瑞香	英道	眞壽	悠園	彩華	祥水	涼虹	愛璃	良二	幸一	清	武	秋石	禾風	溪石	秀山	有光	晴生	晃治	重幸	芳桂	良子	茂	絹子	池田	
岩村	岩田	市川	石田	池田		山本	前田	林田	高井	杉山	小島	飯屋	足立	山田	村瀬	宮下	松井	花井	富永	谷本	高橋	鈴木	齋藤	久保田	清田	加藤	小原	稲垣	石川			
蹊月	さゆり	香雪	珠山	翠恵		陽子	龍泉	かほる	玉扇	秀夫	大立	湖雲	麗玉	清香	上氏	宗豊	恵子	麦雲	晴美	藤男	洋	恵草	京子	東方	比敏	義直	泗郷	龍泉				



二科 第2部~第5部 当番審査員

梅田 桃花
江坂 虹風
太田 咲
大野 夏実
大橋 由季
加藤 新菜
上川多恵子
粥川 緋音
岸本 紫翠
木村 翠路
黒田 瑞祥
小林 雪晨
榊原 峰堂
櫻木 愛弓
島田 冴香
多賀井菜奈

浦野 由衣
大石 将広
大津 翠影
大野 早加
加藤 湖舟
金田 英硯
加村 佑紀
川本 青柎
木村 春鶯
木村 峰沼
後藤真奈美
坂井 愛
坂部 青嶂
佐藤 幸泉
鈴木 祥翠
竹中 唱花

田崎 大秀
戸田崑代子
中島 千里
永谷 美紅
西澤 舟麗
西村 仁志
西村 桃翠
丹羽 和葉
萩野 智司
長谷川有香
林 翠波
原 さやか
東山 栄華
平野 翠彩
船橋 香乃
星川 朝香
松原 流恵

堤 帆菜
富永 好子
中村 鸞邑
成瀬 仲芳
西原 希美
西山 桃翠
能見 啓練
長谷川光平
服部 恵
林 由佳子
原 奈津子
正田 子規
藤井ゆかり
堀内 芳琳
松村 亮



第 3 部 (近代詩文) 審査風景

丸井 千尋
水野 有海
三輪 和泉
村瀬 愛実
森田 晶子
會田 遥奈
青木 心泉
秋田 花泉
浅井 孝行
東 智子
安藤 早紀
飯塚 理恵
幾島 咲希
池山 咲帆
石井 清澄
石川 由衣
石倉 璃子
石黒 真川
石田 李舟
磯辺 花泉
磯村 小園
板谷 覚子
市川 浩実
伊藤 華泉
伊藤 惠子
伊藤 瑚彩
伊藤 春水
伊藤真由子
稲垣 芳辰
井上 文佳
井上 郁子
井上 綯理
今井 由美
井本ゆかり
岩田 桃紅
岩田久美子
岩田 水光
久夫

三浦愛彩美
宮原 佑果
向井 萌乃
森 麗雅
柳田 理栄
藍原 桂香
青山 和生
秋田 夏美
味岡 華奈
荒川 昌龍
安藤 翠慶
井垣八千代
池田 真夕
生駒 吉識
石井梨里子
石木 里奈
石樽 玉瑤
石崎 翠溪
石丸 清翠
磯部斗百子
板倉 香淵
市川 紅葉
伊藤 文野
伊藤 紀恵
伊藤 鴻仁
伊藤 悟
伊藤 妙子
伊藤 悠石
稲田 恭子
井上 郁子
井上 綯理
今井 由美
井本ゆかり
岩田 桃紅
岩田 桂奈
上杉多賀子

上村 光徳
鶴飼 華音
宇佐見泰山
白井 琴月
榎並 里沙
大石 真由
大木理紗子
大谷 梅里
大谷 橘佳
大林 萌芽
岡下 翠蛾
小川 翠蝶
小川 落桜
小倉 鑿石
奥村まゆみ
奥村真夕美
荻野 道世
緒方 晶
小笠原澄遠
大野 彩
大崎 一葉
大江田碧峰
大池 那由
打田 健
宇佐見友里
宇佐美吉恵
上村優香里
工藤 雅翠
久保田勘太郎
栗山 博美
桑原 千波
桑原 寛和
小嶋 翠芳
後藤 京花
後藤 清麗
後藤 菜花
小林 由佳
近藤 星崖
近藤 玲翠
佐伯 青翠
酒井 俊佑
榊原 勇
迫中ゆかり
海川 咲
梶川 涼花
片岡 祥泉
片岡 秀美
片岡 研真
加藤 美江
加藤 文子
加藤 優唯
加藤 里菜
加納 豊樹
上水流桜翠
神谷 有記
神谷 智子
神谷 尚子
狩生 芳泉
川井 礼代
川路 真由
川添 佳未
神藤 華舟
北原 駿
北原 梨紗
北原 美智子
北原 舞
鬼頭 柑香
鬼頭 梨紗
清沢 美楓

榊田 千英
熊崎 千佳
國島 雪江
久住 珠華
田中 千栳
丹下 麗川
塚本 常勝
土田 祐大
鶴見 常正
寺尾 竹豊
東海 眉虹
遠山美陽子
戸田 千裕
戸崎しゅう子
遠山 正幸
寺島 明子
鶴見 珀翠
筒井 美空
辻 桃紅
千原 夢心
棚橋 白蓉
熊崎 千佳
國島 雪江
久住 珠華
田中 千栳
丹下 麗川
塚本 常勝
土田 祐大
鶴見 常正
寺尾 竹豊
東海 眉虹
遠山美陽子
戸田 千裕
戸崎しゅう子
遠山 正幸
寺島 明子
鶴見 珀翠
筒井 美空
辻 桃紅
千原 夢心
棚橋 白蓉

田中 千栳
丹下 麗川
塚本 常勝
土田 祐大
鶴見 常正
寺尾 竹豊
東海 眉虹
遠山美陽子
戸田 千裕
戸崎しゅう子
遠山 正幸
寺島 明子
鶴見 珀翠
筒井 美空
辻 桃紅
千原 夢心
棚橋 白蓉

矢野 棠里	安田 茉莉	矢島 里帆	八木 恵染	森川 峻翠	森 亜李沙	村山 令奈	村松 裕子	村谷 佳舟	宮地 桃泉	宮路 夏実	宮崎 加奈	三宅 敬子	峰 蒼翠	源口 貴子	水谷 拓登	水越 泉聲	三沢 桃紅	右高 三郎	丸本 芳穂	真野 華翠	松元 小夏	松田 青篁	松浦 昇水	牧野 慶子	本田 緑風	堀井 美影	堀田 真里	細見 芳舟	星野 美雪	古川 博崇	船戸 蘭香	藤田 菁華	深尾 桃舟	平松 和子	日比野 亜扇	匹田 友之	
山内 清華	梁川 美舟	安田まゆみ	八木 涼太	諸永 虹泉	森真 由美	毛利明香里	村松 夕香	村松 慎梧	村上 富子	宮田アイ子	宮澤美和子	三宅 麻美	蓑輪 青岳	皆元 麻希	水鳥 裕子	水越 鈴雪	三須 和敬	右高 夏代	三木 湖舟	間野 貴文	松元 樹香	松平 佳香	松坂 歩実	松井 桃美	前 美由紀	堀部 百花	堀田 孔子	堀田 裕介	細江 春香	古田 増美	船戸 玲泉	藤本 雅也	藤田 二郎	廣間 紫泉	日比野 秀花	久田 光玉	
奥村 文子	小笠原梨佳	大村 瑞苑	大友 綾奈	大島 景葉	大石 知世	鶴飼 樹里	上田 珠鳳	岩井 順峰	衣斐 圭月	伊藤 涼子	伊藤 優里	伊藤 秀英	伊藤 景栄	井戸 唯華	石原 沙耶	石川 玲香	東 未悠	青木 来夢	渡辺菜都美	渡邊 照花	渡邊 清香	脇田 采藍	芳村 清苑	吉田 桃月	吉田 翠楊	横山 香雨	余語 誠堂	湯浅 白穂	山森 愛子	山本 真由	山田 麻央	山田 咲	山田 莉子	山下 正悟	山下 美優		
尾崎 桐華	岡村 圭祐	岡崎 真理	大平真梨子	大島 里紗	大崎 友愛	大池 遥	上松 克成	岩田 純子	猪本 奈那	稲吉 邦子	伊藤 柳川	伊藤 光栄	伊藤 圭華	伊藤 佳苑	五十川朱翠	石原 佳奈	安藤 和	浅野安莉沙	渡辺 有美	渡邊 智祥	渡邊 紗里	渡辺 久実	米田 啓子	吉田 三春	吉田 星舟	吉川瑛理香	横江 昌峰	湯浅はるか	湯浅なつみ	山本 瑤扇	山本 愛華	山田 富洲	山田 恭子	山下 夏生	山崎 春枝		
中村 翠月	中川真佐子	内藤 美歩	富田茄津紗	鶴見 蒼雲	坪井 揖溪	田原祐喜子	田中 清山	田中 麻美	田島 一華	竹内 麻実	高田 秀苑	大門 雅泉	鈴木 玲秀	鈴木 玉蘭	鈴木 梓	杉山紗結美	杉原 芳子	清水 裕子	澤田 香	佐々部華月	佐々木汀安	作内 星江	齋藤 桃胡	小塚 麻菜	黒野 有希	久保埜菖園	草深 絢香	神戸 笙詩	河合 梗香	鎌田 桃花	壁谷 由美	加藤 芳枝	桂川 華泉	粕谷 芳翠	柿本 睡香	小田 淳子	
中村 晴重	中西 仲江	中神 紫耀	内藤 紫翠	土井 祥泉	鶴見 桜花	柘植 真浪	谷 順子	田中 紫芳	立松梨沙子	武田 佳子	田口 静邨	高木 華園	角谷 優希	鈴木 溪華	鈴木 綾子	杉山美紗稀	杉原 初奈	庄野 綾華	篠崎 信夫	佐藤 清峯	佐々木里佳	作野 広大	榊原 美峰	小林 茉永	河和 節子	熊崎 蘭秀	久野 生麗	橘川沙弥佳	川瀬 鉦子	神谷 美艸	鎌倉 緑翠	加藤 蘭宇	桂川 喜翠	勝野 楓太	寛 多恵子	各務 香扇	
遠藤 里美	川本 泉		渡辺 利樹	吉村 巖	山口 真奈	山口 萩香	山内 沙月	森下 聖子	森川 諒子	村井 春菜	宮地 紫光	宮澤 真椰	水野 文香	三澤 誠也	松尾 白瑤	松井 泉城	増田 扇峰	本間 淳泉	舟橋 緑楓	藤村 実	福永 暁水	平林 美泉	平野 敦子	伴野 優里	原 杏実	花木 寛城	羽田野雅扇	野村 繁子	沼口 義昭	西垣 琴翠	西浦 春陽	鳴川 翠月	成田 恵翠	中山真也香			

佳作

川本 俊子	小野 真実	大野 恵舟	江崎 重子	岩田 香翠	犬飼 昭子	伊東富士子	生駒 君代	安藤 美恵	阿部ひろみ	青山 千峯	水谷 玉汀	堀川千津子	西川 允子	西尾 雅子	久野 正恵
木村 立代	加藤 理恵	落合八代栄	大武 英子	宇野 央子	犬飼 美晴	伊藤 雅子	石橋 遊貴	飯波 真菜	安藤 香波	赤梅 東風	和田美智子	本田ふみ子	早川 清味	西尾 雅子	久野 正恵

奨励賞

吉野 将司	村瀬 明子	箕浦 和子	三浦 昭子	堀川 洋子	藤井 幸則	林 澄江	幅 早苗	捫垣 克美	谷村たみこ	高橋 義一	鈴木由木江	篠田 礼香	小本曾貞子	久野 正恵



第4部 (少字数) 審査風景



第5部(篆刻・刻字) 審査風景

佳作

荒谷 彩香 安藤 悦子
 石川 直美 小澤 正美
 尾関小夕里 川崎三枝子
 小坂 由李 佐藤 あき
 杉田 孝子 祖父江恵子
 田中かおる 田本 尚子
 富岡 勝恵 中垣かづ江
 西尾 容子 濱田 清華
 堀 知世 水谷サト子
 宮谷 江舟 横井多恵子

第三部(近代詩文)

二科賞

岡 安立麻衣子 石田 恵巳
 有里 小栗圭太郎

奨励賞

加藤 昌司 河村 操
 小笹 准子 近藤 恭代
 杉本賢士朗 高橋 花柊
 千葉 弘子 土井 秀栖
 戸谷 典代 内藤 赫子
 丹羽 彩夏 服部 麗泉
 樋口 紀子 松井 宗紀
 松浦 楊燕 松原 教雄
 御崎 勲 水谷 梨紗
 横井 貴美 吉田 鏡華
 赤松 里香 明利 愛
 浅井 尚風 浅井登志子
 浅野 裕香 浅本 瞳
 安部沙桜里 天谷 結花
 有賀 慶春 池田 朔月

石川裕里加 石黒 優香
 石黒 由江 市江 真子
 伊藤 正治 今井 彩乃
 岩田 尚也 岩間 早紀
 植田 夕貴 梅田真理子
 江崎 梨恵 榎並 緑花
 大澤 香奈 大澤 京芽
 岡 俊子 岡野愛佑香
 岡村 延子 岡村実花子
 小川 恵秀 小川 順子
 小川百合子 織田 知里
 小野 友香 梶田 汐里
 加藤 秋穂 加藤 敦美
 加藤 由記 門田 真也
 上運天麻耶子 神村なな美
 亀井 孝晃 川口 明里
 川澄 良子 川田 敏美
 鬼頭 信子 木村 由麻
 桐山 正美 楠 悦子
 久世たか子 小出 榮風
 高坂 廣子 古賀野源太郎
 後藤 真理 小林 青華
 近藤 芳玉 佐伯 恭子
 佐藤 健斗 澤木 雅人
 柴田登志枝 清水 省子
 鈴木華歩子 鈴木 静夏
 鈴木ふゆ香 高木 智子
 田口ゆかり 武市 佳峰
 田島 唯 多田 祐子
 田中 優衣 谷川由希子
 田淵 呀子 津嶋 有花
 土屋 撰子 寺西 恒流
 寺澤 茂子 富田 武夫
 永池真莉子 中川 莉枝
 中谷 愛音 中野帆乃香
 中村 夏波 生川 幸平
 仁張 景星 野瀬 裕子

佳作

浅井 萌絵 浅井 理緒
 天木雅佳子 伊莉 恭子
 石黒明日香 伊藤 美咲
 犬塚みつ子 宇津野利仁
 江口 翠泉 大野 至山
 大森 愛恵 小川 真央
 落合 輝 加藤 祥荘
 熊谷 涉 坂本 麗菜
 鈴木 幸園 鈴木 幸園
 高木 賀代 高井 舞衣
 武内 香葉 寺尾 青波
 中村和伽子 中村和伽子
 成瀬 三鈴 野田 柚奈
 橋本 華水 服部 洋苑

佳作

久田美乃里 船橋ひかり
 松井 雲海 松井 香澄
 松岡 敬三 松平登世子
 三浦由美子 森田 れみ
 山田あゆみ 山中 麻代
 弓 春菜 吉國 知香
 若杉 輝之 渡辺 琢馬

第四部(少字数)

井上 龍泉 北村 義弘
 柴田真由美 正野 力
 杉山 貴枝 祖父江賀代
 浅井 静子 安達 鷹
 池野 登世 石原 宗久
 石原千砂子 磯貝みえ子
 井野 華水 岡田 祐弥
 加藤 友子 神谷 紗穂
 川本美由紀 栗山富士子
 小泉 路子 小山登起子
 佐野 叶子 鈴木 裕子
 高木 紗子 栢植 和代
 鳥羽 清露 永井 智子
 永江 佳子 成瀬 静枝
 橋本美恵子 林 杏奈
 堀内 緑 安井 洋子
 安田 由実 矢野 智美
 山下真知代 山本 康二
 山本 種子 横井 葉子
 石原千都子 板倉 里美
 伊藤 幸代 井野 供
 蟹江 洋子 北澤 真季
 小松 柏翠 都築 強介
 日高 橋子 本田 萌春
 松本 滂奈 皆川 光

奨励賞

相松 正美 青山 正人
 石樽 雅舟 磯村 育治
 板倉 智美 上村 将生
 榎並 勝彦 太田 累淪
 海保 翠芳 加藤 大輝
 加藤 頼子 河合 邦雲
 清井富比古 工藤 芳悦
 倉内 琴美 倉内 真理
 小池 清子 倉内 有希
 子安 一徳 佐々 章
 佐々木清香 佐藤 敬顕
 白井 豊子 杉浦 生恵
 鈴木 安正 鈴木 悠里
 坪井 重夫 中村 紀久
 中村 康信 羽柴 裕子
 服部 麦円 平原 歩
 前川 泰二 牧野 常典
 増井 茂 光輪 茂夫
 宮田 基次 宮部政代美
 室 静代 渡邊紗智子
 青木 和馨 石原 久義
 今井 徳弥 太田 柳一
 小本曾郁芳 粕川 真人
 川原田一雄 永田 正毅
 中野 麦愛 藤井 苔山
 古田富美子 増田 穂光
 松本 正美 森本 隆司
 藪内 利春 山内 昂波

佳作

第五部(篆刻・刻字)
 二科賞
 浅野 政男 白井 和舟
 榎本 翠峰 小松 象神
 篠田 仰信 島田 英明
 平林 和香 吉田 繁廣

中日書道展 事務局業務

	担当部	作業
1	総務部	遺作出品依頼
2	庶務部	審査員等辞令交付
		審査依頼
		来賓招待
3	企画部	特別展
4	80周年記念事業担当部	展覧会場での記念イベント全般
5	第1・第2 経 理 部	審査時昼食手配
		展覧会関係経理
6	第1・第2 会 員 部	各部補助
7	第1・第2 事 業 部	展覧会要項・事務分掌・出品票等作成
		中日展運営委員会
		審査会・展覧会会場使用打ち合せ・次年度申し込み
		審査会・展覧会会場設営（展示パネル・看板等）
		中日展反省会
		その他展覧会関係作業
8	研 究 部	各部補助
9	教 育 部	各部補助
10	褒 賞 部	賞品賞状準備・揮毫・袋詰
		授賞式
11	渉外宣伝部	後援・共催申請
		ポスター・案内状作成
		出品要項等発送（他部とも連携）
		新聞広告原稿
12	記録統計部	写真撮影・記録（会場風景など）
		審査員写真撮影
		受賞作品撮影
		受賞者写真撮影
13	編 集 部	展覧会原稿依頼・編集
		評論文依頼・編集
14	厚 生 部	祝賀会
15	I T 部	書類搬入集計
		地域版掲載データ作成
		入賞作品CD-ROM等作成
		展覧会データ作成

事務分掌記載部業務

書類搬入整理	入賞通知
	入賞目録作成

協 賛 会 員 一 覧

	〒	住 所	T E L
浅井 梧竹堂	452-0823	名古屋市西区あし原町68-1	052-504-2703
(株) 荒川印刷	460-0012	名古屋市中区千代田2-16-38	052-262-1006
石黒五雲堂	453-0834	名古屋市中村区豊国通4-46	052-412-7862
(株) 一休園	731-4221	広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44	082-854-0019
伊藤大林堂	465-0041	名古屋市名東区朝日ヶ丘63	052-776-1881
印刷屋九二八(株)	497-0011	あま市七宝町安松13-9-1	052-443-1190
ウサミ印刷(株)	451-0066	名古屋市西区児玉1-10-7	052-522-2361
永楽堂	445-0854	西尾市永楽町4-10	0563-54-2053
(有) 應天堂	501-1172	岐阜市下鶴飼1468	058-239-5200
(有) 岡本頌文堂	510-0081	三重県四日市市北町3-4	059-352-6010
魁盛堂(株)	451-0063	名古屋市西区押切2-2-13	052-521-3211
開明株式会社	336-0931	さいたま市緑区原山2-22-20	048-882-1091
加藤長寿堂	453-0801	名古屋市中村区太閤1-16-23	052-452-4751
(有) 伽藍	460-0011	名古屋市中区大須3-8-10	052-242-7741
(株) 川口春霞堂	497-0012	あま市七宝町下田四反割2	052-444-8024
(有) 菊屋商店	460-0007	名古屋市中区新栄2-1-46	052-241-1145
(有) 吸月堂	462-0844	名古屋市北区清水2-2-2	052-931-6948
(株) 玉蘭堂	150-0002	東京都渋谷区渋谷1-12-11 渋谷百瀬ビル5F	03-3499-4886
(株) 金工堂	460-0003	名古屋市中区錦3-16-22	052-961-0151
金陽堂表具店	471-0076	豊田市久保町3-27-1	0565-32-0863
(有) 高誠堂	440-0804	豊橋市呉服町44	0532-52-5514
光文堂(株)	461-0005	名古屋市東区東桜1-3-28	052-961-6866
(株) 呉竹	630-8670	奈良市南京終町7-576	0742-50-2050
小松表具店	485-0831	小牧市東2-544	0568-75-0281
(株) 柴田紙店	491-0859	一宮市本町3-9-18	0586-72-2001
(株) 四宝堂	444-0864	岡崎市明大寺町菩提門13-21	0564-51-2671
(株) 勝榮堂	630-8113	奈良市法蓮町1161	0742-23-3005
(有) 真清社	460-0007	名古屋市中区新栄1-47-5	052-241-8085
(有) 新泉堂	462-0006	名古屋市北区若鶴町344-1	052-901-0514
(株) 青雲堂	446-0008	安城市今本町3-1-15	0566-98-2233
(株) 青柳堂	460-0008	名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F	052-259-0313
創源工房	458-0034	名古屋市緑区若田3-106	052-629-5035
(有) 荘文堂	478-0017	知多市新知宝泉坊30-1	0562-55-0517
(株) 大玄堂	500-8289	岐阜市須賀1-8-25	058-271-2662
大同印刷(株)	501-6241	羽島市竹鼻町3214	0583-92-2345
(株) 大林堂	460-0008	名古屋市中区栄3-27-15	052-261-4846
(株) サンライズ	470-0131	日進市岩崎町神明158-16	0561-41-8332
(株) 長楽斎筆舗	460-0007	名古屋市中区新栄3-18-24	052-263-4554
名古屋キョー和	460-0008	名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F	052-263-9401
名古屋ハウコドウ	462-0828	名古屋市北区東水切町2-28-8	052-915-1798
西川堂森表具店	491-0859	一宮市本町4-23-11	0586-72-3629
美創堂	486-0831	春日井市ことぶき町8-1	0568-81-9236
平野筆墨堂(株)	463-0021	名古屋市守山区大森1-2701	052-798-6651
株式会社ベスト企画	453-0015	名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング8F	052-453-2022
(株) 墨運堂	630-8043	奈良市六条1-5-35	0742-52-0310
松屋紙店	475-0866	半田市清水北町63	0569-21-2572

八十周年記念

第六十四回中日書道展を終えて

第一事業部長 伊藤 仙游

第六十四回中日書道展入場者数

一三、三〇一名
愛知県美術館ギャラリー 七、二一四名
市民ギャラリー栄 八一一名
名古屋博物館(一科) 二、四五三名
同(二科) 二、八二三名

第六十四回中日書道展は、中日書道会創立八十周年の記念展として開催され、皆様

方の多大なご協力によって盛大に、また八十周年記念事業とも関連して開催する事が出来ました。各指導者の先生方はじめご出品下さった大勢の会員の皆様、ご協力下さる協賛会員の皆様方に心より御礼申し上げます。

《書類搬入、裏打作品搬入》

四月十八日の書類搬入、五月九日の裏打作品搬入ともに、協賛会員の皆様・委員の先生の献身的なご活躍により、(本年度は二科審作品も記念賞のため作品搬入が必要でしたが)、四千点余りの作業がより早くよりスムーズに終了する事が出来ました。

《二科審査・一科審査・特別賞選考》

二科・一科審査・特別賞選考共に作品に対する審査員・選考委員の真摯な姿勢が貫

かれ、厳正公正な審査が行われました。

《名古屋市民ギャラリー栄》

本年度は一部(漢字)無鑑査の中日賞・桜花賞を除く約三百点が展示され、入賞作に勝るとも劣らぬ迫力に、観覧者も感嘆の声をあげておられました。

《愛知県美術館ギャラリー》

中日書道会の中核を担う全役員が作品一、八九二点(一部無鑑査を除く)が集結する本会場は、日本及び中部の書壇を代表する作家や、新進気鋭の作家の方々ばかりで、書作家として今後の指針となる作品など見応えがあり、来場された書道愛好家の方々も熱心に作品に見入っておられました。八十八歳・九十歳・九十五歳以上の方々の顕彰する壽出品も大変好評でした。

本年度は八十周年記念事業の一環として、五月二十五日オアシスでのイベント、「あなたも書家気分」で来場者が揮毫した半紙判色紙作品二百点を、色紙掛けに入れて陳列致しました。スケートの安藤美姫選手の商品も展示され、ほほえましい小さなお子様からご高齢の方まで、様々な言葉や表現が楽しく、筆で書くことの楽しさを再発見致しました。

また、六月十四日(土)には、漢字・仮名・近代詩文・少字数・篆刻を代表する十名の先生による席上揮毫が、中日書道展では初めて行われ、来場者の方も作家それぞれの揮毫する姿に感嘆の声を漏らしておられました。

この市ギヤラ・県美の役員展二会場で、八千名を越える皆様にご来場いただきました。心から感謝申し上げます。

《名古屋博物館三階ギャラリー》

一科展・六月十七日～二十一日は一、〇三七点の展示(昨年比四十九点減)、入場者二、四五三名、十六平方尺以内の大きな作品で、上位入賞者から入選まで全作品が陳列され、次第に練度が高まる様子がよく判ります。

二科展・六月二十五日～二十九日は一、三二五点の展示(昨年比七点減)、入場者二、八二三名、このうち五〇八名が若年層(十五歳～二十一歳)で二科賞受賞者も多くあり、今後ますます研鑽を積み、中日書道会の中心的役割を果たされんことを大いに期待します。

本展の開催に当たりましては、役員諸先生方の多大なご努力とご協力を頂き、心より御礼申し上げます。また搬入陳列・搬出等の作業には、取扱業者の皆様の絶大なご尽力を戴き深く感謝申し上げます。

《第六十四回中日書道展反省会》

次第に夏らしさを感じさせる七月十三日(日)名鉄ニューグランドホテルに於いて午後五時半より、第六十四回中日書道展反省

会が開催されました。毎年中日書道展終了後、次年度に向けてそれぞれ反省事項をご提出頂き、(企画委員会でも討議いたしましたが)より多くの皆様のご意見、ご討議を頂くため開催しております。本年度は樽本樹邨、安藤滴水両名誉副会長、鬼頭翔雲理事長をはじめ五十一名のご参加を頂きました。

副理事長兼事務局長伊藤昌石先生の進行により開会、理事長鬼頭翔雲先生より「中日書道展、また八十周年記念イベントでは皆様の大きなご協力を頂き、無事終了する事が出来ました。心より感謝致します。今後の中日展のために皆様の様々なご意見ご要望を伺いたい。」旨のご挨拶を頂きました。

その後伊藤仙游第一事業部長より反省事項の説明があり、どの作業も次第に改良されスムーズに進んだ事、データの早期作成について検討する事、より多くの取扱店の方からご意見を伺えるようにする、旨の説明がありました。今後企画委員会などで、より深い検討を重ねて参ります。

この後名誉副会長安藤滴水先生より「八十周年記念事業、中日書道展、授賞式、総会、祝賀懇談会と皆様のご協力により滞り無く終わりました。これからは慰労会でもあります。楽しみましょう」と乾杯のご発声を頂き懇談会、和やかな雰囲気となりました。

あちこちで談笑が広がり楽しい時を過ぎた後、常任顧問黒田玄夏先生のご挨拶により、閉会の時を迎えました。

平成二十六年 公益社団法人 中部日本書道会

総会 議案書

日時 平成二十六年六月十五日(日)・場所 ウェスティンナゴヤキャッスル

第一号議案 平成二十五年度事業報告に関する件

平成二十五年 事業報告

第一 書道普及振興事業(公益目的事業1) 1 展覧会事業

(1) 第六十三回中日書道展

会場及び期間

愛知県美術館

平成二十五年六月十二日(水)～六月十六日(日)

名古屋市民ギャラリー栄

平成二十五年六月十一日(火)～六月十六日(日)

電気文化会館 東・西ギャラリー

平成二十五年六月十一日(火)～六月十六日(日)

名古屋博物館

平成二十五年六月十八日(火)～六月三十日(日)

出品点数 四、五一四点

内訳 第一部(漢字)二、八一四点

第二部(かな)五二四点

第三部(近代詩文書)七二二点

第四部(少字数)一九一点

第五部(篆刻・刻字)二二四点

(2) 第六十四回中日書きぞめ展

会場 期 平成二十六年三月二十二日(土)～二十三日(日)

会場 ナディアパーク アトリウム

出品点数 一六、五三一点

(3) 中日支部書道展

① 第二十八回濃飛支部展

会場 期 平成二十五年七月二十六日(金)～二十八日(日)

会場 中津川市にぎわいプラザ

出品点数 五〇点

② 第二十七回北勢支部展

会場 期 平成二十五年七月二十六日(金)～二十八日(日)

会場 四日市市文化会館

出品点数 八五点

(4) 中日支部学生書道展

① 第四十二回一宮支部学生書道展

会場 期 平成二十五年十一月二十三日(土)～二十四日(日)

会場 一宮スポーツセンター

出品点数 四〇一点

② 第四十九回半田支部学生展

会場 期 平成二十五年八月十日(土)～十一日(日)

会場 半田市福祉文化会館

出品点数 二、五二八点

③ 第四十六回西三河記念学生書道展

会場 期 平成二十五年七月五日(金)～七日(日)

会場 岡崎市美術館

出品点数 五、九二一点

2 公開講座事業

第十七回公開講座

日時 平成二十五年十一月二十三日(土・祝)

会場 電気文化会館 イベントホール

受講者 一七五名

テーマ 「筆の話」

講師 豊橋筆振興協同組合理事長 杉浦 良雄 先生

豊橋筆伝統工芸士 杉浦 美充 先生

テーマ 「良寛——その魅力——」

講師 顧問 武山 翠屋 先生

3 講演会、講習会、研究会事業

(1) 第二十五回書道教育研修会(美技講習会)

日時 平成二十五年十月十四日(祝・月)

会場 名古屋国際センター

参加者 一〇〇名

内容 書道講話

A 「近代詩文書——詩文書を楽しむ——」

A 「漢字——「張猛龍碑」を学ぶ——」

B 「かな——日比野五鳳先生の書——」

福島 有何 先生

(2) 講演会

① 一宮支部

平成二十六年三月二日(日)

一宮スポーツ文化センター

演題 「古文書」はじめの一步

地方文書にみる庶民のくらし

講師 木戸 竹葉 先生

参加者 一七九名

② 半田支部

設立五十周年記念講演

平成二十五年十月六日(日) アイプラザ半田

演題 「半田の能書家」

講師 半田市文化協会会長・元半田市博物館学芸員

参加者 九〇名

平成二十六年三月十六日(日) 半田市文化会館

演題 「篆書の魅力」

講師 関根 玉振 先生

参加者 一二七名

③ 西三河支部

平成二十六年二月二十二日(土) 岡崎市商工会議所

演題 「念ずれば花開く——ミヤンマーに学校を建設——」

講師 松井 幸彦 先生

参加者 一二四名

④ 濃飛支部

平成二十五年七月二十八日(日)

中津川市にぎわいプラザ

演題 「郷土の先賢に学ぶ」

講師 松永 清石 先生

参加者 二七名

⑤ 岐阜支部

平成二十五年五月二十六日(日) 岐阜会館

演題 「本願寺三十六人家集の世界」

講師 徳川美術館副館長 四辻 秀紀 先生

参加者 六七名

福祉事業(公益目的事業2)

二〇一三年チャリティー愛の募金

——しあわせ薄い人々に愛の手を——

寄託 中日新聞社社会事業団へ二〇〇万円

東海テレビ福祉文化事業団へ一〇〇万円

B 「篆刻——篆刻を楽しむ——」

丹羽 常見 先生

第三 その他の事業(相互扶助事業)

- 1 書道に関する調査研究および発表
調査研究及び発表
- 2 書道教育者養成及び普及事業
書道教育者の推薦制度 五件
外国研修旅行補助 三件
- 3 展覧会事業
第二十二回寿書展

- (1) 会 期 平成二十五年十一月二十六日(火)～十二月一日(日)
- 会 場 電気文化会館
- 出品点数 二〇二点

- (2) 中日支部展・支部選抜展
- ① 一宮支部
第五十九回一宮支部書道展

- 会 期 平成二十五年十一月二十三日(土)～二十四日(日)
- 会 場 一宮市スポーツセンター
- 出品点数 二二八点

- ② 半田支部
第四十七回半田支部展

- 会 期 平成二十五年八月三十一日(土)～九月一日(日)
- 会 場 半田市福祉文化会館
- 出品点数 一四〇点

- ③ 西三河支部
第四十六回西三河支部会員展

- 会 期 平成二十六年二月十九日(水)～二十三日(日)
- 会 場 岡崎市美術館
- 出品点数 二〇八点

- ④ 東三河支部
第三十七回東三河支部展

- 会 期 平成二十五年七月十六日(火)～二十一日(日)
- 会 場 豊橋市美術博物館
- 出品点数 一三二点

- ⑤ 東三河支部選抜展

- 会 期 平成二十六年二月十三日(木)～十六日(日)
- 会 場 豊橋美術博物館
- 出品点数 六一一点

- ⑥ 中南勢支部
第二十八回中南勢支部展

- 会 期 平成二十六年一月三十日(木)～二月二日(日)
- 会 場 三重県立美術館(県民ギャラリー)
- 出品点数 九〇点

- ⑦ 岐阜支部
第二十回岐阜支部会員展

- 会 期 平成二十五年九月十一日(水)～十四日(土)

4 講習会・講演会・研究会・研修会事業

- (1) 講習会
① 東三河支部
平成二十五年十月二十七日(日) 伊賀上野市
内 容 「くみひも体験」
参加者 四一名
- ② 北勢支部
平成二十六年二月十六日(日) じばさん三重
内 容 「墨の話」
講 師 墨運堂社長 松井 茂浩氏
参加者 七一名

- (2) 講演会
① 本部
平成二十六年二月十一日(火・祝) 名古屋観光ホテル
演 題 「超高齢社会を楽しく生きるために」
講 師 三重大学学長 内田 淳正 先生
参加者 四〇三名
- ② 東三河支部
平成二十五年七月二十一日(土) ウエステージ豊橋
演 題 「いまの若者は内向きか」
講 師 愛知大学学長 佐藤 元彦 先生
参加者 九〇名
- ③ 北勢支部
平成二十五年七月二十八日(日) 四日市市文化会館
演 題 「王義之への道程」
講 師 京都教育大学名誉教授 杉村 邦彦 先生
参加者 八一名
- ④ 中南勢支部
平成二十五年十一月三日(日・祝)
演 題 「高齢社会を生き生きと過す為に」
講 師 藤田保健衛生大学医学部 田中 邦子 先生
参加者 三二名

- (3) 研究会
① 半田支部
平成二十五年四月十四日(日) 半田市福祉文化会館
中日書道展 作品研究会
参加者 六七名
- ② 西三河支部
平成二十五年三月三十一日(日) 安城市文化センター
中日書道展 作品研究会
参加者 一三〇名

- (4) 研修会

5 福利厚生事業

- (1) 塾総合保険
五九件 二、三二八名
- (2) 会員交流会
会員交流ボーリング大会
平成二十五年十二月八日(日) 星ヶ丘ボウル

- ① 本部(史跡探訪研修旅行)
平成二十五年八月十八日(日)～十九日(月)
「奈良市杉岡華邨書道美術館」「大和文華館」「天橋立」他
参加者 一四一名
- ② 一宮支部
平成二十五年十月二十七日(日)
飛騨路の旅 光記念館・高山散策
参加者 八二名
- ③ 半田支部
平成二十五年十一月二日(土)～三日(日)
新潟美術館・良寛の里・會津八一記念館・驥山館
参加者 三六名
- ④ 西三河支部
平成二十五年十月二十九日(火)
小野小町ゆかりに寺随心院を訪ねて
参加者 三八名
- ⑤ 東三河支部
平成二十五年十月二十七日(日) 伊賀上野市
くみひも体験
参加者 四一名
- ⑥ 濃飛支部
平成二十五年十一月二十四日(日)
大垣城・大垣市郷土館・奥の細道結びの地記念館・
岐阜県美術館
参加者 二三名
- ⑦ 北勢支部
平成二十五年十一月十日(日)
豊橋筆工房(筆作り体験)・豊田左吉記念館他
参加者 三七名
- ⑧ 中南勢支部
平成二十五年十月六日(日)
信楽(絵付け体験)・近江八幡
参加者 四八名
- ⑨ 岐阜支部
平成二十五年十一月二十九日(金)
諏訪サンリツ服部美術館・諏訪大社・下社・
下諏訪食祭館
参加者 三八名

6 参加者 七二名
老人会色紙贈呈

11 水谷苔径 篠田一鳳 永治秋聲
福祉事業
寄託 一宮支部より一宮市社会福祉協議会へ 一〇万円
半田支部より半田市社会福祉協議会へ 一〇万円
西三河支部より西尾市立白ばら学園へ 一〇万円
東三河支部より中日新聞豊橋総局へ 一〇万円
濃飛支部より中津川社会福祉協議会へ 五万円
下呂市社会福祉協議会へ 五万円
北勢支部より中日新聞四日市支局へ 一〇万円
中南勢支部より 財団法人三重ボランティア基金へ 一〇万円
岐阜支部より 岐阜市役所(元気なぎふ応援基金)へ 一〇万円

7 組織拡大事業

・会員増、各種展覧会出品者増の促進を図った。
・会員章(門章・襟章)の交付
・会員名簿の発行

8 広報活動事業

(1) 中日会報

一六八号 平成二十五年四月一日付け発行
一六九号 平成二十五年七月一日付け発行
一七〇号 平成二十五年十月一日付け発行
一七一号 平成二十六年一月一日付け発行
支部会報
① 一宮支部 平成二十五年六月一日付け発行
② 半田支部 平成二十五年四月十日付け発行
六十九号 平成二十五年四月十日付け発行
七十号 平成二十五年十月十日付け発行
③ 西三河支部 平成二十五年六月一日付け発行
六十五号 平成二十五年六月一日付け発行
六十六号 平成二十五年十二月一日付け発行
④ 東三河支部 平成二十五年十月一日付け発行
六十四号 平成二十五年十月一日付け発行
⑤ 濃飛支部 平成二十六年二月一日付け発行
三号 北勢支部 平成二十六年三月二十日付け発行
⑦ 岐阜支部 平成二十五年七月二十八日付け発行
四十一号 平成二十六年二月二十一日付け発行
四十二号 随時更新
⑨ ホームページ
資料文献収集保存事業
継続中
⑩ 書道功労者等顕彰事業
表彰期日 平成二十五年六月十六日(日)
会 場 ウェスティンナゴヤキャッスル
平成二十五年功労者として、次の三氏に表彰状を贈呈した。

第四 管理業務

1 総会
平成二十五年六月十六日(日)
ウェスティンナゴヤキャッスルにて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案 平成二十四年度事業報告書の承認に関する件
第二号議案 平成二十四年度収支決算書の承認に関する件
第三号議案 財産目録の承認に関する件
第四号議案 役員選任に関する件

3

平成二十六年二月十一日(火・祝)
名古屋観光ホテルにて開催
次の事項について報告をした。
(1) 平成二十六年度事業計画書について
(2) 平成二十六年度収支予算書について
(3) 正会員・審査会員の承認に関する件
評議員会

2 理事会

第一回理事会
平成二十五年五月十九日(日) 本部にて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案 平成二四年度事業報告書の承認に関する件
第二号議案 平成二四年度収支決算書の承認に関する件
第三号議案 財産目録の承認に関する件
第四号議案 役員選任に関する件

4

企画委員会
第一回企画委員会
平成二四年四月七日(日) キャッスルプラザ
第二回企画委員会
平成二五年五月十九日(日) 本部
第三回企画委員会
平成二五年六月十六日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル
第四回企画委員会
平成二五年七月十五日(日) 名鉄ニューグランドホテル
第五回企画委員会
平成二五年九月二十二日(日) 本部
第六回企画委員会
平成二五年十月十四日(日) 本部
第七回企画委員会
平成二五年十一月三十日(日) 中日パレス
第八回企画委員会
平成二五年十二月二十二日(日) 本部
第九回企画委員会
平成二六年二月十一日(火・祝) 名古屋観光ホテル
第十回企画委員会
平成二六年三月二十二日(日) 本部

10 書道功労者等顕彰事業
表彰期日 平成二十五年六月十六日(日)
会 場 ウェスティンナゴヤキャッスル
平成二十五年功労者として、次の三氏に表彰状を贈呈した。

第二回理事会
平成二十五年六月十六日(日)
ウェスティンナゴヤキャッスルにて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案 役員選任に関する件
第三回理事会
平成二十五年六月十六日(日)
ウェスティンナゴヤキャッスルにて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案 理事長・副理事長の選出に関する件
第四回理事会
平成二十五年七月十五日(月・祝)

(10) 平成二十六年三月二十二日(日) 本部
(9) 平成二六年二月十一日(火・祝) 名古屋観光ホテル
(8) 平成二五年十二月二十二日(日) 本部
(7) 平成二五年十一月三十日(日) 中日パレス
(6) 平成二五年九月二十二日(日) 本部
(5) 平成二五年七月十五日(日) 名鉄ニューグランドホテル
(4) 平成二五年六月十六日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル
(3) 平成二五年五月十九日(日) 本部
(2) 平成二五年四月七日(日) キャッスルプラザ
(1) 平成二四年四月七日(日) 本部

第2号議案 平成25年度収支報告に関する件

平成25年度 収支計算書

(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

科目	決算額 (A) 円	予算額 (B) 円	差異(A)-(B) 円	説明	備考
1 事業活動収支の部					
1 基本財産運用収入	9,000	7,500	1,500		
② 特定資産運用収入	21,872	21,500	372		
③ 会費収入	12,309,000	11,990,000	319,000	評議員以上11,000円×1119名 正会員7000円×2582名 準会員5000円×398名 協賛会員2500円×45件 年会費283円×3件	
1 正会員会費	18,074,000	18,900,000	△826,000		
2 正会員会費	2,990,000	3,730,000	△740,000		
3 準会員会費	1,123,000	1,150,000	△27,000		
5 未収会費	38,938,000	0	38,938,000		
④ 事業収入	623,000	750,000	△127,000	3000円×185点、4000円×17点	
1 事業収入	4,075,000	4,459,000	△384,000		
2 特定資産収入	5,585,065	5,755,000	△169,935		
3 普通預金受取利息	4,453,000	6,000,000	△1,547,000		
4 普通預金受取利息	3,310,100	2,219,000	1,091,100		
5 普通預金受取利息	125,000	1,600,000	△1,475,000		
6 普通預金受取利息	294,830	350,000	△55,170		
7 普通預金受取利息	228,000	300,000	△72,000		
8 普通預金受取利息	228,000	300,000	△72,000		
9 普通預金受取利息	284,000	240,000	44,000		
10 普通預金受取利息	57,000	75,000	△18,000		
11 普通預金受取利息	48,238,200	49,280,000	△1,041,800	中日展収入内計参照 400円×約16000点(整理費差引)	
12 普通預金受取利息	6,043,480	5,820,000	219,480		
13 普通預金受取利息	4,503,000	4,500,000	3,000		
14 普通預金受取利息	16,203,000	15,800,000	403,000		
15 普通預金受取利息	2,881,000	3,140,000	△259,000		
16 普通預金受取利息	92,903,675	93,552,000	△648,325		
17 普通預金受取利息	72,000	0	72,000		
⑤ 寄附金収入	72,000	0	72,000		
1 寄附金収入	3,230	1,500	1,730	30000円×33件	
2 寄附金収入	990,000	900,000	90,000		
3 寄附金収入	315,195	350,000	△34,805	一宮市芸術文化協会交付金 祝儀、協賛費等	
4 寄附金収入	96,000	0	96,000		
5 寄附金収入	608,762	678,762	△70,000		
⑥ 雑収入	2,013,187	1,341,500	671,687		
1 雑収入	133,458,734	130,712,500	2,746,234		
2 雑収入					
3 雑収入					
4 雑収入					
5 雑収入					
6 雑収入					
7 雑収入					
8 雑収入					
9 雑収入					
10 雑収入					
11 雑収入					
12 雑収入					
13 雑収入					
14 雑収入					
15 雑収入					
16 雑収入					
17 雑収入					
2 事業活動支出	1,520,847	840,000	680,847	支部事業費含む	
1 事業活動支出	791,225	1,015,000	△223,775	中日展・寿展受付等 各種謝礼 賞品代、記念品代 作業時交通費、タクシー・バス等 作業時食糧費等	
2 事業活動支出	1,083,664	1,005,000	78,664		
3 事業活動支出	8,718,691	8,170,000	548,691		
4 事業活動支出	261,842	173,000	88,842		
5 事業活動支出	10,821,066	8,418,000	2,403,066		
6 事業活動支出	6,823,715	8,085,700	△1,261,985		
7 事業活動支出	6,283,914	708,000	5,575,914		
8 事業活動支出	9,802,864	10,008,000	△195,136		
9 事業活動支出	12,600	82,000	△70,400		
10 事業活動支出	1,166,729	4,206,000	△3,039,271		
11 事業活動支出	4,689,134	10,692,900	△6,003,766		
12 事業活動支出	8,933,983	2,706,200	6,227,783		
13 事業活動支出	0	2,702,000	△2,702,000		
14 事業活動支出	0	1,000,000	△1,000,000		
15 事業活動支出	380,000	300,000	80,000		
16 事業活動支出	1,063,521	3,467,000	△2,403,479		
17 事業活動支出	3,870,000	3,860,000	10,000		
18 事業活動支出	60,000	100,000	△40,000		
19 事業活動支出	309,600	500,000	△190,400		
20 事業活動支出	16,111,479	15,800,000	311,479		
21 事業活動支出	2,584,124	3,296,000	△711,876		
22 事業活動支出	7,254,000	0	7,254,000		
23 事業活動支出	2,124,688	0	2,124,688		
24 事業活動支出	332,069	0	332,069		
25 事業活動支出	0	0	0		
26 事業活動支出	2,164,493	0	2,164,493		
27 事業活動支出	57,429,248	90,796,000	△33,366,752		
合計	133,458,734	130,712,500	2,746,234		

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1 謝礼金	88,334	123,970	66,462		63,325	190,751	142,136	53,685	730,663
2 講習会費						69,098			69,098
3 研究会費		63,068	140,009						203,077
4 支部研修費	763,655	1,153,344	331,545	262,870	172,821	287,837	414,152	338,062	3,746,286
5 支部運営費	1,769,361	1,390,961	2,846,307	204,808				393,505	598,313
6 支部学生展費	297,849	314,395	1,320,033				116,777		6,006,629
7 支部展費		119,010							119,010
8 倉庫費									380,800
9 普通振替事業費	380,840								380,840
10 周年記念事業費		1,626,905							1,626,905
11 支部祝賀会費	902,000	499,490	60,000		264,518	160,000	325,502	374,614	2,598,124
事業費計	4,202,039	5,293,143	4,784,336	1,386,751	617,441	829,376	1,126,281	1,161,866	19,401,253
1 支部事務所費	930,981	489,981	1,180,385	278,567	153,211	178,480	252,360	1,081,951	4,545,759
合計	5,132,863	5,783,124	5,964,741	1,665,318	770,652	1,007,856	1,378,644	2,243,817	23,947,012

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1 特定資産運用収入		644	72,000			26			670
2 受取寄付金			180			21			72,000
3 普通預金受取利息	262	137	4,860						57
4 雑収入(銀行手帳収入)									4,860
5 負担金収入	96,000								96,000
6 雑収入	96,262	595,781	77,040			10,000			605,000
合計	0	400,000	0	0	0	0	0	0	400,000

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1 支部展収入	681,000	593,000	1,284,000	868,000	155,000	178,000	316,000		4,075,000
2 支部学生展収入	1,498,640	1,269,000	2,817,425						5,585,065
3 支部運営収入				228,000					225,000
4 支部研修会収入	756,000	1,008,000	342,000	213,000	171,000	294,100	336,000	190,000	3,310,100
5 支部講習会収入									0
6 支部祝賀会収入	892,000	928,000	60,000		262,000	160,000	309,000	270,000	2,881,000
合計	3,827,640	3,798,000	4,503,425	1,309,000	588,000	632,100	961,000	685,000	16,304,165

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
1 評議員以上会費	325,500	108,500	294,000	108,500	38,500	119,000	66,500	437,500	1,498,000
2 正会員会費	749,000	378,000	791,000	259,000	38,500	220,500	203,000	861,000	3,500,000
3 準会員会費	1,750,000	1,320,500	207,500	127,500	62,500	55,000	25,000	95,000	880,000
合計	1,249,500	619,000	1,292,500	495,000	139,500	394,500	294,500	1,393,500	5,878,000

支部別内訳	一宮	半田	西三河	東三河	濃飛	北勢	中南勢	岐阜	合計
記念事業積立	50,000								80,026
本部へ通約									0
本部より返金									0
預り金									0
前受金									0
前期末繰越	396,928	444,183	248,962	171,346	57,693	39,239	196,623	575,919	2,130,893
次期繰越	387,467	73,840	157,186	310,028	14,562	37,983	73,482	410,659	1,465,207

科目	決算額 (A)	予算額 (B)	差異(A)-(B)	説 明
② 支 出				
1 支 部 事 務 所 費 用 含 む	2,124,011	1,575,000	549,011	
2 報 告 書 費	225,899	250,000	△24,101	
3 報 告 書 費	103,780	100,000	3,780	
4 報 告 書 費	334,112	400,000	△65,888	
5 報 告 書 費	5,085,760	4,227,000	△402,240	
6 報 告 書 費	4,227,000	0	4,227,000	
7 報 告 書 費	426,500	0	426,500	
8 報 告 書 費	140,531	200,000	△59,469	
9 報 告 書 費	1,475,351	1,475,000	351	
10 報 告 書 費	771,121	789,000	△17,879	
11 報 告 書 費	3,417,693	68,000	△3,349,693	
12 報 告 書 費	1,503,863	1,855,000	△351,137	
13 報 告 書 費	1,761,291	3,171,000	△1,409,709	
14 報 告 書 費	597,200	597,000	200	
15 報 告 書 費	9,229,332	9,478,000	△248,668	
16 報 告 書 費	3,424,634	605,000	△2,819,634	
17 報 告 書 費	4,324,271	3,130,000	△1,194,271	
18 報 告 書 費	585,405	22,474	△562,931	
19 報 告 書 費	6,476,786	540,000	△5,936,786	
20 報 告 書 費	1,947,730	6,400,000	△4,452,270	
21 報 告 書 費	24,300	983,000	△958,700	
22 報 告 書 費	24,300	0	24,300	
23 報 告 書 費	270,922	50,000	△220,922	
24 報 告 書 費	54,705	226,000	△171,295	
25 報 告 書 費	50,000	290,000	△240,000	
26 報 告 書 費	18,000	50,000	△32,000	
27 報 告 書 費	1,040,983	0	1,040,983	
28 報 告 書 費	337,000	960,000	△623,000	
29 報 告 書 費	2,021,050	0	2,021,050	
30 報 告 書 費	39,600	0	39,600	
31 報 告 書 費	0	0	0	
32 報 告 書 費	0	0	0	
33 報 告 書 費	0	0	0	
① 支 出				
1 支 出	43,775,753	40,298,474	3,477,279	
2 支 出	131,205,001	131,094,474	110,527	
3 支 出	2,253,733	-381,974	2,635,707	
4 支 出	0	0	0	
5 支 出	0	0	0	
6 支 出	0	0	0	
7 支 出	0	0	0	
8 支 出	0	0	0	
9 支 出	0	0	0	
10 支 出	0	0	0	
11 支 出	0	0	0	
12 支 出	0	0	0	
13 支 出	0	0	0	
14 支 出	0	0	0	
15 支 出	0	0	0	
16 支 出	0	0	0	
17 支 出	0	0	0	
18 支 出	0	0	0	
19 支 出	0	0	0	
20 支 出	0	0	0	
21 支 出	0	0	0	
22 支 出	0	0	0	
23 支 出	0	0	0	
24 支 出	0	0	0	
25 支 出	0	0	0	
26 支 出	0	0	0	
27 支 出	0	0	0	
28 支 出	0	0	0	
29 支 出	0	0	0	
30 支 出	0	0	0	
31 支 出	0	0	0	
32 支 出	0	0	0	
33 支 出	0	0	0	
① 支 出				
1 支 出	366,000	0	366,000	
2 支 出	200,000	0	200,000	
3 支 出	1,000,000	0	1,000,000	
4 支 出	4,000,000	0	4,000,000	
5 支 出	1,966,000	1,400,000	566,000	
6 支 出	0	0	0	
7 支 出	0	0	0	
8 支 出	0	0	0	
9 支 出	0	0	0	
10 支 出	0	0	0	
11 支 出	0	0	0	
12 支 出	0	0	0	
13 支 出	0	0	0	
14 支 出	0	0	0	
15 支 出	0	0	0	
16 支 出	0	0	0	
17 支 出	0	0	0	
18 支 出	0	0	0	
19 支 出	0	0	0	
20 支 出	0	0	0	
21 支 出	0	0	0	
22 支 出	0	0	0	
23 支 出	0	0	0	
24 支 出	0	0	0	
25 支 出	0	0	0	
26 支 出	0	0	0	
27 支 出	0	0	0	
28 支 出	0	0	0	
29 支 出	0	0	0	
30 支 出	0	0	0	
31 支 出	0	0	0	
32 支 出	0	0	0	
33 支 出	0	0	0	
① 支 出				
1 支 出	400,000	400,000	0	
2 支 出	144,000	144,000	0	
3 支 出	50,000	50,000	0	
4 支 出	80,026	130,000	△49,974	
5 支 出	674,026	724,000	△49,974	
6 支 出	0	0	0	
7 支 出	0	0	0	
8 支 出	0	0	0	
9 支 出	0	0	0	
10 支 出	0	0	0	
11 支 出	0	0	0	
12 支 出	0	0	0	
13 支 出	0	0	0	
14 支 出	0	0	0	
15 支 出	0	0	0	
16 支 出	0	0	0	
17 支 出	0	0	0	
18 支 出	0	0	0	
19 支 出	0	0	0	
20 支 出	0	0	0	
21 支 出	0	0	0	
22 支 出	0	0	0	
23 支 出	0	0	0	
24 支 出	0	0	0	
25 支 出	0	0	0	
26 支 出	0	0	0	
27 支 出	0	0	0	
28 支 出	0	0	0	
29 支 出	0	0	0	
30 支 出	0	0	0	
31 支 出	0	0	0	
32 支 出	0	0	0	
33 支 出	0	0	0	
① 支 出				
1 支 出	674,026	724,000	△49,974	
2 支 出	1,291,974	676,000	△615,974	
3 支 出	0	0	0	
4 支 出	0	0	0	
5 支 出	0	0	0	
6 支 出	0	0	0	
7 支 出	0	0	0	
8 支 出	0	0	0	
9 支 出	0	0	0	
10 支 出	0	0	0	
11 支 出	0	0	0	
12 支 出	0	0	0	
13 支 出	0	0	0	
14 支 出	0	0	0	
15 支 出	0	0	0	
16 支 出	0	0	0	
17 支 出	0	0	0	
18 支 出	0	0	0	
19 支 出	0	0	0	
20 支 出	0	0	0	
21 支 出	0	0	0	
22 支 出	0	0	0	
23 支 出	0	0	0	
24 支 出	0	0	0	
25 支 出	0	0	0	
26 支 出	0	0	0	
27 支 出	0	0	0	
28 支 出	0	0	0	
29 支 出	0	0	0	
30 支 出	0	0	0	
31 支 出	0	0	0	
32 支 出	0	0	0	
33 支 出	0	0	0	
① 支 出				
1 支 出	3,545,707	300,000	△3,245,707	
2 支 出	15,624,834	-5,974	△15,630,808	
3 支 出	19,170,541	8,950,142	△10,220,399	
4 支 出	0	0	0	
5 支 出	0	0	0	
6 支 出	0	0	0	
7 支 出	0	0	0	
8 支 出	0	0	0	
9 支 出	0	0	0	
10 支 出	0	0	0	
11 支 出	0	0	0	
12 支 出	0	0	0	
13 支 出	0	0	0	
14 支 出	0	0	0	
15 支 出	0	0	0	
16 支 出	0	0	0	
17 支 出	0	0	0	
18 支 出	0	0	0	
19 支 出	0	0	0	
20 支 出	0	0	0	
21 支 出	0	0	0	
22 支 出	0	0	0	
23 支 出	0	0	0	
24 支 出	0	0	0	
25 支 出	0	0	0	
26 支 出	0	0	0	
27 支 出	0	0	0	
28 支 出	0	0	0	
29 支 出	0	0	0	
30 支 出	0	0	0	
31 支 出	0	0	0	
32 支 出	0	0	0	
33 支 出	0	0	0	
① 支 出				
1 支 出	0	0	0	
2 支 出	0	0	0	
3 支 出	0	0	0	
4 支 出	0	0	0	
5 支 出	0	0	0	
6 支 出	0	0	0	
7 支 出	0	0	0	
8 支 出	0	0	0	
9 支 出	0	0	0	
10 支 出	0	0	0	
11 支 出	0	0	0	
12 支 出	0	0	0	
13 支 出	0	0	0	
14 支 出	0	0	0	
15 支 出	0	0	0	
16 支 出	0	0	0	
17 支 出	0	0	0	
18 支 出	0	0	0	
19 支 出	0	0	0	
20 支 出	0	0	0	
21 支 出	0	0	0	
22 支 出	0	0	0	
23 支 出	0	0	0	
24 支 出	0	0	0	
25 支 出	0	0	0	
26 支 出	0	0	0	
27 支 出	0	0	0	
28 支 出	0	0	0	
29 支 出	0	0	0	
30 支 出	0	0	0	
31 支 出	0	0	0	
32 支 出	0	0	0	
33 支 出	0	0	0	
① 支 出				
1 支 出	0	0	0	
2 支 出	0	0	0	
3 支 出	0	0	0	
4 支 出	0	0	0	
5 支 出	0	0	0	
6 支 出	0	0	0	
7 支 出	0	0	0	
8 支 出	0	0	0	
9 支 出	0	0	0	
10 支 出	0	0	0	
11 支 出</				

貸 借 対 照 表

平成26年 3 月31日現在

科 目	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
	円	円	円	
I 資産の部				
1. 流動資産				
① 現金預金				
現普通郵便定期預金	2,103,955	1,863,540	240,415	
通郵便定期預金	4,041,311	5,124,544	△ 1,083,233	
振替預金	163,514	84,032	79,482	
現金預金合計	8,636,000	8,736,000	△ 100,000	
② 前払費用	14,944,780	15,808,116	△ 863,336	
前払費用	330,062	0	330,062	
仮払費用	11,340	0	11,340	
前払金合計	341,402	0	341,402	
③ 預り金				
源泉税	1,675	0	1,675	
市県民税	9,000	0	9,000	
社会保険料	77,912	0	77,912	
預り金合計	88,587	0	88,587	
④ 未収金				
未収会費	3,938,000	0	3,938,000	今回から計上
流動資産合計	19,312,769	15,808,116	3,504,653	
2. 固定資産				
① 基本財産				
定期預金	30,000,000	30,000,000	0	
② 特定資産				
定期預金	82,000,000	82,000,000	0	
本部積立金	1,908,000	2,880,000	△ 972,000	
支部積立金	1,410,058	1,730,032	△ 319,974	
特定資産合計	85,318,058	86,610,032	△ 1,291,974	
③ その他固定資産				
備品	10,133	20,265	△ 10,132	
電話加入権	171,533	171,533	0	
保証金	2,952,320	2,952,320	0	桑山ビル分
その他固定資産合計	3,133,986	3,144,118	△ 10,132	
固定資産合計	118,452,044	119,754,150	△ 1,302,106	
資産合計	137,764,813	135,562,266	2,202,547	
II 負債の部				
1. 流動負債				
前受金	135,628	183,282	△ 47,654	
未払金	0	0	0	
流動負債合計	6,600	0	6,600	
2. 固定負債				
流動負債合計	142,228	183,282	△ 41,054	
固定負債合計	0	0	0	
負債合計	142,228	183,282	△ 41,054	
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産	30,000,000	30,000,000	0	
2. 一般正味財産	107,622,585	105,378,984	2,243,601	
正味財産合計	137,622,585	135,378,984	2,243,601	
負債及び正味財産合計	137,764,813	135,562,266	2,202,547	

第 3 号議案 財産目録の承認に関する件

財 産 目 録

平成26年 3 月31日現在

総 資 産 額	円	137,764,813
基 本 財 産		30,000,000
運 用 財 産		107,764,813
負 債		142,228

I 資産の部	円
1. 流動資産	
① 現金預金 (運用資産)	
(1) 現金	
本部 現金	1,413,355
一宮支部 現金	94,861
半田支部 現金	32,048
西三河支部 現金	77,094
東三河支部 現金	307,936
濃飛支部 現金	3,364
北勢支部 現金	33,691
中南勢支部 現金	67,020
岐阜支部 現金	74,586
現金合計	2,103,955
(2) 普通預金	
三菱東京UFJ銀行柳橋支店	807,477

	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店 (理)	47	
	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	74,702	
	大垣共立銀行菊井町支店	2,406,970	
	一宮支部 ゆうちょ銀行	292,606	
	半田支部 知多信用金庫	41,792	
	西三河支部 ゆうちょ銀行	11,142	
	西三河支部 瀬戸信用金庫	62,030	
	濃飛支部 ゆうちょ銀行	10,698	
	北勢支部 ゆうちょ銀行	1,825	
	岐阜支部 関信用金庫	332,022	
	普通預金合計	4,041,311	
(3) 郵便振替	本部 名古屋中央郵便局	141,992	
	一宮支部 郵便振替	0	
	半田支部 郵便振替	0	
	西三河支部 郵便振替	6,920	
	東三河支部 郵便振替	1,122	
	濃飛支部 郵便振替	500	
	北勢支部 郵便振替	2,467	
	中南勢支部 郵便振替	6,462	
	岐阜支部 郵便振替	4,051	
	郵便振替合計	163,514	
(4) 定期預金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	2,636,000	
	大垣共立銀行菊井町支店	6,000,000	
	定期預金合計	8,636,000	
②前払金	前払費用	330,062	テレビモニター DVDほか
	仮払金	11,340	大同印刷
	前払金合計	341,402	
③預け金	源泉税	1,675	過納分
	市県民税	9,000	過納分
	社会保険料	77,912	過納分
	預け金合計	88,587	
④未収金	未収会費	3,938,000	年会費、協賛会費
	流動資産合計	19,312,769	
2. 固定資産			
①基本財産			
(1) 土地	該当なし		
(2) 建物	該当なし		
(3) 基本	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	30,000,000	公益目的保有財産
(4) 有価証券	該当なし		
(5) 機械器具	該当なし		
	基本財産合計	30,000,000	
②特定資産(運用財産)			
(1) 土地	該当なし		
(2) 建物	該当なし		
(3) 特定資産			
定期預金	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	82,000,000	公益目的保有財産
本部積立金			
80周年記念事業積立金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	1,600,000	平成26年用
設備拡充資金積立金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	50,000	
名簿費引当金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	0	
退職給付引当金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	258,000	
支部積立金			
一宮支部60周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	1,000,000	平成26年用
半田支部50周年記念事業積立金	知多信用金庫	0	平成25年用
西三河支部50周年記念事業積立金	西尾信用金庫	0	平成29年用
東三河支部40周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	200,000	平成28年用
濃飛支部30周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	30,000	平成27年用
北勢支部30周年記念事業積立金	百五銀行東員支店	180,058	平成28年用
	特定資産合計	85,318,058	
③その他の固定資産(運用財産)			
(1) 備品	パソコン	1	本部 公益目的保有財産
	プロジェクター	10,132	本部 公益目的保有財産
(2) その他	電話加入権	171,533	公益目的保有財産
	保証金	2,952,320	株式会社桑山 公益目的保有財産
	その他の固定資産合計	3,133,986	
	固定資産合計	118,452,044	
	資産合計	137,764,813	
3. 負債			
	預り金	100,932	1~3月分源泉所得税
		6,600	3月分市県民税
		28,096	3月分社会保険料
	預り金合計	135,628	
	前受金	0	
	未払金	6,600	2月分市県民税
	負債合計	142,228	

正味財産増減計算書

自 平成25年 4 月 1 日
至 平成26年 3 月 31 日

科 目	当 期 (A)	前 期 (B)	増 減 (A) - (B)	説 明
	円	円	円	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	9,000	9,024	△ 24	
② 特定資産運用益	24,872	29,871	△ 4,999	
③ 受取利息	12,309,000	12,023,000	286,000	
評議員受取会費	18,074,000	18,151,000	△ 77,000	
正准協会受取会費	2,990,000	3,335,000	△ 345,000	
協賛会員受取会費	1,125,000	1,125,000	0	
未収会費	3,938,000	0	3,938,000	
④ 事業収入	38,436,000	34,634,000	3,802,000	
寿書展参加料	623,000	661,000	△ 38,000	
支部学展参加料	4,075,000	5,195,000	△ 1,120,000	
支部選抜展参加料	5,585,065	5,739,575	△ 154,510	
支部研修会参加料	453,000	204,000	249,000	
支部講習会参加料	3,310,100	2,247,850	1,062,250	
支部講習会参加料	0	0	0	
書道教育者推薦教室看板料	0	144,000	△ 144,000	
塾総合保険料	125,000	200,000	△ 75,000	
会員交遊参加料	294,830	338,716	△ 43,886	
公開講座参加料	228,000	285,000	△ 57,000	
会道教育研修参加料	284,000	228,000	56,000	
80周年記念事業収入	57,000	45,000	12,000	
中日書き展収入	0	0	0	
愛の募金収入	48,238,200	49,293,700	△ 1,055,500	
支部祝賀会収入	6,043,480	6,204,160	△ 160,680	
支部祝賀会収入	4,503,000	4,573,000	△ 70,000	
支部祝賀会収入	16,203,000	17,100,650	△ 897,650	
事業取寄付金	2,881,000	2,319,000	562,000	
⑤ 受取寄付金	92,903,675	94,778,651	△ 1,874,976	
⑥ 雑収益	72,000	0	72,000	
普通預金受取利息	3,230	3,303	△ 73	
会員名簿広告料収入	990,000	840,000	150,000	
宛ラベル発行数収入	315,195	422,465	△ 107,270	
雑収入	96,000	97,000	△ 1,000	
雑収益	608,762	335,000	273,762	
経常収益計	2,013,187	1,697,768	315,419	
	133,458,734	131,149,314	2,309,420	
(2) 経常費用				
① 事業費				
企画委員を兼務する評議員報酬	1,520,847	840,000	680,847	
臨時雇賃金	791,225	799,996	△ 8,771	
報償謝金	1,083,664	1,374,772	△ 291,108	
報償奨励	8,718,691	7,888,618	830,073	
報償交際	264,842	732,640	△ 467,798	
旅費交通費	10,725,145	7,712,216	3,012,929	
食糧費	6,887,961	7,403,221	△ 515,260	
消耗品費	628,914	670,300	△ 41,386	
印刷製本費	9,862,864	6,959,860	2,903,004	
光熱水費	72,600	72,540	60	
通信運搬費	1,166,729	3,729,638	△ 2,562,909	
通手数料	489,134	10,303,144	△ 9,814,010	
手使費用	8,958,058	10,812,130	△ 1,854,072	
車借上料	0	2,550,321	△ 2,550,321	
消費什器備品費	0	0	0	
負債委託費	380,000	480,000	△ 100,000	
委託託助成	1,063,521	671,815	391,706	
補助支流出	3,870,000	3,900,000	△ 30,000	
雑会費	60,000	80,000	△ 20,000	
雑会費	0	0	0	
本部祝賀会費	309,600	301,475	8,125	
支部祝賀会費	16,111,479	16,944,487	△ 833,008	
支部外広報費	2,584,124	2,645,444	△ 61,320	
会保費	7,254,000	0	7,254,000	
会保費	2,124,688	0	2,124,688	
表開装保書管	336,669	0	336,669	
事業費	0	0	0	
事業費	2,164,493	0	2,164,493	
② 管理費	87,429,248	86,872,617	556,631	
理事監事報酬	2,124,011	1,445,000	679,011	
名誉副会長報酬	225,899	200,000	25,899	
名誉副会長報酬	103,780	60,000	43,780	

学術顧問	334,112	350,000	△ 15,888
生徒退職福利報旅食消印光通手使車消租負委寄補広法什対会新雜	5,085,760	5,266,800	△ 181,040
臨時償償費	427,000	0	427,000
福利厚給職雇賃生	426,500	0	426,500
報謝奨交	140,309	312,019	△ 171,710
報謝奨交	1,574,531	1,137,343	437,188
報謝奨交	91,100	87,905	3,195
報謝奨交	771,121	607,298	163,823
旅費	3,417,693	2,198,546	1,219,147
食糧	1,503,863	2,948,493	△ 1,444,630
消耗品	763,291	959,580	△ 196,289
印刷製本	9,229,332	9,219,885	9,447
光熱水	342,634	364,792	△ 22,158
通信運搬	4,324,271	2,702,849	1,621,422
事務所用賃	585,405	363,282	222,123
車賃	6,476,786	6,503,620	△ 26,834
車賃	1,947,730	1,668,863	278,867
車賃	0	1,150,970	△ 1,150,970
消耗什器備品	24,065	0	24,065
租税	24,300	37,200	△ 12,900
委託託	270,922	213,212	57,710
委託託	54,705	227,850	△ 173,145
補助宣助	50,000	50,000	0
補助宣助	18,000	24,000	△ 6,000
廣告定宣福	0	0	0
廣告定宣福	1,040,983	874,688	166,295
什器備品減価償却	10,132	22,474	△ 12,342
什器備品減価償却	337,000	0	337,000
什器備品減価償却	2,021,050	0	2,021,050
什器備品減価償却	39,600	0	39,600
什器備品減価償却	0	0	0
什器備品減価償却	43,785,885	38,996,669	4,789,216
什器備品減価償却	131,215,133	125,869,286	5,345,847
什器備品減価償却	2,243,601	5,280,028	△ 3,036,427
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,243,601	5,280,028	△ 3,036,427
一般正味財産期首残高(修正前)	105,378,984	130,098,956	△ 24,719,972
一般正味財産期首残高修正額	0	-30,000,000	
一般正味財産期首残高(修正後)	105,378,984	100,098,956	
一般正味財産期末残高	107,622,585	105,378,984	2,243,601
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	30,000,000	30,000,000	0
指定正味財産期末残高	30,000,000	30,000,000	0
III 正味財産期末残高	137,622,585	135,378,984	2,243,601

パソコン、プロジェクター

財産目録及び貸借対照表と一致しないため修正

正味財産増減計算書

(損益計算ベースかつ事業別に区分したもの)

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

公益社団法人 中部日本書道会

(単位 円)

科目	公益目的事業会計		収益事業等	法人会計	合計	備考
	公1	公2	他1			
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
①基本財産運用収入						
基本財産運用収入	9,000	0	0	0	9,000	
②特定資産運用収入						
特定資産運用収入	24,872	0	0	0	24,872	
③会費収入						
評議員等会費収入	6,154,500	0	1,230,900	4,923,600	12,309,000	評議員以上11000円×1119名
正会員会費収入	9,037,000	0	1,807,400	7,229,600	18,074,000	正会員7000円×2582名
準会員会費収入	1,495,000	0	299,000	1,196,000	2,990,000	準会員5000円×598名
協賛会員会費収入	562,500	0	112,500	450,000	1,125,000	協賛会員25000円×45件
未収会費	1,969,000	0	393,800	1,575,200	3,938,000	年会費263人、協賛会費3件
④事業収益						
寿書展収入	0	0	623,000	0	623,000	3000円×185点、4000円×17点
支部展収入	333,000	0	3,742,000	0	4,075,000	支部別内訳参照
支部学生展収入	5,585,065	0	0	0	5,585,065	支部別内訳参照
支部選抜展収入	0	0	453,000	0	453,000	支部別内訳参照

支部研修会収入	0	0	3,310,100	0	3,310,100	支部別内訳参照
支部講演会収入	0	0	0	0	0	
支部講習会収入	0	0	0	0	0	
書道教育者推薦教室看板料	0	0	125,000	0	125,000	25000円×5件
塾総合保険料	0	0	294,830	0	294,830	
会員交流参加料	0	0	228,000	0	228,000	3000円×60人、4000円×12人
公開講座参加料	284,000	0	0	0	284,000	2000円×142人
書道教育研修参加料	0	0	57,000	0	57,000	3000円×有料19人
周年記念事業収入	0	0	0	0	0	
中日展収入	48,238,200	0	0	0	48,238,200	中日展収入内訳参照
中日書きぞめ展収入	6,043,480	0	0	0	6,043,480	400円×約16000点(整理費差引)
愛の募金収入	0	4,503,000	0	0	4,503,000	
本部祝賀会収入	0	0	16,203,000	0	16,203,000	
支部祝賀会収入	0	0	2,881,000	0	2,881,000	支部別内訳参照
⑤寄付金収入						
寄付金収入	72,000	0	0	0	72,000	FAQ VI-1-①
⑥雑収入						
普通預金受取利息	0	0	0	3,230	3,230	
会員名簿広告料収入	0	0	0	990,000	990,000	30000円×33件
宛名ラベル発行手数料収入	0	0	0	315,195	315,195	
負担金収入	96,000	0	0	0	96,000	一宮市芸術文化協会交付金 FAQ VI-1-①
雑収入	0	0	0	608,762	608,762	祝儀・協賛費等
経常収益計	79,903,617	4,503,000	31,760,530	17,291,587	133,458,734	
(2) 経常費用						
理事監事報酬	0	0	0	2,124,011	2,124,011	
名誉会長報酬	0	0	0	225,899	225,899	
名誉副会長報酬	0	0	0	103,780	103,780	
学術顧問報酬	0	0	0	334,112	334,112	
企画委員を兼務する評議員報酬	1,368,763	0	152,084	0	1,520,847	
従業員給料手当	4,068,608	0	508,576	508,576	5,085,760	職員給与・賞与
退職給付	341,600	0	42,700	42,700	427,000	
臨時雇賃金	1,095,953	0	121,772	0	1,217,725	中日展・寿展
報償謝金	2,126,357	0	265,919	265,919	2,658,195	各種謝礼/税理士・司法書士等
報償奨励	7,928,812	0	880,979	0	8,809,791	賞品代・記念品代/支部賞品代・記念品代
報償交際	0	0	264,842	771,121	1,035,963	支部事業交際費/慶弔等
旅費交通費	12,728,555	0	1,414,283	0	14,142,838	作業時交通費等
食糧費	7,552,642	0	839,182	0	8,391,824	作業時交通費等
消耗品費	1,113,765	0	139,220	139,220	1,392,205	
印刷製本費	10,492,196	800,000	3,900,000	3,900,000	19,092,196	会報その他
光熱水費	332,188	0	41,523	41,523	415,234	本部事務所電気、冷暖房
通信運搬費	4,392,800	0	549,100	549,100	5,491,000	電話、郵送料等
手数料	859,633	0	107,453	107,453	1,074,539	振込料
事務所賃料	5,181,430	0	647,678	647,678	6,476,786	本部事務所
使用料	8,724,632	0	1,090,578	1,090,578	10,905,788	会場使用料等/会議室
消耗什器備品費	0	0	0	24,065	24,065	
負担金	0	0	0	650,922	650,922	支部事業支払会費/諸会費
委託料	894,582	0	111,822	111,822	1,118,226	看板作成等/総会等看板
寄託費	0	3,920,000	0	0	3,920,000	愛の募金による寄託ほか
補助助成	0	0	78,000	0	78,000	外国研修補助
法定福利	832,787	0	104,098	104,098	1,040,983	職員社会保険、雇用保険
福利厚生費	112,249	0	14,030	14,030	140,309	
租税公課	0	0	0	24,300	24,300	市県民税
会員交流費	0	0	309,600	0	309,600	
保険料	0	0	0	336,669	336,669	
雑支出	0	0	0	0	0	
対外広報費	6,072,800	0	759,100	759,100	7,591,000	中日新聞ほか掲載料
会議費	3,316,592	0	414,573	414,573	4,145,738	
新聞図書費	0	0	0	39,600	39,600	
表装保管料	1,082,247	0	1,082,246	0	2,164,493	
什器備品減価償却費	8,106	0	1,013	1,013	10,132	備品
本部講演会祝賀会費	0	0	16,111,479	0	16,111,479	
支部展覧会講演会費	0	0	2,584,124	0	2,584,124	
経常費用計	80,627,297	4,720,000	32,535,974	13,331,862	131,215,133	
当期経常増減額	△723,680	△217,000	△775,444	3,959,725	2,243,601	
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△723,680	△217,000	△775,444	3,959,725	2,243,601	
一般正味財産期首残高					105,378,984	平成25年3月31日残高
一般正味財産期末残高					107,622,585	
Ⅱ 指定正味財産増減の部					0	
一般正味財産への振替額					0	
当期指定正味財産増減額					0	
指定正味財産期首残高					30,000,000	平成25年3月31日残高
指定正味財産期末残高					30,000,000	
Ⅲ 正味財産期末残高					137,622,585	

財務諸表に対する注記

法人名：公益社団法人 中部日本書道会
事業名：事業全体

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。
有形固定資産（建物を除く） 定額法

(2) 引当金の計上基準

・職員退職給付引当金
職員に対する退職給付金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込経理方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	30,000,000	0	0	30,000,000
小 計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
定期預金	82,000,000	0	0	82,000,000
本部積立金	2,880,000	594,166	1,566,166	1,908,000
支部積立金	1,730,032	80,026	400,000	1,410,058
小 計	86,610,032	674,192	1,966,166	85,318,058
合 計	116,610,032	674,192	1,966,166	115,318,058

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本金	30,000,000	(30,000,000)	(0)	(0)
小 計	30,000,000	(30,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
定期預金	82,000,000	(0)	(82,000,000)	(0)
本部積立金	1,908,000	(0)	(1,908,000)	(258,000)
支部積立金	1,410,058	(0)	(1,410,058)	(0)
小 計	85,318,058	(0)	(85,318,058)	(258,000)
合 計	115,318,058	(30,000,000)	(85,318,058)	(258,000)

監 査 報 告 書

公益社団法人中部日本書道会
理事長 鬼 頭 正 昭 殿

私たち監事は、平成25年4月1日より平成26年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る決算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成26年5月3日

監 事 伊 藤 義 文 (暁 嶺) ㊞
監 事 柘 英 樹 (英 峰) ㊞
監 事 山 本 のり子 (雅 月) ㊞

喜壽記念 樽本樹邨 書作展

会期 2014年9月10日(水)～16日(火)

会場 日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊

樽本樹邨名誉副会長が来月、東京日本橋三越本店にて喜壽記念書作展を開催されます。
会員のみならずおかれましては、是非御高覧いただきますようお願いいたします。

この度、喜壽を迎えました記念に個展を開催させていただく事になりました。

これまで私なりに古典を今に生かし、古人を己に活かす姿勢を心情にしていまいりましたが、その気持ちをそのまま表現したいと考えました。北魏の書に憧れ楷書や隸書の世界に目を向けていた時もありましたが、蘇東坡の詩句に出会ってからは行、草書にも興味を持ち、今日に到っております。

どうぞ御高覧いただきまして、ご叱正、ご教授賜りますれば幸いです。

樽本樹邨



「燻篋相燻」
103 cm × 90 cm



「善處窮」
33.3 cm × 63.4 cm

樽本樹邨 略歴

- 昭和12年 (1937) 名古屋市に生まれる
- 29年 (1954) 中林子鶴に師事
- 37年 (1962) 日展「許渾之詩」で初入選 (以後連続入選)
- 38年 (1963) 青山杉雨に師事
- 45年 (1970) 謙慎書道展最高賞西川春洞記念賞受賞
- 49年 (1974) 毎日書道展準大賞受賞
- 53年 (1978) 毎日書道展30回記念バリエーション展にフランス親善使節団として訪仏
- 54年 (1979) 中京大学文学部国文学科教授 (平成14年3月まで)
- 57年 (1982) 日展「遊仙詩」で特選受賞
- 58年 (1983) 文部省委員となる
- 59年 (1984) 日展「次韻劉景文送錢蒙仲」で特選受賞 (2回目)
- 平成4年 (1992) 日展審査員就任 (以降6回)
- 5年 (1993) 社団法人日展会員
- 10年 (1998) 外務省より日本文化伝承のためポーランド・ブルガリアへ派遣される
- 11年 (1999) 社団法人中部日本書道会理事長就任 (平成19年度まで)
世界書芸ビエンナーレ展出品 (世界18カ国・於韓国全羅北道)
朝日新聞社「現代二十人展」に参加 (以後連続出品)
- 12年 (2000) 中部日本書道会より名古屋市と姉妹提携都市南京の20周年記念式典に訪中
- 13年 (2001) 世界書芸ビエンナーレ展出品 (世界18カ国)
- 14年 (2002) 中京大学名誉教授
書美術振興会よりパリにて「日本の書展」開催デモンストレーションを行う
- 17年 (2005) 愛知万博で「世界の Sho・日本の書」を中部日本書道会の理事長として企画運営に当たる
社団法人日展評議議員
- 18年 (2006) 全日本書道連盟「中国と交流の旅」で中国書法協会と書道文化交流
- 20年 (2008) 第40回日展「應詔謙曲水詩」(文選)で文部科学大臣賞受賞
- 22年 (2010) 「富陽妙庭観重雙成故宅宛地得丹鼎」(蘇東坡)により平成21年度日本芸術院賞受賞
- 23年 (2011) 謙慎書道会理事長
社団法人日展常務理事



「蘇軾詩」二幅
176.5 cm × 79 cm × 2

- 現在の役職
- 公益社団法人日展理事
 - 謙慎書道会理事長
 - 読売書法会常任総務
 - 全日本書道連盟理事長
 - 公益社団法人中部日本書道会名誉副会長
 - 中京大学名誉教授
 - 現代書道二十人展メンバー



公益社団法人 中部日本書道会 第26回 書道教育研修会のご案内

主催：公益社団法人 中部日本書道会／共催：中日新聞社／後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会 (申請中)

この研修会は、書道教育者の養成及び書道教育の普及を目的として開催します。

◆期 日 平成26年10月13日(祝・月)
◆会 場 名古屋国際センター5階 第1会議室 第3・4・5会議室
〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47-1 電話<052>581-5679(代)

◆受 付 9：25～9：45 (A・Bコース共)
◆内 容 9：45～ 開会式 9：55～10：25 書道講話 中部日本書道会副理事長 伊藤昌石先生

Aコース 第1会議室		Bコース 第3、4、5会議室	
10:30～12:20	漢字 一魅力ある線に一 中部日本書道会 梶山盛涛先生	10:30～12:20	かな 一美しいかな一 中部日本書道会 塚田俊可先生
12:30～13:30	昼 食	12:30～13:30	昼 食
13:30～15:20	近代詩文書 一線とリズム一 中部日本書道会 後藤啓太先生	13:30～15:20	少字数 一線質の変化と作品感一 中部日本書道会 水谷海越先生
15:45～16:00	閉会式 修了証書授与	15:45～16:00	閉会式 修了証書授与

●Aコース・Bコースのどちらか選んで申し込んで下さい。●必ず午前、午後共受講して下さい。

●実技講習ですので用具一式を持参して下さい。

但、基本的文具、教材は会場でも販売する予定です。本年は大玄堂 (TEL 058-271-2662) が出店します。

◆受講資格 本会会員及び一般 (本会会員で書道教育推薦看板申請希望者のうち準会員の方は受講が必修です。)

◆受講料 本会会員無料 一般 3,000円 (教材費)

◆定員 110名 (Aコース・Bコースとも55人以内)

◆申込方法 本部までお申し込み下さい。

〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室
公益社団法人 中部日本書道会 ☎052-583-1900

◆申 込 平成26年9月9日(火) 本部にて申込書到着順に受付します。
定員になり次第締め切りますので早目にお申し込み下さい。

官製ハガキ又は別紙受講申込書を本会に送ってお申し込み下さい。FAX又は電話でのお申し込みはお受け出来ません。
(住所、氏名、電話番号、希望コース、本会会員資格又は一般の別を明記のこと)

平成二十六年年度 公開講座のご案内

第十八回の公開講座を開催いたします。
会員及び一般市民を対象に、書の魅力について本会を代表する二名の講師が担当します。どうぞ聴講ください。

◆期 日 平成二十六年十一月三十日(日)

◆会 場 電気文化会館イベントホール (5F)

名古屋市中区栄二丁目二十五

☎〇五二一四〇四一三三三

※期日・会場は予定です。変更になる場合があります。

◆講 師 第一講座 未定

第二講座 未定

◆会 費 無 料

(ただしテキスト・資料代として千円をいただきます。)

◆対 象 会員及び一般市民(十五

才以上)で原則として二講座とも聴講できる方。定員百五十名

◆申込方法 はがきに聴講希望者の、住所・氏名・電話番号を

明記の上、左記申込先までお送り下さい。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

聴講決定者には後日詳細案内をお送りいたします。

◆申込先 〒四五〇一〇〇二一

名古屋市中村区名駅二丁目四十五番十九号

桑山ビル八階C号室

☎〇五二一五八三一九〇〇

公益社団法人 中部日本書道会 公開講座係

担当 研究部長 廣澤凌舟

主 催 公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社

後 援 愛知県教育委員会・名古屋市中村区教育委員会 (申請中)

受 付	12：30～
開 会	13：00～
第一講座	13：15～14：15
第二講座	14：35～15：35
閉 会	15：35～16：00
	修了証授与

第六十六回 毎日書道展 (東海展)

会期 八月二十六日(火)～三十一日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー
名古屋市民ギャラリー栄

第三十一回 読売書法展 (中部展)

会期 九月十七日(水)～二十一日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー
愛知県産業労働センター

社中展・個展のご案内

○第五十回 麗筆会展

代表 武山翠屋
会期 九月十九日(金)～二十一日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。
会報には案内原稿を、HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。
次号(十月号)は十一月中旬から翌年二月中旬までの展覧会を掲載する予定です。
編集部

第二十三回 壽書展 開催

会期 十一月二十六日(水)～三十日(日)
会場 電気文化会館
(五階 東・西ギャラリー)

・多数のご出品をお待ち致します。
・詳細は後日

新入会員紹介 (四・五・六月分)

- 本部 磯辺 花泉 青木 和馨 伊藤 信子
- 半田支部 川合 碩山 戸崎しよ子 堀内 信子
- 一宮支部 服部 千菜 堀内 信子
- 西三河支部 川本 青枝 服部 千菜 堀内 信子
- 岐阜支部 渡邊美智子 石川 玲香 大野 早加

塾総合保険のご案内

本会では、書道塾を経営されている会員の先生方のバックアップと、塾生の安全と安心のために「塾総合保険」を行っております。
生徒一名に付年額一三〇円で大きな保障となっております。年度途中での加入もできます。保険期間は、その年の十月一日から翌年十月一日までとなっていますが、年度途中の場合は、加入した日から平成二十七年十月一日までとなります。
この保険は、本会と保険会社が直接契約しているものであるため、少人数でのご加入ができ、有利な条件となっております。事故はいつ起こるか分かりません。生徒さんの安心と安全のために是非ご加入ください。又既に加入されている皆さんは十月一日が期限ですから、忘れずに契約更新を行ってください。資料請求、申し込みは本部まで。

補償内容		対人賠償補償限度額	対物賠償補償限度額	賠償責任補償限度額
賠償事故	塾経営者	1名 2,000万円	1事故 1億円	1事故 2,000万円
		1事故 100万円		
傷害事故	生徒 法定監督義務者	死亡・後遺障害保険金額	100万円	
		入院保険金日額	1,000円	
		通院保険金日額	500円	
		保険料(生徒1名につき年額)	130円	

(注) 賠償事故の場合、1事故につき1,000円を自己負担していただきます。生徒の賠償責任で補償限度額は、対人、対物賠償合わせて1事故のみの適用となります。

訃報 (四・五・六・七月分)

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

- 4月1日 評議員 梅村絹子氏 享年89才
- 4月22日 正会員 岡田瑞雪氏 享年73才
- 4月26日 参与 高木紅宇氏 享年83才
- 4月29日 正会員 八木 進氏 享年86才
- 5月14日 評議員 山内和之氏 享年96才
- 5月18日 評議員 平野文子氏 清治様 享年92才
- 5月22日 正会員 関谷洋子氏 享年79才
- 5月29日 評議員 岡田瑞雪氏 享年83才
- 6月9日 評議員 岡田麗峰氏 享年31才
- 6月14日 評議員 杉浦寿美氏 享年81才
- 6月16日 評議員 高木紫光氏 享年92才
- 7月4日 正会員 高木香波氏 享年66才
- 7月5日 評議員 田中隆豊氏 享年65才

《お詫び》

会報一七二号に掲載しました第六十六回毎日書道展審査員に、漢字I類 川崎尚麗氏が漏れていました。お詫びして訂正させていただきます。

あとがき

・第一七三号中日会報をお届けいたします。
・今号は八十周年記念事業等の関係で、九十ページに及びましたが、お時間をとって是非ご通読下さい。
・この行事を機に本会が更に発展出来ますように祈願…。
ご協力をお願い致します。